

福岡第一師範學校
(學校圖書)

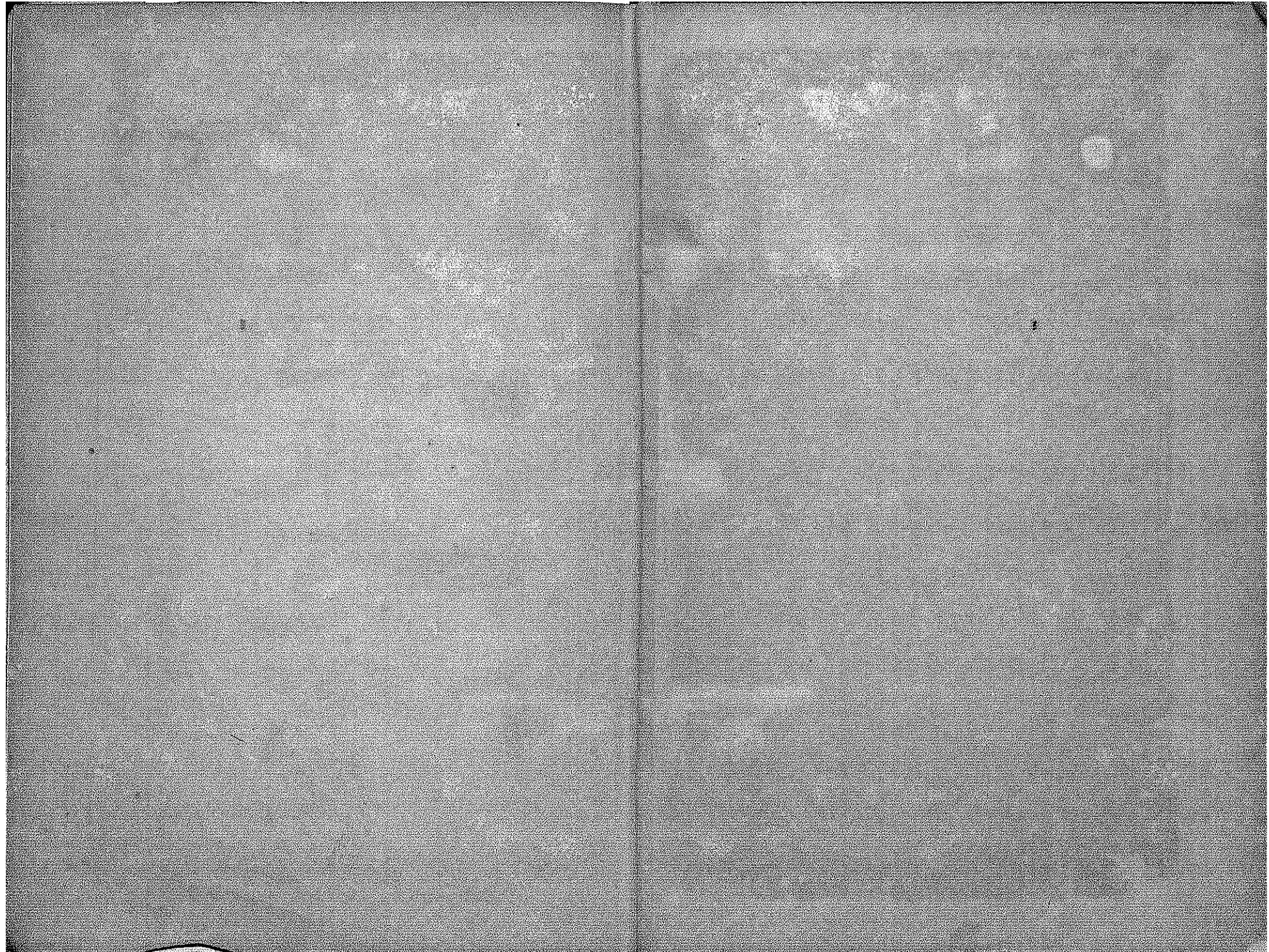
登錄 番号	第
種別	
冊数	
目次	
全冊	第
分類 番号	150.15

號
2冊 / 內

150.15

號數		換 類 修身部
冊數	9	

國民教育圖書



威氏循身學

明治十一年十二月

上册
和書

文部省印行

064031382968863

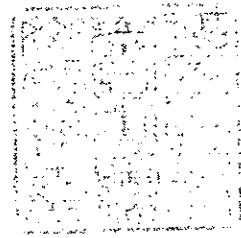
福岡教育大学蔵書

文
大
福

是書原語「イレメンツ、オフ、モレール、スサイエンス」ト曰フ即初學脩身
學ノ義ナリ米國ブローン大學校長脩身學博士威蘭士ウエーランド氏ノ著述ニシテ
西曆千八百七十四年米國ボストン府ノ印刷ニ係ル今譯シテ以テ世ニ
公ニス

明治十一年三月

譯者 識



脩身學原序

新ニ脩身學ノ一書ヲ世ニ公センニハ先ヅ然ラシムル所ノ時勢ト其目的トスル所ヲ説クヲ要ス余ブローン大學校ニ於テ脩身學ヲ以テ教授職ニ任ゼシトキニ講義ニ用井タルハ博士パーレー氏ノ書ナリシ余其理論ニ同意スルコトヲ得ザルコトアリテ首ニ生徒ニ對シテ同氏ノ説ノ取り難キ所アルヲ述べ且平常談話ノ狀ヲ以テ同氏ノ論説セル題目ニ就キテノ我意見ヲ陳スルヲ以テ足レリトシ且其自便ヲ計リ隨テ陳シ隨テ記シ以テ一部ノ講義トナシテ示教セリ居ルコト數年其書浩瀚驚クヘク吾教授ニ用井ルパーレー氏ノ書ト自カラ相異ナル休質ヲ備フルニ及ベリ余是ニ於テ二者ノ相異ナル休質ヲ示スノ不便ヲ避クル

ガ爲メニ其繁ヲ刪リ其缺ヲ補ヒ秩然序アリ以テ其レヲシテ頗ル完全ナル書ト成ヲシメタリ然後ニパーレー氏ノ書ヲ廢シ獨リ此書ヲ以テ教授スルコト此ニ年アリ幸ニ此工夫ノ成功アル我望ニ過ギ遂ニ我ヲシテ其生徒ニ授ケシモノヲ擧ゲテ世ニ公ニセハ脩身學ヲ脩ムルニ多少裨益アルベシト思想セシメタリ是書ノ品性固トニ此ニ基キテ而シテ其教導ノタメニスル故ニ其趣意ハ單純明白ニシテ專人ノ訓誡トナルニ在リ余放談肆辯スルコト甚少ニシテ務メテ簡畧語ヲ用井テ修身法及其道理ヲ講論スルノ外爲スアルヲ欲セズ夫ノ道理ヲ解クニ典故ヲ歷舉シ若クハ之ヲ人生平日ノ事實ニ驗スルコトノ如キハ大概教師及生徒ニ委セリ故ニ我レト意見相異ナル所ノ談ハ一切ニ之ヲ廢却シ且

四
彼レノ意見ヲ指斥スルモノ極テ鮮ナシ然ラザレハ余ノ企望ヲシテ大ニ吾ガ設クル所ノ限界ヲ超過セシムベシ而シテ是レ余ノ所懷ノ目途ニ属セザルニ似タリ凡ソ務メテ眞實ノ事ヲ示顯スルノ書ハ夫非斥スベキモノヲ指摘シ疑ハシキモノヲ論說シ虛偽ナルモノヲ辨駁スルモノニ勝ルヲ覺ユ

此書ヲ作ルノ際ニ余ノ引用スル所ノ書ハ僅ニ數卷ニ止ル故ニ數人ノ意見言論ヲ掲クルニ過ギズ是レ自一書ヲ創作スルノ功ヲ獨占セント欲スルガタメニアラズ亦唯其人ノ允諾ナキニ其功ヲ奪テ以テ我有トスルノ嫌ヲ避ケント欲スレバナリ蓋余此業ニ着手スルニ方リ博ク書ヲ讀ムヲ務メタリシニ尋テ以爲ラク當然ノ結果ヲ得難シト遂ニ吾ガ

地歩ヲ占メテ專ラ己ノ思想ニ倚賴セリ故ニ其意見應ニ他ノ諸子ト符合スルモノアルヘシ自ラ其然ルヲ知ルモノハ必之ヲ語グ語ダザルモノハ之ヲ知ラザルノ故ト察スヘシ抑牧師ブツトレル氏ハ余ノ尤恩惠ヲ荷フノ著作家ナリ本書良心篇ハ蓋シ同氏ノ此事ニ就テ構造スル意思ノ著見ニ係ル者多シトス余此無雙ナル著作家ニ感佩スルノ大ナル殆ト謝スル所ヲ知ラス余ノ始テ脩身學ニ着意セシハ同氏ノ人性論ヲ讀ムニ因レリ其他從テ得ル所ノ思想甚多シ然レドモ余ノ思想ト相混合スルコト既ニ久キガ故ニ復タ其源ニ溯リテ辨別スル能ハズ若シ夫レ安息日ノ篇ハ本書中ニ記スルガ如クシエー、シエー、グル子―氏ノ此事ニ就テ設クル所ノ說ニ基クモノ甚多シ而シテ聖書ニ關スルノ意

見ニ至リテハ書中説ク所ノ如シ故ニ今此ニ聖書ハ道德ノ眞理ノ大本
 タリ及ヒ一部ノ脩身學ハ聖書ノ意義ヲ發達スルノ量ニ從テ純正ナル
 ベシト考論スルハ必シモ緊要ニ非ズ此レ正ニ余ノ目的ナリ而シテ此
 ノ如キ從順ナル方法ヲ以テ之ヲ達スルヲ得バ其成功タル果シテ淺少
 ナラザルベシ

此緊要ナル學問ニ關シテ敢テ書ヲ世ニ公ニスルハ余モ亦大ニ畏懼ノ
 心ナキニ非ズ然レドモ世人此ニ類似スル者ヲ求ムルコト既ニ久シク
 而シテ余ノ職能ク我ヲ最メテ之ヲ著作セシメ而シテ余益世ノ念又遂
 ニ公世ノ辨備ヲナスニ至レリ幸ニ惟余眞理ヲ曉明スルヲ得レバ固ヨ
 リ可ナリ然ラザルモ覽讀ノ諸子ノタメニ余ノ誤見ヲ看破セ

極テ少ナキヲ希望ス而シテ余ニ因テ以テ人間ノ職務ヲ講學ト
 ヲ幾分カ發明スル者アラバ則我ニ開悟ノ才ヲ賜ヘル神明ニ對シテ余
 ノ感佩果シテ如何ソヤ且道德ニ對シテ公義ヲ行ヒ得ルコト余ニ勝ル
 者アリテ余ノ不敏ヲ慨シ更ニ功利アル事業ニ着手セバ余ノ欣喜亦少
 小ナラサルヘシ

千八百三十五年第四月　ブローンン大學校ニ於テ記ス

○

再刊原序

此書再刊ノ舉意外ノ急迫ヲ要セリ余爲メニ事暇ヲ覩テ之カ訂正ヲ加
 ヘタリ

此書ノ第一刊ハ偶然ノ故ニ會シ不幸ニシテ印刷精整ヲ欠キタリシ今
 回ハ此ノ如キ疎慢ノ責務メテ少カラシテ欲セリ且書中二三ノ語及說
 述ノ法ヲ改ムルモノ數所亦アリ然レドモ此レ只言詞上ニ止マル意義
 ニ至テハ曾テ變更セシ所ナシ

此書ハ吾高等學校ノ教課ニ供スルカ故ニ今其目的ヲ遂グルニ便ナル
 方法ヲ示指スル左ノ如シ

第一 誦誦室ニ於テハ師弟共ニ書ヲ把ルベカラス
 第二 前日ニ授ケテ課業トナス部分ハ生徒ヲシテ綱領條目共ニ講學
 セシメ以テ序ヲ逐フテ之ヲ誦誦シ及教師ノ助力ヲ借ラスシテ各部分
 ノ交互ノ關係ヲ著明スルヲ得セシムベシ教師生徒ノ爲メニ作者ノ一

言一語ヲ擧ゲテ遺漏ナク之ヲ授クルハ固ヨリ無用ニ屬シ唯其意見ヲ
 傳フルヲ以テ足レリトス又其間ヲ設クルハ此書ニ照シテ證定スベキ
 理論教道ノ實地ニ施行スベキコト及之ニ反シテ生ズル異論等ニ在ル
 ベシ

第三 今日誦誦セシ課業ハ明日再之ヲ檢スベシ

第四 書ヲ讀ミ來リテ頗篇ヲ累ヌレバ再卷首ヨリ之ヲ檢スベシ但其
 量ハ一課業コトニ二三日前ヨリ誦誦セシモノニ過ギズシテ論說ヲ立
 ルコト冗長ナラズ説明ヲ設クルコト簡潔ニ止マルヲ要ス

第五 既ニ誦誦セシ部分ヲ全ク檢了スレバ更ニ又檢査ヲ始メ漸次ニ
 此方法ニ從テ一部ノ書ヲ檢シ然後方ニ止ムベシ此手段ヲ用弗レバ生

徒ハ些子ノ勉力ヲ以テ其修學中ニ學得セルモノヲ記憶シ而シテ全一部ヲ卒業セシトキニ方リ首ヨリ尾ニ至ルマデ逐一ニ論說ヲ講究シ爲メニ唯獨個ノ理論ノミナラズ並ニ其彼此相關スルコトヲモ辨明スベシ
然レドモ此修學ノ方法ヲ用非ルニ由テ生ズル所ノ利益ハ是書若クハ他書ヲ十分ニ曉通スルニ止ラズ事物ヲ見テ其心裏ニ思想ヲ凝ラスノ地ヲ現出スルガ故ニ論說ノ長大ナル脈絡ヲ探索シ理義ノ接續スル鎖鏈ヲ檢覈審判スルノ才力ヲ養成シ且生徒ヲシテ自己ノ心裏ニ固ヨリ考究スル所ノモノヲ存有スルニ慣レシムルナリ
余以上ノ示指ヲ設クルモノハ敢テ此書ハ教師タル者最當ニ着意スベ

キニ足ルトイフニ非ズ唯余此手段ヲ慣用スルコト久シク其吾生徒ニ益アルヲ確知スルニ由リ舉ゲテ以テ之ヲ余ト同職者ニ示與スルハ當然ノ職タリト思フガ故ナリ他ノ教師ハ他ノ手段ヲ用非テ更ニ成功ヲ得ルアラシ余ノ如キハ此ヲ以テ利スル所最多シトセリ
余友人ノ言ニ從ヒ此書ヲ縮裝シテ十二頁ノ小冊トナシ以テ小學ノ用ニ供セント欲ス幸ニ職務ノ間暇ヲ得バ務メテ速ニ之ヲ世ニ公ニスベシ

千八百三十五年第九月 フロートン大學校ニ於テ記ス

○

改正脩身學原序

余此書ヲ教導ニ用非講堂ニ在テ自由ニ談論セシコト多年由テ多分ノ利益ヲ致セリ思フニ書上ノ理論中ニ幾分ノ改更ヲ要スルモノアリ又更ニ理會シ易キ状態ヲ以テ説述スベキモノアリ故ニ余教授職ヲ休ムルノ日ヲ待テ從來久ク示教セシモノヲ親ラ訂正スルニ着手セリ爾後病ニ罹リテ業ノ進歩ヲ妨ゲラレ筆硯ヲ廢スルモノ二三年健安ニ復スルノ後再勞ニ任シ業成ルニ及テ刊行シ以テ衆ニ示セリ書中ノ多部ハ改更セザレドモ某章ハ少シク之ヲ改メ其一二ハ全ク改善セリ其勞力此ノ如キニ因テ此書ノ善美復舊觀ノ如キニアラザルヲ希望ス

余前ニ刊行セル書ノ特ニ少年教師ノ爲メニ親厚ノ情ヲ以テ眷顧セラレシヲ感謝シ又今刊行スル書ノ脩身道ヲ教ル貴重ノ業ニ於テ彼等ヲ

助クル更ニ多カラント希望シ以テ敢テ其覽觀ニ供ス採録セララル、ヲ得ハ幸甚ナリ

千八百六十五年第八月 プロウイデンスニ於テ記ス

脩身學上册目次及綱領

第一書 論說上ノ脩身學

葉數

一

第一篇 動作ノ質ニ是非善惡アリ意見ヲ此ニ着ケザ

ルベカラザルノ原因ヲ論ズ

第一章 脩身ノ法

一般ノ法ヲ論ズ 脩身法ヲ論ズ
脩身法ハ變ズベカラズ

第二章 脩身ノ動作ヲ論ズ

八

動作ヲ論ズ
脩身ノ動作ヲ論ズ

第三章 動作中何ノ部分ニ是非善惡ノ質アルコ

一八

トヲ發明スベキヤ

第四章 動作ノ質ヲ是非善惡ト思想スル意思ノ由 二六

リテ來ル所ヲ問フ

人ノ意思ハ固有ニ非ザレバ由來ノモノナリ○道德ノ意思ハ
固有ニ屬ス○審判力ニ由來スルニ非ズ亦至大ノ幸福ヲ得ベ
シトノ意思ニ由來スルニ非ズ○詰問ニ答フベキ答辯ヲ揭示
ス

第二篇 良心即道心 四七

第一章 此ニ良心アリヤ

數件ノ故障ニ答辯ス

第二章 是非邪正ノ意思ヨリ直ニ出ル所ノ心中ノ 五七

狀ヲ論ズ

第一義務ヲ行フベシト思フコト○第二行ハシメ行ハザラシ

ムルノ心○第三良心ニ從ヒ從ハザル由リ苦樂來ル○第四希望ノ念之ヨリ來ル○第五此念ハ一定ノ質アリ○第六此念ハ變ズベカラザルモノナリ○第七企望スル所ハ皆ニ分明ナルノミナラズ○第八人皆行爲ノ善惡ニ從テ必其應報アルヲ視察スルヲ好ム○第九無罪ハ勇剛ニシテ有罪ハ怯懦ナリ

第三章 良心ノ威權

七五

此能力ノ何タルヲ見ルニ因リ其威權ノ貴キヲ知ル○人ト禽獸トヲ比較スルニ因リ之ヲ知ル○人ノ成造セラル、所以ノ目的ヲ遂グルニハ良心ノ高貴ナルヲ欠クベカラズ

第四章 良心ノ脩養ヲ論ズ

一〇二

良心ハ辨明スルカアリ○推動スルカアリ○苦樂ノ基タリ

第五章 道德ノ舉動ノ規則

一一一

一動作ヲ行ハント決定スル前ノコト○既ニ行ヒシ後ノコト

第三篇 德行ノ性質

一三二

第一章 德行ヲ概論ス

一三三

第二章 完全ナラザル人物ノ德行ヲ論ズ

一三九

此ノ如キ人物ノ義務如何○人ト修身法ニ於ル關係○習慣ノ道德ニ關係スルコト

第四篇 人間ノ幸福

一六五

幸福ハ嗜欲ヲ快クスルニ在リ○然レドモ制限ヲ越テ之ヲ快クスルヲ得ズ

第五篇 自愛ヲ論ズ

一七五

自愛ノ性質○自愛ノ階級

第六篇 良心ハ完全ナラザル所アリ更ニ道德ヲ照

一九〇

ス他ノ知識アルヲ要ス

良心ノ完全ナラザルヲ論ズ○之ニ増加スル知識ノ必要ナルコトヲ説ク○此レ何様ノ知識ナルヤ

第七篇 自然教法ヲ論ズ

二〇五

第一章 自然ノ知識ニ因テ人ノ職分ヲ辨ズ
ル所以ノ方法 二〇六

一般ノ應報ヲ以テ之ヲ辨ズ○故障ニ就キテ考論ヲ設ク

第二章 自然ノ知識ニ因テ人ノ職分ヲ發明
スルコト幾許ゾヤ 二一六

此知識ヲ以テ得タル知識○此知識ニ示導セラル、ノ理由

第三章 自然教法ハ道德ノ訓導タルニ缺乏
スル所アリ 二二四

此レ事實ヲ視テ明ナリ○此缺乏ノ原由

第八篇 自然教法ト著顯教法トノ關係 二三五

何様ノ希望ヲ有ツヤ○聖書ニ於テ果シテ希望スル所ノ如クナルヲ確證スニ如何

第九篇 聖書ヲ論ズ 二四五

第一章 聖書ノ主要トスル所ヲ論ズ 二四六

舊約全書○新約全書

第二章 聖書ヲ見テ人ノ職分ヲ辨明スルノ方
法如何 二四五

聖書ノ説ク所ニ就キテ人ノ准則スベキモノ○聖書ノ説ク所ニ就キテ人ノ准則スベカラザルモノ○人ヲシテ道徳ヲ學バシムルノ具ニ供ス

第二書 實地上ノ修身學 二七三

第一部 上帝ヲ愛スルコト即信心ヲ論ス 二七五

第一篇 上帝ニ對シテ高等ノ親愛ヲ盡スベキ一

般ノ義務

上帝ト其造物トノ倫○此倫ヨリ生ズル權理義務○此
レ衆人ノ天性ニ適ス

第二篇 敬神ノ心ヲ修ルコト

三〇五

第三篇 祈禱ヲ論ズ

三二五

祈禱ノ性質○祈禱ノ職務○祈禱ノ利益

第四篇 安息日ヲ守ルコト

三三五

安息日ノ根原、定規○摩西ノ安息日○基督ノ安息
日○安息日ヲ守ル所以ノ方法○市政長官ノ職分

威氏脩身學 上册

大井鎌吉 譯

○第一書 論說上ノ脩身學

○第一篇 動作ノ質ニ是非善惡有リ意見ヲ此ニ着ケサルヘ

カラサルノ原因ヲ論ス

○第一章 脩身ノ法

脩身學ハ身ヲ脩ムル法ノ學問ナリ身ヲ脩ムルノ法果シテ何如ト問フ
ハ此學ノ第一義ニシテ先ツ法ノ何者タルヲ究メ次ニ其法ノ身ヲ脩ム
ル所以ヲ繹ヌヘシ蓋法ノ大旨ハ物ノ目前ニ現在スルノ方法若クハ因
ニ應シテ果生スルノ理ヲ示スノ詞ナリ故ニ愛昔紐頓法ノ第一件ニ萬
ナイザグニヤン

物止ムコトヲ得スシテ某力ノ爲メニ其地位ヲ變スルニ非サレハ安靜ノ所ニ止リ或ハ正直ニ不易ノ運動ヲ行フヘシトイヘリ是物ノ目前ニ現在スルノ方法ヲ示セルナリ

又運動第三ノ法ニ二物相觸ル、所ノ動作ニハ皆力均シクシテ相反スルノ抵抗ヲ致ストイヘリ是因ニ應シテ果生スル理ヲ示セル者ニシテ即一事ノ起ルニ當リ人々由リテ以テ存スル所ノ元氣モ亦此ニ從テ變スヘキガ如キノ類ヲ言フナリ

數學中ノ定理モ亦此ト同シクシテ左右ニ同シク一物ヲ置キ各之ニ一物ヲ加フレハ其全數ハ左右トモ同シト云是數量ニ關シタル定理ニシテ其應報モ亦明ナリ

化學ノ法モ此ト均シキ理アリ譬へハ鹽酸ヲ曹達ニ加フレハ其結果ハ食鹽ヲ得ルヲ法トスルカ如シ

智學ニ於テモ亦然リ物体ノ見ル可キモノ眼網ノ上ニ生シテ感覺則神經ヨリ腦ニ送ラル、時其結果ハ了悟ノ作業ナリ

法ヲ人民ノ交際上ニ説クモ亦其義此ト同シクシテ某件ノ動作ト賞罰ノ方法トノ間ニ一定ノ應報有ルヲ示スハ即法ナリ法ノ意義皆此ノ如シ

修身學ノ主トスル所ハ人ノ動作ニ是非善惡ノ質アリテ是非サレハ非ナリ善ニ非サレハ不善ナルコトヲ明ニスルニ在リ人或ハ智トシ或ハ愚トシ或ハ敬トシ或ハ慢トシ或ハ禮有リトシ或ハ禮無シトシ又是

四
ヲ以テ非ト爲シテ思考スルコトアリト雖モ動作ノ效驗ハ然ラス必其實質ニ從テ相配スル者ナリ今且是非善惡ノ質ヲ舉ケテ之ヲ例セン爰ニ二人アリテ同シク虚言ヲ發セリ甲ハ其虚タルコトヲ知ラス認メテ眞トナセルナリ乙ハ固ヨリ其虚タルコトヲ知ルト雖モ之ヲ以テ人ヲ欺カンコトヲ要スルナリ而シテ此動作ノ效驗ハ各同シク聞ク者ニアリテハ共ニ其欺ヲ受ク然レトモ甲ノ動作ハ過誤ニ出テ、實質罪惡ナルニ非ス乙ノ動作ハ故意人ヲ欺クニ在レハ其効驗更ニ生ジ既ニ自ラ品行ヲ害シ又交友ノ尊信ヲ失フヲ免レス故ニ概シテ之ヲ言ヘハ脩身學ハ人ノ動作ニ是非善惡ノ實質アルコトヲ明ニシ亦我カ造物者ハ必其實質ニ配スヘキ應報ヲ與フル者タルコトヲ思考スルヲ勉ムルナリ

是ヲ以テ修身ノ法ハ動作ノ是非ノ質ト結果トノ間ニ一定ノ應報アルヲ示ス者タリ然ラハ則脩身學ハ其法ヲ類別シテ辨明スル所ノ學問ナリト知ルヘシ

夫既ニ應報ニ一定ノ次序有レハ必之ヲ一定スル者アラン故ニ修身學ハ萬物ヲ此ノ如クニ製造シ之ヲシテ各其負擔スル所ノ倫理ニ從ハシムル造物者アリト思考スルヲ勉ムルコト猶他ノ初學ニ於ケルカ如シ凡万物負擔スル所ノ倫理ハ修身上ト物理上トニ論勿ク皆造物者ノ制定ニ出ツル者ナレハ一度修身上ニ一定セラレシ應報ノ變スベカラサルコトハ猶物理一定ノ應報ノ變ズベカラザルガ如シ然ラハ人擅ニ上帝ノ修身法ヲ變スヘカラサルハ亦猶物理ノ法ニ於ケルガ如シ上帝既

二人ノ動作ノ質ニ配セル所ノ效驗ハ世間ノ創造力ニ關セスシテ必顯
 ハレ決シテ避クヘカラス決シテ除クヘカラサルコト猶物理上ニ重力
 ノ法有リテ之ニ因リテ來レル應報ノ免ルヘカラサルカ如シ今物理上
 ニ於テ其一例ヲ舉ケン此ニ人有リテ懸崖ヨリ跳リ下ル時其智計ヲ運
 シテ重力ノ逼壓ヲ免カレ地ニ落ケサランコトヲ欲シ又一人有リ物ヲ
 以テ空中ニ懸ケラレタル時己ノ意ヲ以テ地ニ下ランコトヲ欲スル是
 皆愚ニ非サレハ狂ナリト謂フベシ故ニ脩身ノ理ニ於テ其應報ハ上帝
 ノ定メシ所ナルコトヲ信スル者ハ必其脩身法ヲ犯シテ罪責ヲ受ケザ
 ランコトヲ欲スト雖モ亦得ベカラサルヲ知ルベキナリ
 人常ニ自許シテ縱令脩身法ヲ犯ストモ幸ニシテ上帝ノ定メタル應報

ナ免ル、コトヲ得ヘシト思フ者アリト雖モ是決シテ其理ナキナリ物
 理ノ法ハ應報ノ源因ニ隨フコト極メテ迅速ニシテ常ニ一定時間ノ後
 必運リ來ルト雖モ脩身ノ理ハ其結果甚ダ遅クシテ應報ノ來ル常ニ一
 定ノ期無ク惡ヲ懲ラスノ審判速ナラサルニ似タルヲ以テ人タル者惡
 事ヲ作スノ念ヲ懷クコト少カラス夫時ニハ長短有リト雖モ定マリタ
 ル應報ノ期ヲ變スヘキ權力アルコト無ク亦意趣有ルコト無シ故ニ草
 木其類ノ異ナルニ從テ其生長ノ時モ亦同シカラスト雖モ麥粒ハ常ニ
 麥ヲ生シ櫟實ハ常ニ櫟ヲ生ス今脩身ノ理ヲ明ニセンガ爲メニヘーゼ
 シノ名 異教徒 徒ノ詩ノ語ヲ掲ケテ此ニ示サン
 刑罰ノ追逐或ハ遅シト雖モ前行ノ罪人縛ヲ免ル、コト希ナリ

レス詩集第三卷第二章

所謂「欺カル、勿レ」「上帝ヲ瀆スベカラス」「之ヲ詩ク者ハ亦之ヲ獲ルベシ」等ノ語ハ常ニ服膺セサルヘカラス又宜シク常ニ脩身上及物理上ニ於テ收穫セシ物品ノ量ハ必其由テ生スル所ノ核子ヨリモ多シトイフコトニ注意スヘシ

○第二章 脩身ノ動作ヲ論ス

アクション即動作ト云フ英語ハ羅甸語ノアゴ即吾ノ所爲ト云フ語ノ轉ジテアクショント云ヘル語ヨリ來レル者ニシテ行事即力ノ發見ヲ謂フナリ

然レモ修身ノ動作ノ爲メニ力ヲ發見セラルヘキハ何如ナル形勢ナリ

ヤ

第一 人皆器械ヲ多力ナル者トシ蔬菜ヲ葉ヲ生スル者トシ樹木ヲ枝ヲ横タフ者トシ葡萄ヲ架上ニ蔓ル者トスト雖モ此ノ如キ力ヲ以テ決シテ動作ト謂フコトヲ得ス

第二 心志有ル者ニシテ即力ヲ顯サンコトヲ欲スレハ直ニ之ヲ顯スコトヲ得ヘキ者ノ所爲ノミ之ヲ動作ト謂フ生活物ノ勞力固ヨリ其心志ト相配セサルコト明ナレハ此ノ如キ勞力ヲ以テ動作ト謂フコトヲ得ス

第三 動作有ル者ハ才智有ル者ニ止マレリ即意ヲ將來ノ結局ニ注シテ其事ヲ成スヘキ至要ノ方法ヲ用非得ル者是ナリ夫動作ハ事ノ既ニ

行ハレタル者ニシテ即變化ノ成レルナリ而シテ人ハ唯既往ノ一定セシ事跡ニ因リテ變化ヲ成スモノナルカ故ニ人苟モ動作有レハ必變化行ハレ此變化ヲ成サンカ爲メニ必用非得ヘキノ方法有リ

第四 是皆人ニ生スル者ニシテ人ハ預メ其力ノ發見セル結果ヲ知り得ヘキノ才有ル自由ニシテ明敏ナル者故此ノ如キ力ノ發見ハ皆其心志ニ從テ成ル者ナリ然ラバ人ヲシテ皆脩身ノ管轄ニ服從セシムヘシ人預メ其動作ノ結果ヲ知ルニ及ヒテ之ヲ行ハンコトヲ欲スルモ亦行フコトヲ欲セサルモ皆自由ナリ今之ヲ行ヒテ樂ミ之ヲ行ハスシテ樂マサルハ是皆結果ニシテ此結果ノ外ニ他ノ結果ノ自來リテ動作ト相配スルヲ以テ之カ爲メニ其志欲中ゴロ轉スルコトアリ。夫人ヲ刺セハ

其人必死スヘキハ衆ノ知ル所ナリ今之ヲ刺サンコトヲ欲スルモ亦刺サ、ランコトヲ欲スルモ其權中ニ在レハ其權ヲ肆ニシテ其欲スル所ヲ遂ケテ以テ快樂ヲ求ムヘキカ曰ク不可ナリ何ナレハ他ノ結果必交際上ニ由リテ動作ト相配シ自ヲ其效驗ヲ見ルニ至ラン譬ヘハ人ヲ殺セハ政府ノ誅有リ不善ヲ行ヘハ朋友ノ責アリ此效驗アルヲ以テ之ヲ爲サンコトヲ欲スルノ意切ナリト雖モ更ニ正義ノ一着ヲ顧ミテ寧之ヲ爲サ、ルコトノ宜キヲ撰フニ至ル是人ヲシテ修身ノ管轄ニ服從セシムヘキノ證ナリ然リ而シテ人ヲシテ此ニ至ラシムルノ要豈此ニ盡クルカ抑禽獸ニハ此性無キカ禽獸ハ自由ト靈智ノ主タルコトヲ得サルカ又將禽獸ハ結局ノ何如ヲ知ルニ足ルト雖モ其結局ヲ成スヘキ至

要ノ力ヲ顯スコト能ハサルカ又將禽獸ハ人ヲ害スルコトヲ計ルノ急ナルヲ以テ其方法ヲ撰フコト能ハサルカ又將吾ヨリ配スル所ノ結果未以テ禽獸ノ心志ヲ感セシムルニ足ラサルヲ以テ或ハ其動作ノ力ヲ禁シ或ハ其動作ノ力ヲ進ムルコト能ハサルカ答テ曰ク否吾若シ其吾ヲ害スルヲ防ガンコトヲ欲スレハ之ヲ恐嚇シ吾若シ之ヲシテ其努力ヲ致サシメンコトヲ欲スレハ之ヲ愛護ス是吾結果ヲ以テ其動作ト相配シ或ハ其力ヲ禁シ或ハ其力ヲ進ムルコトヲ得ルナリ然ラハ禽獸ヲシテ修身ノ管轄ニ服從セシムルコト亦猶人ノ如クナルコト必セリ夫レ此ノ如クナラハ禽獸ノ自由ノ動作ト人ノ修身ノ動作ト豈異ナル所有ンヤ禽獸其子ヲ殺スコト有レハ人モ亦其兒ヲ殺スコト有リ是人モ

禽獸ト其動作ヲ同シクスルナリ今此動作ハ果シテ其品質ヲ同シクスルカ吾此動作ヲ爲ス者ヲ遇スルニ一様ノ方法ヲ以テシテ其結果ヲ望ムコトモ亦同シカルヘキカ意フニ一人モ確實ニ此間ニ答フル者有ルコト無ケン吾常ニ憐ヲ禽獸ニ加ヘテ人ニ對スレハ必怒ヲ含ミ何爲レソ吾ニ痛傷ヲ與ヘタル何爲レソ吾ニ患害ヲ施セルト曰ヒ心ニ必其人ノ罰ヲ受ケンコトヲ希望スト雖モ禽獸ニ對スレハ決シテ此ノ如キノ思想無ク又人ヲ斥シテ邪曲ノ事有リト言フト雖モ禽獸ニハ責ムルニ此ノ如キノ言ヲ以テセサルナリ吾ノ禽獸ニ於ケル唯之ヲシテ其過失ヲ忘レス敢テ再犯サ、ルコトヲ勉メシムルニ止マリテ更ニ復施スヘキノ術ナシ人ニ至リテハ此ニ異ナリ唯之ヲシテ再其罪ヲ犯サシメサ

ルノミナラス又中心ヨリ思考シテ其過ヲ懺悔シ自品行ヲ改メンコトヲ勉メシムルコトヲ得ヘシ
 蓋此思考ハ以テ人ノ動作中ニ一ノ元質有リテ禽獸ニハ其元質無キコトヲ知ルノ證トスルニ足レリ此元質ハ果シテ何物ソヤ吾若之ヲ一小兒ニ問ハ、彼必答テ人ハ能ク知ルト言ハンは其元質ヲ解クノ方法ナリ然レトモ其善ク知ルト云フコトハ何ノ意義ナリヤ人及禽獸共ニ其動作ノ結果ハ必害ヲ受クルコトヲ知リテ之ヲ避クルノ道ヲ謀ルニ非スヤ然ラハ何ヲ以テ人ハ禽獸ヨリ善ク知ルト云フヤ余思フニ質朴ノ人或ハ小兒モ答テ人ハ爲スヘカラサルコトヲ知レトモ禽獸ハ之ヲ知ラスト云ヒ或ハ人ハ其事ノ邪曲タルコトヲ知レトモ禽獸ハ之ヲ知ラ

スト曰ハン彼何ノ語ヲ用井ルト雖モ皆同シク此意思ヲ含メルナリ余ハ彼ノ達理ノ人ト雖モ其答フル所ハ此ノ如クニシテ更ニ適當ノ言無キコトヲ知ルナリ然ル後ニ若シ修身ノ動作ハ何ナリト問フ者アラハ我輩將ニ答テ能ク是非ヲ分チテ其當ニ爲スヘキコト、當ニ爲スヘカラサルコト、ヲ辨スヘキ靈智ノ主者ノ自由ニ出ツル所ナリト云ハントス

但此ニ注意スヘキコトアリ既ニ動作ヲ以テ其力ノ顯ハル、所ト爲スト雖モ是非ノ質ヲ併セテ皆其力ノ顯ハル、所ナリト言フコトヲ欲セス人ノ思想ハ譽ムヘキ者ニ非サレハ必毀ルヘキ者ナリ今之ヲ詳言スレハ其是非未動作ニ顯レサルノ前ニ判然タリ苟モ心ヲ一動作ニ決セ

ンカ未コレヲ事ニ施サスト雖モ上帝ノ智識能ク其是非ヲ判シテ或ハ以テ善良トシ或ハ以テ凶惡トシ邪正曲直ヲ分明ニセサルコト無シ此等ノ言ニ由リテ人ノ動作中ニハ禽獸ノ固有セサル元質ノ存スル者タルコトヲ知ルヘシ然ラハ禽獸ト人ト共ニ脩身ノ管轄ニ服從セシムヘシト雖モ其管轄相同シカラサルノ條理ニシテ吾輩ノ禽獸ヲ處スル唯嚇スルニ罰ヲ以テシ勸ムルニ賞ヲ以テスルニ過キサルノミ人ニ至リテハ之ヲ處スルニ更ニ其邪正曲直ヲ辨スル良心ニ就キテ之ヲ誘導シ修身ノ性ヲ遂ケシムヘキノ方法ヲ用非ルコトヲ得ヘシ然リ而シテ人ヲ處スルニ禽獸ヲ遇スルト同シク徒ニ刑罰ノミヲ以テスルハ是殘忍酷薄其讎ヲ報イルニ過キスシテ條理ヲ失フナリ此ノ如キ者ハ痛苦

ヲ犯人ニ加フルヨリ外ニ目的ナキ刑律ノ法タリ夫刑法ノ大意ハ務テ邪曲ノ人ヲ提陞スルニ在リ英國ノ法律家ホーワルドノ力ヲ盡シテ講究セシ所モ亦此意ヲ遂クルニ過キスシテ基督ノ侵害ヲ處スル律例モ此道理上ヨリ設ケタル方法ナリ新約全書ニ吾カ敵ヲ愛シ吾カ惡ム者ニハ勉メテ善ヲ行ヒ善ヲ以テ惡ニ克ツヘシト云ヘリ是邪曲ヲ爲スモノニ對シテ反對ノ質タル公正ヲ示サンカ爲メニ專譬ヲ取リテ訓誨スヘキコトヲ教ヘタルナリ今侵害ヲ逞シクスル人ヲ待ツニ其行狀ノ不善タルコトヲ示シテ彼ヲ自ラ悔恨セシムルハ此ノ如キ修身ノ教ニ如ク者アラサルコト明ナリ夫ノ徒ニ讎ヲ報イルノ措置ニ止マルカ如キハ其人ヲシテ必再不善ヲ爲サ、ラシムルコト能ハサル者アリト

雖モ善ヲ以テ惡ニ報イルトキハ其効驗此ニ止マラス其人ヲシテ悔悟
自ラ邪曲ノ質アルコトヲ惡マシムルニ足ル是ニ於テ其品行ヲ一變シ
他日決シテ侵害ノ事ヲ爲サ、ヲシムルコトヲ得ヘキナリ

○第三章 動作中何ノ部分ニ是非善惡ノ質アルコトヲ發
明スヘキヤ

動作ノ有意ヨリ出ツル者ハ其中常ニ四箇ノ異ナル元質有リテ發見ス
ルコトヲ得ヘキコト左ノ如シ

第一 動作ノ外ニ顯ハル、者譬ハ錢ヲ他人ノ手中ニ交付スルカ如
キコト

第二 動作ノ外ニ顯ル、前ニ之ニ思ヒ付クコト

第三 此思念ヲ果サントスルノ決心

第四 此諸件ヲ爲ス所以ノ志意即企望

動作ノ外ニ顯ハル、所ハ二人共ニ同シト雖モ是非善惡ノ質ニ於テハ
各同シカラス是質ハ唯ニ動作ニ属セサルノミナラス思念ニモ属セス
亦決心ニモ属セス專屬シテ志意ノ中ニ在リ請一例ヲ舉ケテ之ヲ明ニ
セン今甲ト乙トノ二人有リテ若干ノ金ヲ丙ニ交付セリ二人共ニ此動
作ノ前ニ思念スル所有リテ之ヲ決心セシヲ以テ其金ヲ交付スルコト
ハ一様ナリ然レトモ甲ハ之ヲシテ一人ノ朋友ヲ殺サシメンコトヲ欲
スルノ志意ヨリ出テ乙ハ親族ノ困難ヲ救ハンコトヲ欲スル志意ヨリ
出ツ然ラハ其動作ハ同シト雖モ其質ニ至リテハ是非善惡ヲ異ニスル

ナリ是志意ハ是非善惡ノ質ヲ動作ニ與フル者タルコト明ナリ其然ル所以ノ者ヲ證スヘキ種々ノ思考ヲ下ニ詳ニセン

第一 吾輩自他ノ邪正曲直ヲ審斷スルニ其動作ノ結果ハ畢竟如何ト云フコトヲ舍テ、偏ニ志意ノ是非善惡ニ由ル故ニ人ノ有罪無罪ヲ判スルコト固其志意ニ因縁セサルヘカラス人ヲ待ツコト既ニ此ノ如シ是ヲ以テ吾自處スルニモ亦吾カ動作ノ吉凶ニ關セス唯此動作ヲ爲サシムル志意ニ就キテ吾果シテ有罪タルカ又果シテ無罪タルカヲ知ルナリ

第二 人ニハ善事ノ器械タルニ止マル者アリ又其志意ヨリ善事ヲ起ス者アリ故ニ之ヲ辨別シテ人ヲ待ツニ其成功ノ多少ヲ以テセス徒ニ

善事ノ器械タルニ止マラン者ヨリハ其志意ノ多少ニ隨ヒテ善事ノ基タル者ヲ愛敬スヘシ

志意ノ事狀ニ於テ邪曲トナルヘキ諸種

第一 殘虐、惡意、怨恨或ハ故意ニ人ヲ害センヲ謀ルカ如キ者はナリ但此中ニ察スヘキコトハ意アリテ痛苦ヲ人ニ加フト雖モ決シテ邪曲ヨリ出テサル者アリ是毫モ道ヲ犯スノ罪無キヲ以テナリ譬ハ官吏其典刑ヲ正サンカ爲メニ痛苦ヲ犯人ニ加フルカ如シ犯人罪有ルニ由リテ加フルニ痛苦ヲ以テスルハ固ヨリ至當ノ職掌ニシテ道ヲ害スル者ニ非サルコト明ナリ故ニ傷害ノ罰ト同シカラサルコト是ニ於テ見ルヘキナリ痛苦ヲ人ニ加フル者は傷トイフ人ノ權理ヲ犯シテ加フ

ルニ痛苦ヲ以テスル者は是ヲ害トイフ。罰ハ犯人ノ罪ヲ裁判スルニ當リテ痛苦ヲ加ヘサルヘカラサル者ナレハ決シテ道ヲ犯スト謂フヘカラヌ是其以テ異ナル所ナリ

第二 人ニ誑誘貪欲ノ念アリ又國ニ戰鬪爭亂ノ禍アルカ如キハ皆人ノ福祉ヲ顧ミスシテ己ノ情欲ヲ逞シクセンコトヲ欲スル邪曲ノ志意ヨリ出ツルニ過キス故人タル者ハ其情欲ヲ制シテ他人ヲ犯スヘカラス若シ既ニ他人ヲ傷害セルニ及ヒテ吾國ヨリ其人ニ對シテ惡意ヲ懷キシニ非スト云フト雖モ安ソ其責ヲ辭スルコトヲ得ンヤ天公ハ決シテ人ノ權理ヲ害シテ己ノ情欲ヲ逞シクスルコトヲ許サ、ルナリ

第三 動作ノ是非善惡ハ寓シテ志意ノ中ニ在リ是ヲ以テ其志意苟モ

動作ニ涉レハ吾カ力未動作ニ及ハスシテ行ノ實無シト雖モ其志意ハ既ニ以テ毀譽スルニ足ルコト猶動作ノ是非スヘキカ如シ故ニダビドハ其實未神殿ヲ建テスト雖モ志意ハ既ニ之ヲ建ツルニ在ルヲ以テ上帝ヨリ報賞ヲ受ケタルナリ然ラハ人ヲ殺スニ意アル者ハ未其事ヲ遂ケスト雖モ上帝ハ看テ以テ既ニ人ヲ殺セル者ト爲サン夫此ノ如クナレハ好ミテ邪曲ヲ企望スル者ハ其罪之ヲ動作ニ施セル者ト未嘗テ同シカラサルハアラサルナリ

第四 是非善惡固ヨリ寓シテ志意ノ中ニ在リ是ヲ以テ志意ノ德行ニ於ケル極メテ至要タリ苟モ志意ナクシテ徒ニ行ヲ外ニ爲ス是其實ヲ失フナリ人ノ子タル者父母ニ孝順ナルハ其志意平生ノ親愛ヲ感謝ス

ルニ在リ若シ此志意無クシテ或ハ恐ル、所アリ或ハ利スル所有リテ
 其行此ニ出ツレハ縱令孝順ナラシムルトモ其實ハ欲ヲ恣ニシ己ヲ利
 スルノ念ヨリ發スルニ過キサル者トス故ニ救主ノ猶太徒ヲ責ムルニ
 上帝ニ奉事スルノ志意ナキコトヲ以テシ吾汝カ中心ニ上帝ヲ愛セサ
 ルコトヲ知ルト云ヘル即是ナリ

且又吾カ是非ノ知覺ハ實物ニ就キテ其味ヲ分ツト相距ルコト遠カラ
 ズ觀ル者ニ隨ヒテ自己ノ想像力ヨリ感動セラレ此是非ノ質ヲ著スナ
 リ凡事自他ヲ論セス汚辱罪惡ヲ免レ得サル無稽ノ談論ヲ嗜好スル者
 モ之ニ反スルノ時勢アリテ其爲ス所ヲ禁スレハ則已マン然ラサル時
 ハ自ラ其好ム所ニ隨ヒテ罪惡ヲ犯ス者タルコト明ナリ夫レ動作ニ是

非ノ別アリト雖モ其質ハ寓シテ志意ノ中ニ在リ此志意ヲ害スル者ハ
 邪曲ニシテ邪曲ニ赴クヘキ嗜好モ亦邪曲タルコトヲ免レス故ニ思想
 ハ慎マサル可カラサルナリ蓋思想ハ徳ヲ生スヘク亦不徳ヲ生スヘシ
 君子言ヘルコトアリ心ハ生命ノ由リテ出ツル所ナレハ慎ミテ之ヲ保
 ツヘント兇虐ノ徒タル者ハ其心必先ツ兇虐ノ事ヲ思想スルニ習熟シ
 テ其恐ルヘキ罪科ヲ心中隱微ノ處ニ一々準備セサルコトナシ是先ツ
 之ヲ心ニ行ヒテ後又之ヲ身ニ行フナリ然ラハ吾輩邪曲ニ誘ハレスシ
 テ直ニ善徳ニ進マンコトヲ欲スル尤思想ヲ慎ムニ在リ且事ハ人神ノ
 知ランコトヲ恐ル、ニ至リテハ必正直ノ行ニ非ス此ノ如キ者ハ之ヲ
 行ハサレハ思想ニ發スト雖モ未必シモ罪ニ非ストシテ自許スコト勿

○第四章 動作ノ質ヲ是非善惡ト思想スル意思下文ニ略シテ是非ノ意
 イフノ由リテ來ル所ヲ問フ

未此問ニ對ヘサル前ニ其質ヲ是非善惡ト思想スル意思ハ固有ノ者タルカ又將因緣スル所有リテ來レル者タルカヲ講究セサルヘカラス固有ノ意思トハ物有リテ目ニ觸ル、毎ニ人ノ之ヲ造物者ニ稟ケタル氣質ニ因リテ自カラ心中ヨリ感發スル者即是ナリ故ニ色アル者ノ目ニ觸ル、ニ當リテハ其色直ニ心中ヨリ感發スルナリ是ヲ以テ一人モ能ク色ノ意思ヲ盲人ニ傳ヘタル者無シ若シ彼ヲ盲ナラサラシメテ之ニ示スニ色アル物ヲ以テスレハ色ノ意思直ニ心中ヨリ感發スルナ

リ夫ノ因緣シテ來レル所ノ意思ノ如キハ此ト相反シテ智識ノ習慣ヨリ思想シ得タル結果ナリ今三角形ヲ見テ三箇ノ角ハ二箇ノ正角ニ同シトイフコトヲ知ルノ意思ハ即是ナリ若シ吾未其實ニ然ルヤ否ヤヲ知ルコト能ハサル前ニ當リテハ日ニ數百ノ三角形ヲ見ルト雖モ此意思決シテ吾心ニ發セス後コークリドノ三角術初學ヲ讀得ルニ及ヒテ始テ種々ノ心上ノ行爲ヲ經驗シ此ノ如キノ關係有ルコトヲ確知ズルニ至レリ是意思ニ固有ト因緣シテ來レル所トノ別アル所以ナリ
 凡意思ハ固有ノ者ニ非サレハ必因緣シテ來レル者ナリ是ヲ以テ是非善惡ヲ思想スル意思ハ此科ノ何レニ屬スヘキカト云フノ問起ラン此問ニ答フル爲メニ先ツ吾カ知識ニ照會スヘシ人ハ皆意思ノ是非曲直

ヲ辨スルコトヲ知ル此意思ハ第一吾カ熟考シ得タル所ノ意思トハ其類ヲ異ニセリ今吾カ意思ヲ以テ美醜利不利喜悲及智愚ヲ辨スルノ意思ニ比スレハ其類ヲ異ニスルコト忽分明ナルヘシ是非ノ意思ハ全ク外物ニ由リテ生スル所ノ思想ト同シカラス自カラ別ニ一科ヲ作ス者ナリ

第二 一事ノ應スヘキ者アリテ吾カ視覺ニ觸ル、毎ニ是非ノ意思自カラ其間ニ生スル者ハ其事必知識有ル者ノ動作ニ關スルヲ以テナリ此ニ一人ノ審判官有リテ其分明ニ罪無キ者ヲ死刑ニ處セシコトヲ知ラハ忽之ヲ不正ナリトスルノ意思心中ヨリ起ラン又一人有リテ朋友仇敵ヲ論セス流落飢餓スル者ヲ救濟センカ爲メニ時日ヲ費ヤシ財物

ヲ捐ツル者アルヲ見レハ仁惠善良ナリトスルノ意思心中ヨリ起ラン此意思ハ理論上ヨリ來レルニモ非ス亦心中習慣ノ知識ヨリ致セル結果ニモ非ス人ノ作業ヲ認知スルニ當リテ是非ノ意思自生シ更ニ其間ニ關係スルコト有ル者無シ是ヲ以テ之ヲ造ランコトヲ欲スト雖モ能ハス之ヲ禁センコトヲ欲スト雖モ亦能ハサレハ此ノ如キ事狀ニ就キテ此意思果シテ何處ヨリ起レルヤト問フ者有ランニハ之ニ答テ知ラスト云フノ外ハ無シ是吾輩カ造物者ニ製造セラレタル氣質ニ由リテ然ルナリ

以上ノ事ニ徴シテ吾輩此意思ハ決シテ之ヲ禽獸ノ動作中ニ認出サス唯知識アル者ニ止マリテ其動作ヲ熟察スルヨリ起ル所ナルコトヲ知

ルヘシ且此意思ハ人ノ悉皆ノ動作ニ感シテ生スルニ非ス譬ハ兩目ニ
際シ傘ヲ掲ケテ行クハ沾濕ヲ避ケントスルカ爲メニ當然ノ法ヲ用非
ル者ニシテ其事固ヨリ愚ナラスト雖モ吾未其動作ノ是タルト非タル
トハ之ヲ認出サス然レトモ吾若シ其掲クル所ノ傘ハ窺ミ來ルノ物タ
ルヲ知レハ則テ彼ヲ以テ不是ナリトスルノ意思生ス又吾若シ彼レカ
其傘ヲ以テ沾濕セル病人ヲ蓋フヲ見レハ則頓ニ彼ヲ以テ仁惠ナリト
スルノ意思起ルナリ

尙又是非ノ意思ハ果シテ因縁スル所アリテ來ルコト夫ノ數學ノ意思
ノ如ク從前ノ心上ノ作用ニ原ツクモノタルトキハ其由テ出ル所ノ從
前ノ心上ノ作用ヲ明示スルヲ要ス然レトモ此太難シ蓋人ノ動作中ニ

就キテ是非邪正ノ質ヲ認出ス能ハサルトキニ僅ニ從前ノ心上ノ作用
ニ因テ之ヲ知ルトモ亦夫ノ盲人ノ人ノ論談分解ニ因テ物色ヲ知り得
ルカ如キニ過キサルノミ然ラハ則是非ノ意思ハ天賦ノ理法ニ因テ之
ニ應スヘキ物ノ來リテ念慮ニ觸ル、毎ニ自然ニ心中ニ起ルナリ此ノ
如クナレハ是非ノ意思ハ或人ノ説ノ如ク審判ヲ行フヨリ來ルニアラ
サルコト明ナリ審判ナル者ハ例ハ草ハ綠色ナリ正論ハ眞實ナリトイ
フカ如ク以テ其物ヲ確定保證スルニ止マルノミ若シ何物カ是草何等
カ是綠色何如カ是正論何如カ是眞實ト思想スル者ハ未審判ヲ發セサ
ルノ前既ニ心中ニ生セリ而シテ其生スル所以ハ審判ノ得テ証明スル
所ニアラス且又是非ノ意思ハ伴意ニ基キ來ルニ非ス某意思生スレハ

他ノ意思從テ生ス之ヲ伴意ト謂フ伴意ハ吾好慾感情或ハ思料ヲシテ
 彼ヲ捨テ此ニ移ラシムルノミニシテ特ニ一意思ヲ創スルコト能ハス
 唯既ニ心中ニ現生セル意思ニ因テ作用ヲナシ其人同シカラサレハ作
 用固ヨリ殊ニシテ其人同シキモ其時異ナレハ作用亦異ナリ然ルニ是
 非ノ意思ノ生スルハ毫モ此ニ似タルコトナシ
 或ハ曰ク是非ノ意思ハ至大ノ幸福(及禍殃)ナリトスル意思ニ原本シ
 來ルト余請フ其說ノ非ヲ略說セン
 第一 我須ラク之ヲ吾固有ノ知識ニ質スヘシ然後ニ吾是非ノ意思ハ
 夫ノ形色美麗利益等ニ從テ生スルノ意思ト彼此全ク相異ナルヲ知ル
 ナリ

第二 若シ或人ノ說ノ如ク果シテ彼此相基カシムレハ先ツ夫ノ至大
 ノ幸福(或ハ禍殃)ナリトスルノ意思アリテ之ヲ率井ルニ非レハ是非
 ノ意思ハ決シテ生シ得サルヘシ今吾レ之ヲ良心ニ照ラシテ其實ニ然
 ルヤヲ觀且人ノ罪過ヲ作シ及善ニ報イルニ惡ヲ以テスルヲ見テ以テ
 非トナシ邪トナスノ時ニ當リテ吾豫メ此ノ如キ所爲ハ至大ノ幸福ヲ
 生セサル可シト判決シテ而後ニ非トナシ邪トナスノ意思生セシコト
 アリヤト顧思スルニ未嘗テ此ノ如キアルヲ發明セサルナリ

第三 有疆ノ人物無疆ノ神明ニ對シテ云フハ其動作ノ是非ニ因リテ能ク最大ノ
 幸福ヲ生シ或ハ生セサルヲ預メ判決シ得ルヤ否ト問ハ、答テ曰否將
 來ノ事ハ人物ノ能ク知ル所ニ非ス是非ノ動作ニ因リテ應報ノ各別ニ

來ルコトノ永遠無限ナルコトヲ知ルヘカラサレハ則是非ノ何レカ能ク至大ノ幸福ヲ生スヘキヤ即孰レカ是ニシテ孰レカ非ナルヤヲ判スル能ハス

第四 動作ノ質ノ是タリ非タルヲ判スルヲ必其將來ノ幸福(ト禍殃)ニ於テスルヲ得ルトキハ吾惟是非ノ辨ノ湮滅センコトヲ恐ルノミ何ナレハ惡虐ヲ肆ニセシ罪人モ一朝運ニ膺リテ大幸福ノ果實ヲ結フコトアレハナリ且動作能ク無量ノ幸福ヲ生スルヲ以テノ故ニ其果シテ正タリ是タルコトヲ決スルニ足ルヘクハ亦猶太西ノ譎詐ヲ判スルニ巨徳大義ノ稱譽ヲ以テスヘキナリ

然ラハ則動作ノ是非ノ質ニ付キテノ意思ハ何所ヨリ來ルヤ答テ曰ク

此意思ハ固有單純ニシテ詳解シ難シ唯他ノ固有意思ノ如ク之ニ適スル事物アリ來リテ吾念慮ニ觸ルレハ則天然ノ理法ニ依テ直ニ生スル者ナリ然ラハ則之ニ適スル事物トハ何ヲ言フヤ曰

第一 吾レ有形物無形神ニ諸倫ヲ以テ相對ス而シテ有形物ニ對スルノ倫中ニ人ノ人ニ於ケル倫即同等者タルノ倫父子ノ倫師弟ノ倫夫婦ノ倫兄弟ノ倫平民相對ノ倫平民官吏相對ノ倫及他ノ千百ノ倫アリ

第二 人能ク二人相對スルノ倫ヲ知レハ即自カラ此知識ニ接合シタル道德ノ義務ヲ辨スルノ心直ニ生ス蓋此心生スルハ己レ相對者ノ一人タルト若クハ傍觀者タルトノ別ナク同シク然リ道德ノ義務ヲ辨スルトハ甲當ニ乙ニ對シテ何等ノ心情ヲ用井且此ニ適スル方法ヲ行フ

ヘキコトヲ知ルヲ言フナリ

第三 此心情ハ倫ト共ニ異ナルコト論ヲ待タス故ニ父ノ子ニ於ケル心情ハ子ノ父ニ於ケル心情ト異ナリ師ノ弟子ニ於ケル心情ハ弟子ノ師ニ於ケル心情ト異ナリ而シテ此二者ノ心情ハ又兄ノ弟ニ於ケル君ノ臣ニ於ケル心情ト異ナルナリ夫レ心情ハ若カク相異ナリト雖モ知覺ハ則一種ニシテ謂ユル道德ノ義務ヲ辨スルモノヲ以テ之ヲ貫ケリ是ヲ以テ彼我相與ニ其心情ヲ用井亦相與ニ若カキ方法ヲ行フヘキヲ知ルナリ

第四 蓋此知覺ハ人ノ有形者ニ對スルカ爲メニ其理法然ル所ニシテ意ヲ神明ニ着クルニ非スシテ生スル所ノ者タリ是ヲ以テ此等或ハ此

ニ似タル倫ヲ知レハ則倫アル者ニ對シテ某ノ方法ヲ行フヘキ謂ユル道德ノ義務ヲ辨スルノ心直ニ生スヘシ

第五 然レトモ此ニ無形者ニシテ其倫前者ノ比ニアラス人亦須ラク無量不測ノ大愛敬ヲ以テ對スヘキ者アリ此不可測者ニシテ其人ニ對スルヤ造物者保護者施濟者授法者及審判者ノ倫アリ而シテ人ノ之ニ對スルハ從屬無助無智ニシテ多罪ノ造物タル倫アリ蓋此倫ノ量タル審知スル能ハスト雖モ今人智ヲ以テ之ヲ測リ得ルヨリハ更ニ當ニ盡スヘキ大義務アルヘキノミ吾人熟考スレハ以テ此倫アルヨリ人皆止帝ニ對シテ孝敬ノ心ヲ有テ其命スル所ニ從テ行フヘキ義務アルコトヲ知ル且此義務タルヤ唯上帝ト人トノ倫アルニ由リテ生スル所ニシ

テ外物曾テ其間ニ關スルコトナシ然レトモ倫アルヲ知リテ而シテ義務ヲ辨セサレハ行フ所ヨリ生スル效驗ハ之ヲ目撃スルコト能ハス

第六 此神人ノ倫及此ニ属スル義務ハ他ノ諸倫ト義務トヲ皆容納包有シ且之ニ超越ス故ニ人々相對ノ義務モ亦因テ以テ一層堅固ナル地步ヲ占ルヲ得蓋人素ヨリ自カラ上帝ニ對スル無疆ノ義務アリ而シテ上帝ハ其万物ノ創造ニ任スルノ倫アルヲ以テ我カ爲メニ保護者宰制者及萬物ノ主有者タレハ則人又更ニ每事上帝ニ順從スヘキノ義務アリ且萬物皆上帝ノ造クル所ナリ焉ソ其主有者ノ指令スル所ニ從テ之ヲ待遇セサルヲ得ンヤ故ニ人當ニ唯彼我ノ倫有ル爲メノミナラス亦彼我共ニ上帝ニ對スル倫アルノ故ヲ以テ其創造物ニ對スルノ義務ヲ

盡スベシ概言スレハ道德ノ義務ヲ辨スル所ノ知覺ハ吾熟知スル有形及無形物ニ對スル倫ヲ知ルトキニ天授ノ理法ニ依テ即生スル單純自然ノ感動ナリ

此レ各人ノ知識ニ因テ自得スヘク固ヨリ証例ヲ要セスト雖モ特ニ左ニ舉クル數件ハ未必シモ小補ナカラスト云フ

謂ハユル道德ノ感覺ヲ起スヲ勉ムル方法ハ人唯下ノ一事ニ注意セハ以テ能ク吾持論ヲ確定ス乃此感覺ヲ起サントスルノ際ニ當リテ人皆常ニ彼我相對スルノ倫ヲ其心頭ニ存ス

第一 吾レ他ニ向テ謝スルノ念ヲ起サントスルニ方リ其念能ク至善ヲ生スヘシト思フモノアランヤ然レトモ他ヲ以テ施濟者ノ倫アル者

ト爲シ務テ其倫ヲ明ニシテ以テ吾感謝ノ念ヲ生セント欲ス此ノ如ク
スルモ其念生セサレハ吾亦奈何スル能ハス

第二 吾レ罪惡ヲ非斥スルノ念ヲ起サントスレハ彼我相對ノ倫ヲ顯
ハシテ以テ罪者カ犯セシ所ハ義務ノ大ナルモノナルコトヲ証明セン
ト欲ス

第三 吾レ善ヲ以テ惡ニ克タント欲スレハ己ヲ以テ犯者ニ對シテ救
濟者ノ倫アル者ノ地位ニ置ク是ニ於テ犯者ハ自己ノ私ヲ棄テ、天性
ノ法ニ服セサルヲ得ス以テ其德ヲ謝シ罪ヲ悔ルノ念自カラ胸中ニ生
ス

第四 上帝ノ意只人ヲ救濟セントシテ凡事皆道ニ由テ行フナリ然レ

トモ衆人ハ其罪惡ヲ救助スル者タルヲ顧スシテ唯其全智全權至聖至
正ノ造物者タルヲ知ルノミ故ニ至神ノ德性適以テ衆人不具ノ心ヲ
シテ恐懼ヲ懷カシムルニ足ル是ヲ以テ上帝自ラ示スニ我ハ人ニ對シ
テ救主及贖者ニシテ罪過ヲ許ス神明ノ倫アルコトヲ以テシテ此
非常ノ倫アルカ爲メニ亦人ニ責ムルニ感謝悔悟親愛スヘキ非常ノ義
務ヲ以テスルナリ

第五 此非常ノ倫アルカ故ニ人ノ上帝ニ對シテ當ニ行フヘキ義務モ
亦廣且大ナリ夫ノ經典ノ眞道ヲ斥スル者ハ其罪赦サレシテ嚴罰ニ
處セラル、ハ上帝ノ常ニ定ムル所ナリ而シテ其不信者ヲ罪スルモノ
ノ極メテ恐ルヘキハ羊仔基督ヲ指スノ怒ニ在リ

又曰余カ淺薄ノ思想ヲ以テスルニ人ノ上帝ニ順從シ且之ヲ親愛スルノ心ハ彼ハ我ノ上帝ナリ故ニ吾當ニ之ニ對シテ此ノ如キ意念ヲ存スヘキノミ夫ノ末事ニ因縁シテ生スルモノ、如キハ信心ニアラサルナリ

譬ハ一小兒アリテ家人ノ爲メニ福利ナルカ故ニ其父ニ順從スト言ハ、吾レ其動作ノ質ノ何如ハ之ヲ舍クモ亦未遠ニ之ヲ孝順ト稱スヘカラス蓋他ハ父ナリ我ハ子ナリ子ノ父ニ從フハ常ノミ而シテ其從フコト唯父子タルノ故ニ於テセハ則孝順タルヲ得ヘシ且其子ハ固ヨリ此ヲ以テ夫ノ家人ノ福利ヲ願ヒ及金錢ヲ欲スル爲メノ緣故ニ代フヘシ然ルニ豫メ多少ノ報賞アルヲ計リテ以テ父母ニ順從スルハ孝順ニ非

サルヲ人誰カ知ラサル者アラシヤ今吾意フニ此ト一同事狀ノ亦神人ノ際ニ行ハル、アルヘシト蓋我義務上當ニ上帝ヲ愛敬スヘシト思フハ固ヨリ善ト雖モ唯其大善美ヲ生スヘキノ謂ヲ以テ愛敬スヘシト思ヒ而シテ上帝ノ上帝タル故ト其人ニ對スル倫アル故トヲ以テ然ルニアラサルモノハ我信心即造物ノ造物者ニ對シテ懷クヘキノ思念ニ非ス若シ愛敬義務ノ起ル所ヲシテ上帝ノ人ニ對スル至要ノ倫ヨリセスシテ末事ノ緣故ヨリセシムレハ則謂ハユル末事ノ緣故ナル者ハ他事及至大ノ善美ヲ欲スルノ情ナルノミ且吾レ他事ハ上帝ノ倫ノ如ク仁愛ナリト云ハス然レトモ性理學ヲ以テ論スレハ若シ眞實ノ信心即上帝ヲ敬愛スルノ情ヲシテ誠ニ直ニ上帝ニ接セスシテ末事ニヨリテ生

スルコトアラシメハ則余其彼此ノ事物ヨリ生スルコトナキ所以ヲ知
ラス故ニ眞實ノ誠敬モ亦天人相關セサル所ノ各種不同ノ緣故ヨリ生
スルコトアリトスルモ蓋其レ不可ナキカ

此件ニ就テ余ノ意見ヲ明サンカ爲メニ數言ヲ記スルコト左ノ如シ

第一 吾レ連結スル諸物ト倫ヲナシテ相對ス此倫ハ吾知覺ニ觸ルレ
バ直ニ吾ヲシテ道德ノ義務アル意思ヲ生セシム

第二 吾黨類ニ對スル倫ハ一般或ハ專要ノ同等ノ道ニ關スル意思ニ
適合シテ限界節度アル道德ノ義務ヲ吾ニ示スナリ

第三 上帝ニ對スル倫ハ吾ヲシテ普通無量ノ親愛ト從順トヲ行フヘ
キ義務ヲ確知セシム故ニ吾當ニ上帝ニ對シテ至當ノ心情ヲ用非且上

帝ノ造物ニ對シテ其指令スル如キ心情ヲ用非ルヘシ

第四 此ヲ以テ人々相對スルノ職務ニ兩様ノ義アリ第一ニ人々同シ
ク人タルノ倫アリ第二ニ人々同シク上帝ノ造物タルノ倫アリ

第五 是故ニ吾レ能ク人ニ對スルノ義務ヲ順守シテ行フ所ノ事ハ善
良ト稱シ得ルト雖モ亦吾カ上帝ニ對スルノ義務ヲ遵守シテ并ハセ行
フニ非サレハ信心ノ所爲ト稱スルヲ得ス

第六 故ニ衆人ヲシテ道德ヲ行フ者タラシムルニ必ニ事ヲ要ス其第
一ヲ睿智力ト曰フ此力ニ因テ以テ傍人ニ對スルノ倫ヲ知ルヲ得第二
ヲ道德力ト曰フ既ニ倫ヲ知レハ則此力ニ由テ以テ適當ノ本分ヲ順守
スヘキ念直ニ起リ來ル夫レ此二力ヲ有スルヲ以テ人能ク道德ヲ行フ

者タルヲ得テ而シテ其有ル所ノ倫ヲ辨シ其義務ヲ盡ス方法ヲ知ルカ
爲メニ之ヲ用ヰン機會ノ多少ニ從テ亦其責任ヲ負フヘシ

○第二篇 良心即道心

○第一章 此ニ良心アリヤ

良心即道心ハ一箇ノ能力ニシテ能ク動作ノ質ノ是非ヲ辨シ而シテ之
カ感覺ヲ起シ得ル者ナリ能力ハ天賦元氣ノ一部ニシテ人因テ其連接
スル人類各種ノ品質ト倫理トニ對シテ亦能ク感覺ヲ發ス故ニ嗜好ニ
因テ美惡アルヲ知り悟性ニ因テ萬物ノ存スルト其品質如何トヲ知ル
之ヲ要スルニ吾レ世間各種ノ品質ヲ辨シ吾レ變化ヲ致シ其變化ニ遇
フニ臨テハ吾レ必此ノ如クスル爲メノ能力ヲ有ツト言フハ殆ト確論
ナリ今夫レ視ルモノハ必目アリテ見ル爲メノ能力ヲ有スヘシ是レ目
無ケレハ以テ視ルヲ得サルノ理ヲ証スルニ足ル故ニ世ニ千百品質ノ

吾カ知ラサル所ノ者アルハ是レ我カ能ク辨明スヘキ能力ヲ以テ生造セラレサル故ニシテ此レ普通ノ理ナリ抑吾ノ外部ニ在ルモノハ美醜ナリ吾ノ内部ニ在ルモノハ好惡ナリ而シテ此二者必相因ル好惡アルニアラサレハ美醜アルヲ知ル能ハス美醜アルニアラサレハ好惡アルヲ知ル能ハス蓋吾ノ人ノ動作ニ是非ノ質アルヲ視察スルコト亦然リ人モ亦皆小兒タルトキヨリ之ヲ視察セシコトアルヲ知ル夫レ此質ヲ察スルニ尋常ノ區別ヲ以テスヘク必尋常ノ注意ヲ以テシ難シト雖モ人或ハ某ノ動作中ニ之ヲ知ルト曰ヒ且甲乙共ニ知ル所ノ相符合スルヲ查明スヘキ千百ノ事アリト云ヘリ加之此質ト之ヲ知ルトニ從屬スル知覺ハ他ノ諸種ノ能力ヨリ來リシモノニ同シカラス

然ラハ則動作ノ質ヲ知ルハ單純ノ能力ニ由ルカ將混淆シタル能力ニ因ルカ其歸宿スル所ヲ請ヒ問フ曰動作ノ是非ニ就キテノ意思ハ其本性ノ單純ヨリ分離シタルモノニシテ他ノ百般意思ト殊異ナルコト吾既ニ論スル所ヲ以テ明ナルヘシ果シテ然ラハ則此殊異分離ノ質ノ在ルコトヲ熟知セシムヘキ所ノ殊異分離ノ能力ヲ有スヘキコト論ヲ待タス此他ノ固有質ニ於ケルモ亦然ルコトアリ而シテ其然ラサルヲ証スルノ理ナキトキハ以テ此ノ如キコトアリトスルモ亦宜ナラスヤ然レトモ此間ハ到底修身學者ニ切要ナル者ニアラス若シ夫レ此ノ如キ質アリ及人能ク之ヲ知り且之ヲ知ルニ由テ某ノ感情ヲ動カスヘク作爲セラル、ノ由ハ則其最當ニ講究スヘキモノタリ然レトモ單純ノ

能力或ハ混淆シタル能力ノ有ルヲ思想シテ而後ニ此事理ヲ證明スル
 ヤ否ハ亦道德ノ義務ノ究問ニ關スルニアラス而シテ己ニ是非ノ別ヲ
 實認シテ道德ノ義務ノ避クヘカラサルヲ知ルニ當リ之ヲ爲スニ心中
 ノ一力或ハ各種ノ力ヲ用井ルカヲ問フニ至リテハ抑亦未ナリ
 此ノ如キ能力アリト思惟スルヲ妨クル所ノ故障アリ最注意ヲ要ス故
 障ハ則左ノ如シ

第一 人若シ此ノ如キ能力ヲ稟クレハ當ニ彼我共ニ稟クヘシ然ルニ
 衆普ク之ヲ稟ケス何ナレハ予ヲ殺キ親ヲ殺シ及勇ヲ競フ等ノ如ク彼
 ハ以テ是トナシ正トナスモ此レハ以テ非ナリ邪ナリト爲スコト有レ
 ハナリ

甲 答テ曰蓋此故障アリト雖モ良心即動作ノ質ノ是非ヲ辨スルノ
 能力アルコトノ普通タルニ妨ナシ又此故障ハ何處ニ於テスルモ人ノ
 能ク是非邪正ノ別ヲナスコトニ妨ナシ但邦國殊ナレハ此ニ善良ノ質
 アリト思フ動作ニ因テ彼ニ邪惡ノ質アリト思フ者アリトスルノミ且
 夫レ彼此相異ナル此ノ如キ所以ヲ問フハ可ナリ然レトモ故障トナシ
 テ論セシ事情ハ以テ動作ノ質ヲ觀察スル力アルコトノ普通タルヲ示
 スニ足ルナリ

乙 夫レ唯專ラ眼ヲ動作上ニ着クレハ或ハ是トシ或ハ非トスルコ
 トノ一定ナラサルヲ免レスト雖モ審ニ思フ動作ヲ行フ所ノ志意上ニ
 注スレハ是非ノ相違フコト前條ニ説キシ者ノ如キアルナシ故ニ父母

ノ爲メニ幸福タルヲ志スヲ以テ是トセサル所アラス其災害タルヲ志スヲ以テ非トセサル所アラス徳ニ報イルニ害ヲ以テスルヲ志スヲ是トスル所アラス徳ニ報イルニ大徳ヲ以テスルヲ志スヲ非トスル所アラス而シテ其志意ヲ行フ所ノ方法ハ相異ナルアリト雖モ直ニ此志意ノ是非ノ質及其他ニ注意スレハ以テ其是非邪正ヲ辨スルコト衆人皆同シトス

丙 邪曲ノ動作ヲ行ヒ而シテ託スルニ善良ノ志意ト夫ノ彼我ノ倫ニ於ケル當然ノ思考トヲ以テシテ之ヲ公正ナリト申雪スルモノアリ但此志意思考眞實ナレハ以テ動作ノ善良ヲ証スヘシ譬ハ兒子ヲ殺クヲ罪ナシトスルモノハ必託言セン蓋此世ハ災厄ノ場ナリ兒子寧口世

ニアリテ憂苦ニ逢ハサルニ如カス而シテ父母タルモノハ兒子ノ爲メニ謀ルコトノ好カラント欲スル志アリト又言フ父子ノ倫ニ在テ生殺ノ權ハ父ニアリ故ニ父ノ子ヲ殺スハ猶禽獸ヲ斃シ草木ヲ伐ルカ如クニシテ無罪ナリト夫ノ父母ヲ殺シ怨恨ヲ復スル等ノ邪曲ノ動作ノ如キモ亦此方法ニ依テ申雪セラル、コトアリ教誡ニ曰ハスヤ恩ニ背クハ邪曲タリ父母ハ其子ヲ愛セサルヘカラス人ハ必上帝ニ服従スヘシト嗚呼此ノ如キ悖虐不仁ノ人ニシテ何ソ此ノ如キ教戒ヲ要スル所アラシヤ

丁 是非ノ辨ノ普通ナルハ古ノヘーテン異教徒ノ品行中ニ於テ多ク其確證ヲ認メリ蓋此徒ハ是非ノアルヲ知り其信奉スル神ノ諸典例

ニ反スト雖モ良心ノ推動力ヲ思察ン之ニ順從セリ故ニルソー日學者須ラク眼ヲ世界ノ邦國ト邦國ノ史記トニ注クヘシ則許多ノ殘酷荒唐ナル邪神中ト夫ノ負異太殊ナル方法品行中ニ是非邪正ノ同一ノ理ト別アルヲ認得スヘシ抑古昔ノバガニズムノ異教ハ實ニ惡ムヘキ邪神ヲ生セリ此神ハ世ノ妖魔トナシテ攘斥罰責スル所ナリ曾テ教ヲ示シテ曰ク無上ノ幸福タル目的ハ唯罪科ヲ犯シテ私欲ヲ逞シクスルニ在ルノミト然レトモ兇惡託説スルニ人ヲ以テス其實ハバガニズム異教ヲ指ス此神威ヲ負フテ無疆ノ所ヨリ降臨スト雖モ其成功無キヲ以テ彼モ亦人心中心ニ己ヲ追逐スヘキ道德ノ天性アルコトヲ查見セリト云セノクレテスノ節制ハジコピターノ奢侈ヲ尊賞スルモノ、驚歎セシ所ナリベヌスノ不貞

ハ貞烈ナルルクレチアノ熱心シタル所ナリ最勇敢ナル羅馬人ハ神ニ供スルニ恐懼ヲ以テシ其父ヲ貶黜セシ神ニ哭請シテ甘シテ自殺スルモノアリ或ハ失笑スヘキ神ノ大人ノ爲メニ尊奉セラレシコトアリ又自然ノ神聲アリ其聲他ノ神聲ヨリモ高シ聞ク者皆敬信順從シテ以爲ラク是天上ニ在テ罪人ヲ追放スルナリトルソーノ言此ニ止ル以上ドクトルブルローンノ講義第七十五章ニ載ス

第二 又他ノ狀形ヲナシテ生スル故障アリ乃暴虐ノ徒悔恨ノ念ナクシテ至明ナル公正ノ理ヲ害ストスル者はナリ是其復讐及放蕩ヲ逞クスルノ罪アルトキニ於テ之ヲ見ル

故障ノ義ハ吾既ニ論究セリト雖モ今特ニ附スルニ左ノ答辨ヲ以テス

甲 凡ソ何等人モ皆痛悔ノ念ナク罪過ヲ思フノ心ナク又責罰ヲ被フルベキノ知慮ナクシテ諸件ノ道德ノ誠命ヲ犯ス者アラス

乙 故ニ此故障ハ以テ良心ノ絶テアラサルヲ證スルニ足ラスシテ毀缺不具ナル良心ノアルヲ証スルニ過キス且人タル者誰カ嗜好及悟性ナカラシテ野蠻未化ノ民族ハ此二者完全ナラサルノミ然ルニ故障ノ説ノ如クナレハ此二者ハ全く無トセンカ亦誤レリト謂フヘシ

丙 又一故障アリ曰吾レ良心ノ有ルヲ思想スト雖モ到底其無用タルヲ免レス何ナレハ人之ヲ害シテ以テ痛苦ヲ受クルヲ好ムト論此ニ至テ復難スヘキナシ而シテドクトルバレーモ亦曰人ハ道德ノ天性ノ外更ニ有スヘキ者ナシト之ニ答フルコト左ノ如シ

此故障ハ良心ノ功用ヲ誤解スルノ致ス所ナリ良心ノ用タルヤ人ニ教ヘテ道德ノ義務ヲ辨明シ以テ當然ノ動作ヲ行ハシムルニ在リ夫ノ道心ヲ信スル者ト雖モ敢テ人一切其欲スル所ニ從テ行フコトナシト曰ニ非ス蓋人皆此ノ能力即道心ヲ以テ生成セラル唯其レ然リ是ヲ以テ道德ノ責任ヲ負フヲ得ルト抗論スルノミ抑人ノ良心ニ從フト從ハサルトハ皆其欲スルマ、ニシテ一ニ吾權内ニ在リ然レトモ良心ニ從フコト有リ或ハ從ハサルコトアルヲ以テ良心ノ有ラサルコトヲ證スルヲ得サルハ其情欲ニ從ヒ或ハ從ハサルコトアルヲ以テ情欲ナキコトヲ証スル能ハサルカ如シ

○第二章 是非邪正ノ意思ヨリ直ニ出ル所ノ心中ノ狀ヲ

論ス

人ノ動作ノ質ノ是非邪正ヲ把テ自ラ示ス所ノ良心ノ作用ヲ論究スル
 コト正ニ此ノ如キニ至レリ而シテ此意思一タヒ生スレハ志欲セサル
 ニ他ノ意思ハ直ニ天生道德ノ理法ニ依テ之ニ陪隨シ來ルコト當ニ注
 意スヘシ今之ヲ思考スル左ノ如シ

第一 一動作ニ是非ノ質アルヲ知レハ則其義務アルノ知覺直ニ心中
 ニ生ス乃是タリ正タレハ之ヲ爲スヘキ義務アルヲ知リ非タリ邪タレ
 ハ之ヲ爲サ、ルヘキ義務アルヲ知ルナリ蓋義務ノ知覺トハ當爲ト不
 當爲ノ知覺ヲ謂フノミ吾常ニ動作ノ質ヲ以テ義務ノ爲メニ必要ナル
 原故ナリトセリ譬ハ欺クコトハ不正ナルカ故ニ當ニ欺クヘカラス助

ナキ者ヲ救フコトハ正道ナルカ故ニ之ヲ爲スヘシト思フ是ニ於テ是
 非邪正ハ動作ノ質ニシテ當ニ爲スヘシ當ニ爲スヘカラスト思フハ此
 質アルヲ知ル所ノ修身者ノ心中ノ狀ナルコト明ナリ

第二 動作ニ是非ノ質アルヲ視察スレハ其是ナル者ヲ行ヒ非ナル者
 ヲ行ハサルヘキヲ吾ニ勸勵スル推動力ナルモノアリテ此當ニ爲スヘ
 シ當ニ爲スヘカラサルノ知覺ト緊密ニ連接ス故ニ動作ノ是タルコト
 明ニシテ吾當ニ之ヲ行フヘキヲ知レハ吾ヲシテ敢テ之ヲ行ハシムル
 カアルヲ知ル而シテ其狀恰モ心裏ニ釋アリテ爲スヘシ爲スヘシト云
 ヒ以テ行フコトヲ吾ニ告ケ又之ヲ勸ムル者ノ如シ之ニ反シテ動作ノ
 非タルコト明ニシテ吾將ニ之ヲ行フヘカラサルヲ知レハ亦吾心裏ニ

爲ス勿レ爲ス勿レト告クルノ聲アルカ如シ此ニ因テ之ヲ觀レハ良心ノ作用ハ情欲ノ作用ト相似タリ故ニ今一事ヲ行ヒ情欲ヲ慰スルニ方リ情欲ハ其事ノ是タリ非タルヲ顧ミスシテ只管ニ吾ヲ勸慰シテ之ヲ行ハシム抑情欲ト良心トハ常ニ直ニ相撞着ス而シテ良心ハ情欲ノ吾ヲ勸慰シテ行ハシムル所ノ事ニ非邪ノ質アルヲ知テ之ヲ行フ勿レト諫戒ス人皆此二個推動力ノ間ニ處シテ孰ニ從ハンヤヲ決スルハ吾欲スルマ、ニシテ自由ナリ若シ夫レ其品行ノ是非邪正ハ其所決ノ上ニ在テ之ヲ判スルナリ

第三 此所決ト由テ以テ起ル所ノ動作トニ從テ喜樂若クハ哀苦ノ結果生ス能ク情欲ノ推動ヲ拒ミ良心ノ推動ニ從キ以テ誘惑ニ陥ルヲ免

ルレハ則非常ノ喜樂生ス蓋此喜樂ハ美麗ノ物ヲ見或ハ實理ヲ索得タルヨリ來レル喜樂ノ如キニアラスシテ而シテ吾ノ無罪タリ又正道タルヲ知り又吾ノ私ニ克テ及自ヲ憊クシ并ニ善報アルヲ知ル等ヲ悦ブノ喜樂ナリ之ニ反シテ情欲ノ推動ニ從ヒテ良心ノ推動ニ從ハサレハ心ニ覺ユル哀苦モ亦非常ニシテ乃自以テ不正トシテ悔恨シ又洗清スヘカラサルノ罪汚タルヲ知り及避ケント欲スルモ能ハサルノ刑罰ヲ受クヘシト憂思スル等ノ哀痛ナリ至當ノ感覺ハ人ノ行ヒシ是非邪正ノ事ニ觸レテ直ニ激動スルモノニシテ彼レ正道ヲ行ヘハ我レ之ヲ敬愛スルノ意及其善ヲ行フノ願其多少ノ報賞ヲ受クルノ望ヲ懷ク其良心ニ從ハス情欲ニ從テ非邪ヲ行フモノハ我レ自カラ其歩々禽獸ノ域

ニ進ムヲ知り之ヲ擯斥シテ敬愛セス其必罰ヲ愛クヘキヲ思ヒ往々我
モ亦自ラ之ヲ罰セント欲ス且夫ノ非邪ヲ行フ者ハ自ラ己ノ以上ノ數
者ニ遭懼スヘキヲ知り又人ノ爲メニ状態ヲ知得セラルレハ人亦宜シ
ク此ノ如ク欲望スヘキヲ思フナリ

第四 是非ノ意思ノ熟慮ヨリ生スル所ノ他ノ心ノ狀ハ希望ナリ人常
ニ某効驗ノ此意思ニ從テ生スルコトヲ希望ス是是非ノ意思ハ吾知ル
所ノ他ノ意思ト異ナリトスル所以ナリ他ノ意思ハ一モ未來ニ關係ス
ルコトナク亦之ニ異ナリタル意思ヲ生スルコトナシ譬ハ美麗ナル物
ヲ見テ心ニ樂ミ後日此事ヲ思想シテ其量向時ニ如カサルモ亦再樂ヲ
催ス然レドモ纔ニ此ノ如キニ過キス或ハ醜惡ノ物ヲ見テ心ニ憎ミ他

日之ヲ思想シテ厭惡ノ心復起ルト雖モ更ニ又他ノ意思生セス則他ノ
意思ハ吾理法ニ因テ必シモ美麗ヲ好ムノ情ニ連ナラス亦醜惡ヲ惡ム
ノ念ニ接ヒサルナリ

第五 此希望ハ一定セル性質ノ者ナリ抑一定セルトイフモノハ何等
特殊ノ事ヲモ希望スルヲ言フニ非ス一定セル性質ノ事ハ善良ノ所爲
ニ從テ生スヘシト希望スルノ謂ナリ蓋シ此ノ如キ効驗ハ防ク能ハス
避クル能ハサルノ力ニ因テ是非ノ動作ニ團結セラル且吾惡事ヲ記ス
ルノ念ヲ厭倒シ得ルト雖モ全ク此念ヲ忘却スル能ハスシテ再發スル
トキハ早晚之ヲ懲劊シテ公道ヲ全クスヘキヲ確知スルノ意見從テ生
ス是其常ナリ

第六 相異ナル動作アレハ從テ此ノ如ク相異ナル結果アルハ一定シテ變スヘカラス德行ハ其報幸福ヲ希望シ不徳ハ其報災害ヲ希望ス而シテ之ヲ變スル能ハサルナリ然ルニ無私善良ノ行ヲ以テ罰スヘシトシ有意不善ノ事ヲ以テ賞スヘシトシ而シテ此關係ヲ以テ天生理法ノ一部ニ係ハルト思想スルハ無稽ノ甚シキ者ニシテ吾道德ノ管轄中ニ此ノ如キ道理ニ由テ定立セシ者アルハ吾カ知ラサル所ナリ故ニ人只幸福ハ必德行ニ隨ヒ災害ハ必不徳ニ從フコトヲ信セサルヘカラス

第七 吾レ審確ニ之ヲ希望スト云フ而シテ審ニ然ルノミナラス今夫レ零點ノ冷度ニ水ヲ置ク者ハ其凍ルヘキコトヲ審確ニ希望シ草木ノ核ヲ地中ニ植ル者ハ其適度ヲ失ハサレハ萌芽スヘキヲ審確ニ希望ス

ト雖モ脩身ノ道ニ至テハ特ニ審確ニ希望スルノミナラス更ニ甚シキ者アリ至當ノ效驗ノ從テ生スヘキヲ思ヒ又生セサルベカラサルヲ思フナリ夫レ人ヲシテ德行ハ幸福ヲ致シ不徳ハ刑戮ヲ招クノ必當ニ然ルノ思想ヲ舍テシムレハ天下ノ萬民ヲ管治スル倫理ハ皆廢滅ニ歸スヘシ

徳不徳ノ共至當ノ應報ト相關スルノ確實ナルヲ示シカ爲メニ左ノ一詩ヲ舉ク

吾レ怨恨邪術及迷誤者カ稱スル時運ナル威力ノ恐嚇ヲ顧ミスシテ左ノ道理ヲ篤信ス曰徳ハ攻撃スヘシ而シテ傷害スヘカラス不正ノ力ヲ以テ驚起スヘシ而シテ之ヲ束縛スヘカラス且誤テ大害アリト

セラル、者モ幸ニ至當ノ審判ヲ經テ大榮タルコトヲ証スルナリ然
レトモ不善ハ自カラ退縮シ復善ト混セスシテ終ニ渣子ノ如ク摘去
セラル、トキハ永遠不絶ノ變化ニ處シテ自カラ生シ自カラ亡スヘ
シ若シ此ノ如キ道理滅息スルニ至レハ天柱碎ケ地維缺クルナリ
(ミルトンノ作コミュスノ編)

第八 且此關係ヲ熟考スルニ由リテ以テ多分ノ喜樂ヲ致ス今夫レ人
皆無私ノ善行ノ報賞ヲ受ケテ而シテ無罪ノ保護セラレ夫ノ不善ノ行
爲ノ至當ノ罰ニ處セラル、コトヲ見テ之ヲ喜ハサルナキナリ故ニ嘗
テ德行アリテ一意ニ自由ト法律トヲ愛護セシ者不幸ニシテ專制政府
ノ爲メニ至大ノ痛苦ニ罹リシガ其放赦ヲ得ルニ及テ萬民歡呼シテ祝

セシコト且史家マコーライ氏カ記セル英王ゼームス第二世ノ紀ニ九
人ノ監牧師カ審判ヲ受クル條中ニ此類ノ一事見ユ此有名ナル審判中
人民利害得失ニ關スルノ憂ヲ懷クコト甚大ニシテ陪審官ノ將ニ斷案
ヲ示サントスルニ當リ龍動ノ諸民皆屏息疑懼セリ當時ノ斷案ト斷案
ヲ受クルノ狀ヲ寫スコト絶妙讀者ヲシテ當日ノ光景宛トシテ目ニ在
ヲシム其記ニ曰

サミツル、アストレ―陪審官發言シテ曰誰カ被告人或ハ被告人中ニ訴狀

上ニ記シタル如キ過失ヲ行ヒシ罪アルヲ知ルヤロジアラングレ―陪亦

官答テ曰否其罪アルヲ知ラス此語纔ニ唇吻ヲ脫スレバハリファクス

帽ヲ舉ケテ之ヲ揮ス椅子ニ倚ル者廊廡ニアル者一齊呼號シ大廳ニ群

集セシ幾千人更ニ大ニ謹諫シテ之ニ應シ其聲庭上ノ老樨樹ヲ震動スルニ至レリ是ニ於テ廳堂外無數ノ衆庶第三ノ大喊ヲ發シテテンブル
 パールニ聞ヘテームス河ヲ蔽フ船舶ヨリ聲ヲ揚ゲテ之ニ應ジ一發ノ
 砲聲忽水面ニ響ク既ニシテ聲々連發シ俄頃ニシテ歡喜ノ聲音ザボイ
 ー及フリアースヲ過ギテ龍動橋檣林ノ下ニ達セリ此新報ノ傳播スル
 ヤ人相慶シテ街陌巷衢ヨリ市場茶店ニ至ルマデ喜聲填咽セサル所ナ
 シ而シテ人ノ感情ノ極ニ至リテハ更ニ甚シキ者アリ從來英人ノ性質
 ハ嚴格ニシテ事物ニ觸レテ外面ニ形ハル、コト希ナリシガ今ヤ此性
 滅却シ此ノ如キ大喜事ノ爲メニ歡極リテ悲ミ號哭聲ヲ惜マザル者其
 幾千萬人ナルヲ知ラズ此哭聲ニ比スレバ彼ノ歡聲ハ未以テ驚異スル

ニ足ラス以上英國史第二部第八篇ニ見ユ

某效驗ノ必是非ノ動作ニ從テ生ズルヲ希望スル此ノ如キコト詩人ノ
 常ニ詠歌スル所ナリシエクスピア英國ノ有名ノ戯作者ノ作りシ演劇ニマク
 ベスガヅンケン蘇格蘭ノ王ヲ殺サンヤ殺サザルベキヤト思考スル
 トキ左ノ語ヲ述ベリ

然レドモ此事ハ吾大ニ定見アリ吾レ殺害ノ事ヲ示セバ後反テ吾ヲ
 苦シメ夫ノ至正ノ公道必毒盃中ノ物ヲシテ吾ノ口中ニ進マシム
 (マクベスノ演劇第一回第七段ニ見ユ)

第九 公道ヲ行ヘバ勇剛ノ心アリ邪曲ヲ行ヘバ怯懦ノ意アル所以ハ
 皆當ニ然ルベキ効驗ノ其動作ニ從フヲ希望スルニ原本スルコト道德

ノ理法ニ於テ然リ公正人ハ當ニ黨友ノ稱譽ヲ受クベキヲ知ル則復何
ノ懼ル所アラシヤ邪惡人ハ當ニ譴責ヲ受クベキヲ知テ其罪顯暴スレ
バ人皆己ヲ罰スベキノ憂アリ而シテ唯各人ノ明ニ之ヲ知ルヲ辨ズル
ノミナレバ則亦將タ誰ニ是倚ランヤ且其當ニ譴責ヲ受クベキヲ知ル
ノ心ト共ニ生ズル他念アリ此自罪悔恨ノ念ニシテ其犯者ノ精神ヲ苦
シメ氣力ヲ壓スルハ外部百般ノ事ニ過グルコト遠シ

故ニ先王ソロモン曰惡人ハ追趕セラレザルトキニ遁ルト雖モ善人ハ
剛ナルコト獅子ノ如シ

正道ヲ以テ争フ者ハ三襲戎裝ヲ着ク不正ヲ以テ良心ヲ害スル者ハ
鐵甲ヲ被ルト雖モ猶裸體ナリ(此語顯理第六世ノ演劇第二部第三

回第二段ニ見ユ)

道德ノ理法然ルヨリ罪過ノ掩フベカラズシテ顯暴スルコト此ノ如ク
確實ナル所以明ナリト雖モ人罪過ヲ行フノ前ニ之ヲ行テ暴露セザル
無キ所以ノ理ヲ豫知スル能ハズ且他人ノ爲メニ疑ハルヘキ所以ノ理
ヲ悟ル能ハズシテ若シ疑ハルレバ爲メニ之ヲ解クノ千百手段ヲ想像
ス然レドモ罪過ヲ行ヘハ其朋友ニ對スル倫ノ全ク亡滅スルコトヲ認
知シ萬事ヲ處スル皆虛偽ノ方法ニ於テシ無罪者ノ如ク行フ能ハズシ
テ其爲ス所過不及アルヲ免レズ而シテ其爲ス所ノ此ノ如ク異ナルハ
則常ニ其罪過ノ顯暴スル手段トナルナリ夫レ己ノ心ニ生ズル所ノ效
驗既ニ此ノ如クシテ而シテ又人生ノ勢然ラシムル者ニ因テ以テ全ク

吾管制ヲ受ケザルノ動作ニ隨從スル事アルヲ見レハ罪人ノ免ル、鮮キ此ノ如キモ亦怪ムニ足ラズ此レ「殺セハ必顯ハル、」ト云ヘル諺アル所以ニシテ亦吾ノ常ニ大ニ然リトスル所ナリ

罪惡ノ品行ヲ害スル此ノ如キコト常ニ人ノ注意セシ所ニシテマクベスガツンケンヲ殺害セシノ後語ヲ曰

百般鬧噪ノ吾ヲ恐ストキニ方リ吾心如何ゾヤ罪惡ハ舌ヲ資セズト雖モ話スベシ疑念常ニ罪惡ノ心ヲ獵ス盜賊ハ叢樹ヲ以テ皆捕吏ナリトシテ畏避ス

同般這事ヲ常ニ神典中ニ記載ス曰惡人自ヲ作りシ網羅ニ掛ルヲ免レズ

此是非ノ動作ニ必連合スル効驗ヲ希望スル念ノ直ニ吾ニ向テ前途及報酬ノ日時ヲ指示スルコトニ着意スベキハ固ヨリ論ナシ吾レ善徳ハ必褒賞ヲ受ケ凶惡ハ必罰責ヲ受ケ并ニ此報酬ノ避クベカラザルコトヲ知ル然レドモ此報酬ノ現世ニ於テ生スルハ完然ナル能ハス故ニ更ニ各自人物ヲ特別ニ保護スル世界アリ且諸件ノ動作ハ全知至聖ナル審判者ノ手ヨリ相當ノ報ヲ受ル公正ナル法庭アルヘシ故ニ新約全書保羅カ^{コリント}哥林多人ニ達スル第二書第五章第十節ニ吾輩必基督ノ審案ノ前ニ立テ吾身行フ所ノ善惡ニ從テ報ヲ受クト記セリ

殺害ノ事ヲ審判スルニ於テウエブスター氏ノ論ハ余カ此題目ニ就キテ主張セシ説ヲ助クルコト大ナルガ故ニ今揭示シテ以テ本章ノ局ヲ

結ブ曰人苟モ本分ヲ辨スルコトヲ以テ度外ニ置カザレハ抵抗スル能ハズ避逃スル能ハザルノ惡事ナクシテ本分アルコトヲ知ル心常ニ吾ニ追隨シテ各所ニ存在スルコト神明ノ如シ故ニ人早朝ニ飛航シテ居テ遠洋ニ轉ズルモ其本分ヲ行ヒ或ハ本分ヲ犯セシコト猶己ニ追隨シ以テ福祉禍災ヲ致スナリ若シ冥々吾ヲ蔽フベシトイヘバ冥々中猶昭々中ノゴトク吾本分ハ吾ト共ニ在リテ其威力ヲ避クル能ハズ又其存在ヲ免ル、能ハズ本分ハ此生命中ニ吾ト共ニ在リ而シテ生命ノ終モ亦吾ト共ニ在ルヘシ且身後ト雖モ至大威嚴ノ場中ニ於テ吾猶本分ヲ辨スル知識ヲ去ル能ハスシテ或ハ此本分ヲ犯セシテ悔恨シ亦上帝ノ恩惠ニ賴テ之ヲ奉行スルヲ得タルヲ喜樂スルコトアルヘシ

○第三章良心ノ威權

良心ト名ツクル能力アルコト及良心ハ辨別スル能力ナルノミナラズ并ニ推動スル能力ナルコトヲ論著スル右ノ如シ次ニ考究スベキハ此推動力ノ威權ノ何タルヤニ在リ

本章ノ主トスル所ハ良心ハ人ヲ感激スル至大威權アル推動力ナルコトヲ示スニ在リ而シテ其至大ノ威權ハ諸種ノ方法ニ依テ著明セララハナリ

甲 此威權ハ人此能力ヨリ成ス所ノ意見ノ中ニ包有セララル

人ヲ感激スル諸種ノ推動力或ハ勢力ヲ以テ勝ル者アリ或ハ威權ヲ以テ勝ル者アリ推動力ニ唯勢力ノ多少アルノミト思フトキバ最大ノ勢

力ニ從テ妨ナカルベシ譬バ目前ニ陳列セル諸種ノ食物何レモ健康ヲ害セザレハ吾擇ム所ノ者即最強ク食欲ヲ推動スル者ヲ取りテ之ヲ食フ可ナリ又旅行スルニ陸ヨリセンカ或ハ水路ヲ取シカヲ定ムルトキ兩者ノ中其更ニ己ヲ慰樂スル者ヲ撰ムヲ禁ゼズ然レドモ推動力ニ威權ノ多少アルトキハ復其勢力ノ多少ヲ顧ミズ而シテ勢力少キモ威權更ニ大ナル者ニ從ハザル可ラズ譬バ異味ノ食物ヲ欲スルノ念劇ナルトキニ其健康ヲ害スベキヲ知レバ自愛ノ心能ク己ヲ戒メテ之ヲ食ハザラシムベシ是ヲ以テ自愛ノ念ハ情欲ヨリ威權アル推動力ヲ有スルガ故ニ其諫戒ノ勢力少ナシト雖モ之ニ從ヒ而シテ食欲ノ推動ハ勢力強シト雖モ之ニ從ハザルベキコトヲ知ルナリ然ルニ食欲ノ推動力強

キガ故ニ之ニ從ヒ自愛ノ念ノ勢弱キガ故ニ之ニ從ハザレバ我自ラ吾ヲ非斥シ且吾天性ニ適セザル行爲ナリトスルノ知覺ヲ懷キ而シテ他人ノ此ノ如ク行フヲ見レバ吾之ニ對シテ輕慢ノ意ヲ懷クヲ免レズ且凡ソ吾陋劣ノ意見ニ從ヒ高尚ノ意見ニ從ハザルトキハ常ニ吾ヲ非斥スル知覺ヲ懷クト雖モ若シ推動力ニ唯勢力ノ多少アルノミナレバ此知覺ヲ懷カザルベシ之ニ反シ彼ニ非スシテ此ニ從テ行フガ爲メニ己ヲ非斥スル知覺ヲ懷クトキハ常ニ吾更ニ高キ威權アル者ヲ犯セシコトヲ知ルナリ

今諸件脩身ノ動作ニ觸ル、ノ知覺ヲ熟考スレバ其良心ノ諫戒ノ勢弱キカ故ニ之ニ從ハス食欲ノ推動力強キカ故ニ之ヲ肆ニスルニ方リ常

ニ已ラ嗔斥スルノ意アルヲ覺ユベシ人ヲ殺ス者アリテ復讎ノ念已ニ
 遍ルコト良心ノ諫戒ヨリ強キカ故ニ然カセシトイフヲ以テ其罪ヲ減
 ズベシト思フヲ得ズ然レトモ吾此推動力ニ勢力ノ多少アルノ外他物
 ノ多少アルヲ知ラサルトキハ此事以テ復讐ノ口實トナリ其公義タル
 ヲ保スルニ足ラン且良心ニ反スル推動力ニ從テ行フト雖モ當然ニシ
 テ非斥スヘカラサル所ノ事ナキヲ以テ良心ノ推動力ノ至大ノ威權ヲ
 有ツノ確證トナスベシ故ニ吾萬事ニ處スルニ他物ヲ顧スシテ只良心
 ノ推動ニ從テ惑ハザルコトヨリ更ニ貴重スベキ品行アルヲ知ラズ蓋
 シ良心ノ推動力ハ他ノ諸推動力ヨリ尊貴ナル威權アル者タルコトヲ
 表ハスガ爲メノ明證更ニ此ヨリ著キナシ

乙 人ノ動作ヲ把テ禽獸ノ動作ト比較スルニ當リ吾中心ニ生スル知
 覺ニ注意スレバ亦以テ此道理ヲ著明スルニ足ルベシ
 禽獸ノ食欲ノ爲メニ過食シテ身ヲ害シ又ハ情慾ヲ縱ニシ及忿怒ヲ發
 シテ他ノ禽獸ヲ害スルヲ見ルニ當リ吾曾テ不正邪曲トナシ以テ忌惡
 スルノ念ヲ懷カズ反テ之ヲ憐デ爾來此ノ如キ舉動ヲ行ハザラシメン
 ト欲ス夫レ禽獸ノ此ノ如キ動作ヲ行フトキニ蔑視非斥スベシト思ハ
 ズト雖モ人此ノ如キ舉動ヲ爲セバ吾之ヲ忌惡スルノ念ヲ懷キテ其天
 性ニ背キテ行ヒシト確定セザル能ハズ故ニ人ヲ呼デ禽獸トイヒ食欲
 者トイヒ大食者トイフハ尤之ヲ蔑視シ極勵過激ノ語氣ヲ以テ其人々
 ルノ道ニ背キテ天賦ノ性ニ反シタル舉動ヲ行ヒシヲ罵ルナリ

又曰吾禽獸ノ目前ノ食欲ヲ縱ニセズ亦全ク同類ノ利益ヲ顧ミズシテ
 唯己ノ利益ヲ求ムルニ意アリテ行フヲ見レハ忌惡ノ念ヲ懷カスシテ
 寧哀憐ノ心ヲ生スルコト少カラス故ニ禽獸ノ餌食ヲ取り危難ヲ遁レ
 及務テ多量ニ其嗜好ヲ快クスルコトヲ稱シテ伶俐トイフ此時ニ方リ
 彼レ上帝ノ之ヲシテ感動セシムル至高ノ推動力ニ從テ行ヒシコト知
 ルヘシ然レトモ人ニシテ其行フ所此ノ如ク惟自己ノ幸福ニ注意スル
 ノミニシテ他ヲ顧ミス苟人ノ福利ヲ耗損シ以テ一毫モ吾福利ヲ増殖
 スルヲ願フコト甚シキハ此常ニ貪欲ヲ縱ニシテ忠恕ノ念ナキ凶惡徒
 ノ品行ニシテ我之ヲ見レハ非斥賤汚スルノ念生シテ以爲ラク彼其感
 動スヘキ至貴ノ推動力ニ從テ行ハスト且詩歌ヲ綴ル者謗書ヲ作ル者

及史冊ヲ編ム者モ皆此事狀ヲ記シテ以テ其普ク厭惡忌避スヘキコト
 タルヲ示スナリ

又一人アリテ情欲嗜好自愛ノ推動ヲ顧ミス萬事ニ處スルニ良心ノ諫
 戒ニ從ヒテ娛樂ニ沉溺セス又權力ニ恐懼セスシテ行フヲ見レハ吾則
 以爲ラク彼其天性ノ上進スベキ至高ノ頂點ニ達シ且其天性ノ感動ス
 ベキ至貴ノ推動ニ從テ行ヘリト是ニ於テ其貴キコト復何物カ之ニ勝
 ル者アラント確定シ且其上帝ニ對シテ行フヘキ誠敬ヲ行フヲ知り加
 之史冊モ亦歴々之ヲ記シテ以テ其善德ニ服從スルヲ示スナリ審司ア
 リ無罪者ヲ罰スレハ後人ハ審司ヲ罰スヘシ凶暴ノ徒アリ身ヲ以テ道
 ニ徇フ者ヲ殺セハ後人ハ被殺者ヲ敬シテ之ヲ殺ス者ヲ惡ムヘシ且吾

往時ヨリ争テ稱賛記傳スル所ノ諸人物ヲ視ルニ小節目ニ於テハ各一長一短アリト雖モ高明不昧ノ德光ヲ以テ表見スルニ至リテハ彼此相同シト思察スルナリ今造物主ノ吾輩ヲ創造スル斯ノ如ク且天授ノ理法ニ因テ吾人ノ良心ハ人性ノ至大ノ威權アル推動力ナルコトヲ思考スル斯ノ如シ故ニ苟モ造物主ノ吾ヲ欺カサルヲ信シ而シテ詐偽ヲ信スヘク吾人ヲ造ルト爲スアラザレバ則良心ノ至大ノ權勢ヲ有スルコト必セリ

丙 良心ノ至大ノ權勢ヲ有スルコトハ人ノ創造セラル、所以ノ目的ヲ遂クルカ爲メニ此權勢無カルベカラザルコト明ナルヲ以テモ亦顯著スルナリ

人工ノ物品ヲ見テ其諸部ヲ結構シテ至當ノ目的ヲ遂グルガ爲メニ齊備セシ具ナリト思フトキ着眼スベキ三條アリ其物ヲ審知スルニ三者皆輕忽ニ看過スベカラズ

第一 先ツ結構シテ其物ヲ成ス諸部ヲ知ラサルヘカラス故ニ時規ノコトヲ知ル者ハ必時規ヲ成ス諸種ノ輪ト發條トヲ知ルナリ然レトモ單獨ニ之ヲ示シ譬ハ輪ト發條トヲ分詳シテ机上ニ陳スレハ彼レ時規ヲ審知スル能ハサルヘシ

第二 故ニ又諸部ノ如何ニ結構スルヤヲ知ラサルヘカラス此ヲ知ルノミニテハ未足レリトスルヲ得ス之ヲ知テ又諸部ノ互ニ相保ツ所ノ關係ヲ知り而後之ヲ審知トイフヘシ今火輪船ヲ見テ其全部ノ機械ヲ

熟知スレトモ撥水板^{ミツカキイタ}ノ唧子幹^{ミツコシボツ}ヲ動カスヲ要スルヤ或ハ唧子幹ノ撥水板ヲ動カスヲ要スルヤ未知ヲザルコトアリ

第三 故ニ又諸部ノ互ニ相保ツ所ノ關係即此諸部ノ彼ノ諸部ニ生ズベキ功用ヲ知ラザルベカラズ之ヲ知り且前ノ二者ノ知識ヲ有スレハ是ニ於テ審ニ機關ヲ知り得ルナリ

此第三條諸部ノ互ニ相保ツ所ノ關係ヲ知ル意見ハ常ニ他ノ二條ノ意見ヨリ必要ナルコト明ナリ蒸氣機關ノ運動ノ原因ヲ知り及目的ヲ遂ル所ノ方法ヲ辨スルヲ以テ諸部ヲ知ル明ニシテ謂ハユル關係ヲ知ラサル者ニ比スレハ器械ノコトニ關シテ更ニ貴重ナル意見ヲ有スルナリ吾レ天學ノ記傳ヲ見テ古人多年間太陽系ノ諸部ノ在ルコトヲ知レ

トモ成功ノ甚賞スヘキナキコトヲ覺ユ爾後コベルニクスカ諸部ノ互ニ相保ツ所ノ關係ヲ發明セシ時ヨリ天文ノ學漸ク進歩ス

今造物者ノ其物體各部ノ互ニ相保ツヲ要スルノ關係ヲ辨明セント欲セハ關係ノ順序ナル者ヲ確知スルノ外ニ方法アルナシ關係ノ順序トハ之ニ從フニ因テ物體ノ創造セラル、所以ノ目的ヲ遂得ル者ヲ謂フナリ故ニ時規ノ諸部ノ互ニ相保ツヲ要スル所ノ關係ヲ辨明セント欲セハ關係ノ順序即之ニ從フニ因テ時規ノ製作セラル、所以ノ目的タル時限ヲ保ツコトヲ遂得ル者何タルヤヲ考究スヘシ譬ハ諸部ヲ逐一試ミ其運動ノ原故タルコトヲ思想シ又彼ノ目的タル時限ヲ保ツコトヲ遂ケラル、ヤ否ヲ經驗ニ因テ確知シ以テ考究ヲ爲スヘシ既ニ盡ク

諸部ヲ試ミ且大發條ハ運動ノ根本タリ平衡車ハ運動ヲ齊理スル者タルノ關係ニアラスシテ他ノ關係ヲ諸部互ニ相有テハ能ク其目的ノ遂得サルコトヲ證明シ而後此則時規ノ製造人ノ其諸部ノ互ニ相保ツテ要スル所ノ關係ナルコトヲ確定スルナリ請フ其說ヲ反復セン曰諸種ノ目的ヲ以テ設ケシ器械アランニ吾初ニ發明シタルノ關係ニアラズシテ他ノ關係ニ依レバ此目的ノ一モ成就スルヲ得ザルヲ知レバ則此レ器械製造人ノ諸部ノ互ニ相保ツテ要スル所ノ關係ナルコトヲ証明スルナリ

今夫レ人モ亦此方法ヲ以テ諸部ヲ合セテ構成セラレシ物體ニシテ各種ノ力才能及推動力ヲ有ス而シテ某ノ結果ヲ成スコトヲ企望セラル

トコト明ナリ抑人ヲ生成スル所以ノ企望ヲ論スレハ衆人意見異ナリト雖モ其中相同シキ者一個アルコト疑ナシ

人タル者自己ノ幸福ヲ生ズル企望ノ爲メニ生成スルハ衆人ノ同ク然リトスル所ナリ人ノ五官知識愛情及此數者ト連接スル所ノ外面ノ物體ニ着意シ且此才能ノ之ニ適スル物體ニ向テ顯ハル、當然ノ作用ノ結果ヲ視察スレバ誰カ須臾モ此レ人ヲ生成スル所以ノ一箇ノ企望ナリト信セザル者アラシヤ故ニ目ハ喜樂ノ根原タルヲ要スルコト明ニシテ猶其觀覽ノ具タルコトヲ要スルガ如シ耳ハ喜樂ノ根原タルヲ要スルコト明ニシテ猶其聽聞ノ器タルヲ要スルガコトシ他ノ才力ニ至リテモ亦然リ

然レトモ人ハ幸福ヲ生ズル爲メノ器物ナリト思想セハ則亦人ヲ以テ
 社會ノ者タリ并ニ一己ノ者タリト商量スベシ一己ノ幸福ハ大半社會
 ヨリ生ズ故ニ社會人ノ幸福ヲ害スル者ハ亦一己人ノ幸福ヲ害スベシ
 而シテ一利一害總テ實質ニ於テハ單獨タルヲ得ズ此人生必然ノ理法
 ニ出ルナリ故ニ凡ソ人眞ニ一己ノ幸福ヲ増ス者ハ社會ノ幸福ヲ増シ
 社會ノ幸福ヲ増ス者ハ一己ノ幸福ヲ増ス此ニ見ルアリテ而後社會人
 ヲ以テ社會人ノ幸福ヲ生スルノ器トシ一己人ヲ以テ一己人ノ幸福ヲ
 生スルノ具ト思考スベシ
 今此ニ說解セシ文義ヲ以テ人タル者ハ人間ノ幸福ヲ生ズル爲メノ器
 具ナリト思フヘシ

人ノ有スル推動諫戒ノ能力ハ大概三種ヲ以テ之ヲ括スルナリ
 第一 情欲即嗜好 此能力ハ人ヲシテ目前ノ歡樂ヲ生スル所爲ヲ行
 ハシムルヲ要ス故ニ食欲ハ吾ヲシテ食テ飽クヲ求メシメ權力ヲ慕フ
 ノ念ハ吾ヲシテ勢威過絶スルニ因テ己ヲ快クスルヲ求メシム其他ニ
 至リテモ亦猶此ノコトシ此能力ノ實質ニ注意スレバ其人ヲシテ自他
 ノ身上ニ如何ナル利害ヲ致スヘキヤヲ願ミス專ラ目前ノ嗜好ヲ縱ニ
 セシムルヲ知ルベシ且此能力ハ其自ヲ致ス所ニ因テ歡樂愉快ノ勢ヲ
 減消スルニ至ルマテ益放縱ニシテ禁制ノ期ナキコト明ナリ今飲食ノ
 欲ハ既ニ飽キ復食フコトノ樂ヲ覺エザルニ至ルマデハ吾ヲ懲慰シテ
 之ヲ食ハシム財貨ヲ好ミ威權ヲ慕フノ念モ亦時勢ノ自然ニ因テ厭制

セラレザル時ニハ厭足スル所ナシ此時ニ當リテハ人生ノ理法能ク吾
飽滿ヲ求ルノ勢ヲ防ク力ヲ有タズ而シテ嗜欲ハ之ヲ快クスレバ從テ
益長スルナリ

第二 己ヲ利セント欲スル意即自愛 此能力ハ吾ヲ勸誘シテ自己ノ
幸福ヲ求ムルニ目下ニ於テセズシテ將來ニ於テセシム今嗜好來リテ
食フコトヲ吾ニ勸ムレハ自愛ノ念ハ己ノ爲メニ至大ノ利益ヲ生ズベ
キ物ヲ適宜ニ食フヲ愆愆ス情欲來リテ怨恨ヲ報スルヲ勸ムレハ自愛
ノ念ハ吾今受クル所ノ痛苦艱難ヨリ大ナル者ニ陷ラザランコトヲ愆
忍シ且吾ニ戒告スルニ怨恨ヲ報ズルモ現今ト來時ニ吾幸福ヲ生ズル
ニ非レバ寧情欲ヲ禁制シテ復讐ヲ果サザルベキヲ以テスル也然レド

モ時ト事トヲ問ハス凡ソ自愛ノ念ノ愆愆スル所ハ專自己ノ幸福ヲ生
ズルニ在リテ毫モ他人ノ幸福ヲ生ズル者ニ在ラザルナリ

第三 良心 良心ハ夫ノ推動力ト異ナリテ吾ニ勸勵スルニ嗜欲ノ放
縱ヲ禁シテ己ヲ害セズ亦人ヲ害セザルホドニ之ヲ快クスベキヲ以テ
ス且吾自愛ノ念ヲ管理シテ吾ヲシテ自己ノ利益ヲ生ズル方法ニ從テ
行ハシムルノミナラス又自己ノ利益ヲ求ムルニ耽リ以テ他人ノ利益
ヲ妨礙スルヲ禁ズル所ノ方法ニ從テ行ハシムルヲ勗ムルナリ然レド
モ吾今敢テ良心ハ必シモ常ニ我ヲ訓戒スル此ノ如キニ至ルト云ハズ
又其我ヲ訓戒スルニ方リ必シモ常ニ成効アリト抗論セズ我レ其訓戒
ニ從ハザラント欲スレバ從ハザルコトアリ或ハ下文ニ説ク道理アル

ヨリ其訓戒ノ廢絶スルコトアリ此ニ説ク所ノ者ハ此能力ノ趣向目的及能ク此能力ニ從フヨリ生スベキ効驗ナリ自己ノ心ノ作用ヲ顧慮スル者ハ是此能力ノ趣向タルコトヲ疑フヲ得ズ

今夫レ人ハ自己ト社會ノ幸福ヲ長ズル爲メノ物體ニシテ此諸種ノ推動力ハ其部分ナリト想フベシ抑此力ハ其實質ニ於テ往々相抵觸シテ一ハ勸メテ動作ヲ行ハシメ一ハ諫メテ行ハザラシム故ニ此力ノ相互ニ如何ノ關係有ルニ因テ人ノ幸福ハ至大ノ成功ヲ以テ増加セラル、ヲ得ルヤノ間アリ

第一 此推動力ノ相抵觸スルニ方リ當ニ孰ニ從フベキヤヲ問フハ無益ニ属シ畢竟此ニ從フモ彼ニ從フモ自己及社會ニ幸福ヲ生ズルコト

一様ナリト云フハ確論タルヲ得ズ何者此説ノ主意ニ曰ク人常此ニ從ハザレバ則必彼ニ從フ故ニ衆人均シク幸福ヲ受ク且此舉動ヲ行フテ快樂ヲ得ルハ猶他ノ舉動ヲ行テ然ルゴトシト余以爲ラク古今衆人ノ實驗ト正ニ背戾スルコト未此ノ説ヨリ甚シキ者有ラズ果シテ言フ所ノ如クナレハ大食シテ痛苦スル者ハ節食シテ健康ナル者ト一様ニ幸福ナリ且子ロ及ガリグラハホーワルド及ウイルベルフオルスト均シク人類ノ爲メニ仁愛アル者ナリト抗論スルモ可ナリ

第二 然ラバ則此能力ノ孰ヲ以テ高貴ナル者ト定ムベキヤニ注意スルコト吾幸福ヲ致スカ爲メニ要スル所ナキニアラザレバ彼此ノ如何ノ關係ニ因テ人ノ幸福ハ至大ノ成功ヲ以テ増加セラルベキヤ

第一 人ノ幸福ハ他ノ推動力ヲシテ嗜好ト情欲ニ從ハシムルニ因テ増加セラル、ヤ
嗜好ト情欲ノ本質ハ上ニ説述セシ如クナルガ故ニ他ノ推動力ヲシテ之ニ從ハシムルノ結果ハ疾病及死亡ナルベシ其所爲タル毫モ將來ニ着意セズシテ快樂ノ勢力盡クルニ至ルマテ諸種ノ好欲ヲ逞クシテ節制セズ且將來ノ利益幾許カ大ナルヤヲ顧ミズシテ目前ノ困苦飢餓ヲ忍ブコトヲ欲セザルナリ此ノ如キ所爲ハ今日ノ理法ニ因テ一己ノ爲メニ禍殃ヲ生ズルノ外他ナキコト知ルベシ又其社會ニ及ボスノ効果ハ全ク之ヲ殄滅スルニアルベシ此レ人ヲシテ己ヨリシ或ハ他人ヨリシテ己ニ致ス所ノ効驗ヲ視察セズ黨友ノ幸福ヲ犯シテ損害ヲ生ズル

ヲ顧ミズ以テ專目前ノ娛樂ヲ縱ニスルコト禽獸ノ如クナラシム果シテ人ヲシテ此ノ如キ方法ニ從ハシムレバ其禍社會ヲ顛覆スルニ止ラズ數年ニシテ盡ク人類ヲ殄滅スルニ至ラン

第二 他ノ推動力ヲシテ自愛ノ念ニ從ハシムルニ因テ人ノ幸福ハ極メテ増加セラル、ヤ

蓋シ最明敏ナル自愛ノ念ニ因ルト雖モ將來ノ事ヲ計リ及身邊百物ノ結果ヲ辨ズル知識ヲ以テ自己ノ幸福ヲ保全シ難キコト明ナリ目前ノ喜樂ヲ捨テ或ハ目前ノ困苦ヲ忍ブトキニ當リテ吾希望ズル利益ヲ得ベキヤ否ヲ十分ニ知ラザルコトモ亦必セリ夫レ各部ヲ合シテ成ル所ノ全體ハ單獨一己ノ福利ヲ保全スル爲メニ製造セラル、ニ非ズ吾偏

ニ己ノ身ヲ顧ミテ筭ヲ運スルハ彼ノ全能ニシテ一視同仁ナル上帝ノ爲メニ禁制セララル夫既ニ吾自愛ノ念ノ希望スル結果ヲ保ツヲ確定スル能ハザルコト此ノ如クナレバ則吾ヲシテ當然ニ行フニ因リ己ヲ喜樂セシムベキ所以ノ元質ノ動作ニ在ルヲ要スヘシ其來時ノ結果ニ關スル如何ハ豫メ計リ難シ故ニ姑ク之ヲ問ハズシテ可ナリ

自愛ノ念ニ從テ舉動ヲ行フノ至善ニ非ルコトハ大教正ウオルセーノクロンウエルニ訓誡セシ語中ニ高妙ニ著ハサル、コト左ノ如シ

吾カ衰敗ト吾カ衰敗スル所以ヲ記念スヘシ我レ君ニ名利ノ念ヲ去ルコトヲ忠告ス君能ク始終自重シテ己ヲ惡ム者ヲ敬シ公正ニシテ畏懼スル勿レ眼目ヲ國家及上帝及眞實ノ道ニ着クベシ此ノ如クニ

シテ敗亡スレハ此國ニ徇ヒ神ニ徇フニ身ヲ以テスルナリ何光榮カ之ニ如カン(此語顯理第八世ノ演劇第三回第二段ニ見ユ)

實理ニ依リ良心ニ從テ公道ヲ行フヘシ其一生ヲ了シ死スルニ及テ孤寒者墓上ニ來哭シテ涕ヲ遺骨ニ洒ガン(同上)

ピユルンスガ少年ニ與ル書

志ヲ成スノ後ト雖モ小心謹慎スベシ嗜欲ヲ違クスル甚シケレバ計畫スル所アルモ失敗ヲ免レヌ

ピユルンスガ鼠巢ヲ覆スコトヲ咏ズル詩

鼠ヨ豫メ期セシ目的ヲ誤ルコト豈特ニ汝ノミナラン鼠トナク人トナク十分ニ結構セシ謀圖ヲシテ徒爲ニ歸セシメ喜樂ヲ欲シテ憂愁

痛困ヲ致スコト往々之アリ

且制限ナキ自愛ノ念ニ由テ行フ者ハ自己ノ幸福ニ關スルノ外ハ他ノ目的ヲ知ラズ是ヲ以テ他人ノ幸福ハ如何ニ多量ナリト雖モ之ヲ害シ己ノ幸福ハ如何ニ少量ナリト雖モ之ヲ保ツベシ夫レ衆人皆此方法ニ從テ行ヘバ必普天下ノ騷亂ヲ生シ弱者ヲシテ咸ク至強者ニ服セシメ以テ衆人ノ福祉ヲ一人ニ占有シ人ノ受クベキ幸福ヲ生ズルコト至少ナルニ至ル且世俗常ニ此ノ如ク行フ所ノ人ヲ目シテ不幸凶惡ト稱ス故ニ此ノ如キ所行ノ結局ハ他ノ諸人ノ災害ニ由テ我ニ災害ヲ及ボス要スルニ其勢全ク幸福ヲ亡滅スルニ在ルナリ此ニ由テ之ヲ觀レバ人ノ至大幸福ハ其諸種ノ推動力ヲシテ自愛ノ念ノ管理ニ屬セシムルニ

因テ増加セラル、能ハサルコト明ナリ

今人須ラク推動力ヲシテ良心ニ服從セシムル者ト爲スベシ然ラハ則良心ノ趣ク所ハ嗜好情欲ヲ制限シテ全ク自己ノ幸福ヲ保タシメ且自愛ノ念ヲ節抑シテ自己ノ幸福ヲ求ルガ爲メニ黨侶當有ノ幸福ヲ犯サシメザルニ在ルナリ各人此法度ニ依リテ其推動力_{良心ヲ}ニ管理セラ_{言フ}ルレバ各天賦ノ力ヲ用非テ生成シ得ル諸種ノ幸福ヲ受クベシ衆人皆此ノ如クナレバ亦盡ク其理法ノ許ス諸種ノ幸福ヲ有スベシ夫レ一己及社會人ノ幸福ハ極メテ辨明シ易キ方法ヲ以テ設備セラル、コト此ノ如シ故ニ凡ソ人一己タリ社會タルノ別ナク共ニ幸福ヲ生ズル爲メノ器ナリト思想スレバ前文ニ示教セシ關係ニ因テ即良心ハ高貴ニシ

百
テ自愛ノ念ト情欲トノ二者ヲ管理シ而シテ自愛ノ念ハ又能ク夫ノ高
貴ナル道理ニ禁防セラレザルトキニ在リテ情欲ヲ管理スルニ因テ尤
善ク其製造セラル、所以ノ目的ヲ遂グ然ラバ則是レ造物者ノ意匠ニ
出デ、人ノ能力ノ間ニ定メシ關係ナリ

人一已タリ社會タルノ別ナクカヲ生ズル爲メノ器ナリト思想スレバ
其製造セラル、所以ノ目的ハ此ニ示教スル關係乃良心ノ威權ハ高貴
ナリトスルノ理ニ由テ至善ニ成就セラル、ヲ得ルノ明ナルコト猶右
ノ狀ニ於ルガ如シ此理ヲブツテル氏ノアナロジ書第一篇第三章ニ
於テ正確ニ論著セリ故ニ人ノ製造セラル、コト、思想スル所以ノ當
然ノ目的ハ人或ハ之ヲ何ト云フモ他ノ推動力ヲシテ良心ノ推動ニ從

ハシムルニ因テ至善ニ成就シ否ラザレハ之ヲ成スベキ他ノ工夫ナキ
ヲ知ルヘシ此レ造物者ノ意匠ニ出デ、人ノ能力ノ間ニ定メシ關係ナ
ルコト瞭然タリ

前論已ニ正當ナレバ之ニ次クニ左ノ言ヲ以テスベシ

第一 上帝人ニ與フルニ德義ヲ行フヘキ推動力ヲ以テスレハ其實ニ
人ニ望ムニ德行ヲ以テスルコト猶他ノ見ルコト或ハ聞クコトヲ以テ
之ニ望ムカ如シ

第二 人ノ天性ニ於テ此推動力が至大ノ權勢ヲ有スレハ則人ノ製造
セラル、コト他ノ爲メニスルニアラス專德行ノ爲メニ製造セラル、
コトモ亦明ナリ

第三 故ニ凶惡ナル人ハ其天性ニ背キテ行フノミナラス且其天性至貴ノ推動力ニ背キテ行フナリ概言スレハ他人ニ知レ難キホドニ甚シク其天性ニ背キテ行フナリ

○第四章良心ノ修養ヲ論ス

良心ハ他ノ諸種ノ能力ヲ修ムル方法ヲ制定スル所ノ一般ノ規則ニ從ヒ而シテ良心ハ之ヲ用非レハ強トナリ用非サレハ弱トナルナリ其之ヲ用非ルト云フ者ハ唯此能力ヲ用非ルヲ言ヒ他ノ能力ヲ用非ルヲ言フニ非ルコトニ注意スルヲ要ス但此事ハ至明瞭ニシテ會得シ易ク誤解アルコト希ナリ人皆腕ハ脛ヲ用非ルニ因テ強トナルニ非ズ目ハ耳ヲ用非ルニ因リ嗜好ハ悟性ヲ用非ルニ因テ強トナルニ非ルコトヲ知

ル良心モ猶此ノコトクシテ記性ヲ用非ルニ因ラス嗜好ヲ用非ルニ因ラス又悟性ヲ用非ルニ因ラスシテ良心ヲ用非且規則ニ遵適シテ上帝ノ希望スル形勢ニ從テ之ヲ用非ルニ因テ強トナルナリ良心ハ修身書ヲ讀ムニ因ラス又脩身教ヲ服膺スルニ因ラス又修身ノ變化ヲ想像スルニ因ラス而シテ良心ノ訓戒ヲ聽テ其推動ニ從フニ因テ修養セラルハナリ

良心ノ訓戒ノ本性ヲ熟考スレハ其職ニ三重ノ品質アリ

- 甲 能ク人ヲシテ動作ノ質ノ是非ヲ辨明セシム
- 乙 人ヲ勸勵シテ公正ヲ行ヒ邪曲ヲ避テ之ヲ行ハサラシム
- 丙 人ノ公正ヲ行ヒントキ之ニ喜樂ヲ基シ邪曲ヲ行ヒントキ之ニ

憂愁ヲ基ス

今良心ノ此三者ヲ修善シ及之ヲ犯害スルノ方法ヲ説クヘシ

第一 良心ノ辨別力ヲ論ス

甲 良心ノ辨別力ハ動作ヲ行ヒシ前後ニ於テ其質ノ是非ヲ熟考スルニ因テ修養セラル、ナリ一舉動ヲ行ハント決スルノ前或ハ己ムヲ得スシテ之ヲ行ハントスルニ臨テ注意シテ此レ公正ノ事ナルヤ嗜好及自愛ノ念若クハ良心ニ推動セラル、ヤヲ究問スレハ吾カ本分ヲ誤ルコト希ナルヘシ假令動作ヲ行ヒシ後ニテモ私情ヲ挾マスシテ熟察スレハ容易ニ其是タリ非タルコトヲ審判スヘシ此ノ如ク諸種ノ勉力ヲ用ヰルニ因テ謂ハユル良心ノ辨別力能ク強トナリ益分明ニ是非邪

正ヲ辨シ而シテ向ニ混同錯雜シタル如クニ見エシ動作ヲ判決スルナリ

乙 良心ノ辨別力ハ至善ノ品行殊ニ吾造物主ナル上帝ノ品行吾救主ナル耶穌ノ品行即諸種道德ノ本源タル者ヲ熟考スルニ因テ修養セラル猶夫ノ嗜好及美麗ニ感スルノ情ノ精工ノ器物及極愛重スヘキ天然ノ景狀ヲ思想スルニ因テ修養セラル、カコトク良心即道德ノ感情ハ凡ソ脩身ノ法トナルヘキ善良高妙ノ事物ニ思考ヲ注クニ因テ修養セラル此レ模範ノ能ク此ノ如キ威權アル道德ノ果實ヲ結フ所以ナリ又此レホーワルドノ如キ武徳アリテ賢明ナル克己ノ事業一タヒ行ハレテ世人ヲシテ品行ヲ改新セシムル所以ナリ人此ノ如キ舉動ニ思考

ヲ注スレハ其道德ノ感情ヲ進好セサルヲ得ス故ニ聖書ハ能ク上帝ノ品行ト天國ノ公正ノ榮譽ヲ指示スルノ功ヲ成スナリ新約全書中ニ使徒保羅此理ヲ論ジテ曰ク「惟吾等露面ニシテ鏡面上ヨリ主ノ榮ヲ見ルガ如シ皆化シテ此像トナリ榮ヨリ更ニ榮ニシテ即神ノ靈ニ因ルガ如シ」ト

抑亦之ニ反シテ良心ノ辨別力ノ犯害セラル、コト左ノ如シ

甲 動作ヲ行フ前後ニ其質ノ是非如何ヲ舍テ、熟考セザルニ因テ犯害セラル、ナリ今好惡ノ情舍テ、之ヲ用井ザレハ鈍弱ヲ致シ復雅俗美醜ヲ辨ゼザルニ至ル良心モ亦然リ其諫戒ヲ聽カズシテ嗜欲ノ推動ニ從ヘバ是非邪正ノ分界漸々鹵莽ニ歸シテ知ラズ識ラズ此限界ヨ

リ彼限界ニ入り終ニ全ク辨別アルヲ忘レテ復省察セザルニ至ルナリ」吾レ世人ノ心身ヲ誤リ品行ヲ害スルヲ見ルニ常ニ此事ノ然ラシムルニ因ルヲ知ル人大抵是非邪正ヲ熟考セズシテ之ヲ行フ蓋最大緊要ノ事ニ臨デハ其是ナリ非ナリヤヲ問フコトアリト雖モ平常ノ行爲ヲ處スルニ當リテ此問ヲ設クル者幾希ナルヘシ此ニ論スル所ノ理眞ニ然ルヤ否ト疑フ者アレバ宜シク内ニ自省ミ吾行事中ニ就キテ熟思シ以テ其是非邪正ヲ判定スル者幾許アルヤ且事ヲ行ヒ後ニ此ノ如キ判定ヲ爲スコト幾許アルヤヲ問フベシ夫レ是非邪正ヲ熟考スルコトナキガ爲メニ弊風惡習日ニ成リ月ニ進ミ之ニ加フルニ情慾ノ誘導ヲ以テスルニ及ンデハ人ノ道德地ヲ拂フニ至ルハ怪ムニ足ラザルナリ

乙 良心ノ辨別力ハ常ニ邪惡ノ品行凶逆ノ動作ヲ思想スルニ因テ
 犯害セラル常ニ凶惡ヲ思想スルニ因テ吾情欲激動シテ邪ヲ忌ミ非ヲ
 惡ムノ心減消ス且惡人ト相熟スルニ因リ政略及社會致ス所ノ事ヨリ
 彼ニアル所ノ事ヲ以テ道德ノ品行ト同一視スルニ慣レ爲メニ吾凶惡
 ナ惡ムノ念ヲ亡失ス故ニ許多凶邪ノ風俗ヲ見ルニ狃ル、者ハ之ヲ視
 テ凶邪惡ムベシトスルノ情意復發動セズ蓋シ此理ノ明ナルハ修身上
 ノ開化進歩以テ之ヲ知ラシムルニ足ル夫レ上帝ノ人ノ道德性ヲ製造
 スル方法ノ柔ナル此ノ如クニシテ而シテ此性ノ修養シ易ク亦損害シ
 易キユト又此ノ如シ善カナポーブノ言ヤ曰

凶惡ハ怖ルベキ面貌ノ怪物ナリ惟其レ怖ルヘシ故ニ必シモ見ルヲ

要セス然ルニ人之ヲ見テ又之ヲ見ルコト幾回以テ遂ニ其面ヲ見
 ルニ慣ル初ハ勉メテ之ヲ見次ニ之ヲ愛シ後之ヲ懷ダク

此ノ如シ故ニ宜シク多ク書ヲ閱シ廣ク人物ニ接スベシト思フハ必要
 ニアラズ凡ソ凶惡ノ景狀ヲ以テ吾胸臆ニ滿タシメ或ハ吾意想ヲシテ
 不正鄙野汚穢及輕慢等ノ事ヲ創出セシムル者ハ到底吾ヲシテ邪惡ニ
 陷ラシム故ニ文學ニ敏キ者ハ嗜好ヲ害スルヲ恐ル、ガ爲メニ不正非
 禮ノ書ヲ遠ザクベシ而シテ更ニ邪惡ナル事物ニ關涉スルコトヲ嚴戒
 スベシ然ラザレバ爲メニ吾意想ヲ汚シ吾良心ヲ害スルヲ免レズ

第二 良心ノ推動力ハ之ヲ用井ルニ因テ強トナリ用井ザルニ因テ弱
 トナルナリ

此法則ヲ著明スルガ爲メニ唯人ノ活動性ノ本質ヲ考論スルヲ要ス抑人各様ノ嗜好情欲及自愛ノ念ヲ以テ賦與セラル此三者ノ一或ハ良心ノ推動ニ反シテ動作ヲ行フヲ勸誘スルコトアリ且彼此ノ推動力固ヨリ互ニ相抵抗スベシ今吾能力ハ之ヲ用ヰルニ由テ強トナリ用ヰザレハ弱トナルコト通法ナルガ故ニ良心ノ推動ニ從テ情欲ノ推動ヲ拒メバ良心ノ力強トナリ情欲ノ推動ニ從テ良心ノ推動ヲ沮メバ情欲ノ力強トナリ乃二者ノ一孰カ強トナレバ敵スル所ノ一ハ必弱トナルコト明ナリ此ニ於テカ常ニ公正ヲ行ヒ陋劣ノ志向ニ克テ己ヲ管スルコトヲ要シ務テ自主ノ人トナル者アリ又常ニ凶邪ヲ行ヒ陋劣ノ志向ニ從テ己ヲ管制スルヲ要セズ其情欲ノ力ニ服從シ高貴ノ良心ヲ弱ハメ

以テ全ク卑屈ノ地位ニ陷ル者アリ耶蘇教ハ蓋此ニ見ルアリテ人ニ示スニ天啓ヲ以テシ邪惡ノ志向ノ奴隸トナルヲ免レシムルヲ主トセリ故ニ神告テ曰神子汝ヲシテ自由ナラシムレバ汝實ニ自由トナルベシ之ニ反シテ罪惡ヲ行フ者ハ罪惡ノ臣僕ナリ

又良心ノ辨別力ヲ用ヰルハ其推動力ヲ用ヰルト相連結スルコトヲ知ル人益是非邪正ノ別ヲ省察スレバ己ヲシテ務テ此別ヲ明ニセシムル實地ノ勢力益大ナルベシ且良心ノ推動ニ從フ愈篤ケレバ良心ノ辨別力益強トナリテ其審判ヲ厲マシ且確定スベキコト復疑フニ足ラス理論ノ知識ト實地ノ施行トノ連接ハ他ノ能力ニ於テモ亦常ニ著ハル故ニ愛スベキ物体ヲ盡ク者ハ嗜好ノ辨別力ノ増加スルヲ知ルベシ則修

身上ニ此結果アルコト聖書中ニ歴記スル者左ノ如シ救主曰「凡ソ人其意志ヲ行ハントスレバ必道理ヲ知ルベシ」又曰「天之ヲ有ツ者ニ與ヘテ多ク之ヲ有タシムベシ而シテ之ヲ有タザル（詳言スレバ其有ツ所ノ者ヲ修好セザル）者ノ有ツ所ノ者モ且之ヲ奪取スベシ使徒保羅モ亦曰「兄弟ヨ我レ神慈ヲ顧念シ爾ニ勸メ爾身ヲ獻ジテ活祭ヲ爲サシム聖ニシテ神ニ悦ハル、者ハ乃爾當然ノ役ナリ斯世ニ效フコト勿レ乃爾ノ心ノ維新自化スルヲ以テ爾神ノ心志ヲ習フヲ致セ其心志ハ即善キ者悦フベキ者且全キ者ナリ」

第三 喜樂憂愁ノ基タル良心ノ感覺ハ之ヲ用井ルニ因テ強トナリ用井ザルニ因テ弱トナルナリ

故ニ人屢公正ヲ行ヘバ之ヲ行フヲ勸勵スルノ力益強トナリ而シテ之ヲ行フニヨリテ生ズル所ノ喜樂益大ナリ寛宏人ハ施濟ヲ行フニヨリテ喜樂ヲ致スト雖モ慳吝人ハ毫モ此喜樂ヲ知ラズ仁人ハ己ニ克チ人ヲ恤ミ從容以テ樂ムト雖モ己ヲ利スル者ハ唯良心ノ譴責ヲ免ル、爲メニ困苦勉強シテ善良ノ事ヲ行フ人惟仁愛ヲ行フニ慣ルレバ則益德行ヲ能シ敢テ己ヲ利セズシテ以テ大ニ人ヲ濟フヲ得而シテ遂ニ唯善是好ム者トナルナリ且此法ニ依テ上帝ヲ愛敬スル益厚ケレハ由テ生ズル所ノ福祉喜樂モ亦益永昌ナルベク而シテ上帝ノ志ヲ成ントスル願欲ノ純一ナルガ爲メニ他ノ諸件ノ思欲ハ益甚シク減却セララル、ナリ使徒保羅シヨンホーワルド及他ノ救濟者ノ傳中往々此事ヲ著明セ

リ救主ヲ謂フアリ曰「彼レ善ヲ行フヲ勉ム」救主自ラ謂フアリ曰「吾職ハ吾ヲ送リシ者即上帝ノ志ヲ成シ而シテ其工業ヲ終ルニ在リ」
又吾人須ラク現今ノ景狀ハ脩身ヲ進メ道德ヲ樂ムベキ機會常ニ生シテ絶ユルコトナキヲ思料スベシ吾カ此ノ如キ時勢ニ於テ各所毎時疾病ヲ救助セラレ憂艱ヲ吊慰セラレ無知ヲ教諭セラレ不善ヲ責罰セラレテ而シテ上帝ノ寇敵タル者彼ニ屈シテ相親睦スルコトアリ夫レ身体ノ工勞ヲ施スベキ時期ハ變化不測ニシテ吾レ之ヲ奈何スル能ハズト雖モ修身正心ノ工勞ヲ施スベキ時期ハ此ノ如キ憂アラズシテ吾欲スル所ニ從ハザルハナシ蓋シ此レ救主ガ其使徒ニ授ケシ訓戒中ニ在ル普通ノ理ナリ曰「汝四ヶ月ヲ經ルノ後收穫方ニ來ルト言ハズシテ

汝ノ眼ヲ定メテ田地ヲ視ルベシ則已ニ黃白ニシテ收穫スベシト是レ田地ハ常ニ道德ノ果實ヲ收ントスル工人ノ來リ手ヲ着クルヲ待ツノ義ナリ

若シ夫レ良心ヲ害スルニ慣ル、者ハ唯公正ヲ行フヲ勸勵セラル、コト強カラザルノミナラズ又邪惡ヲ行フヲ痛苦ヲ覺ユルコト更ニ微弱ナリ蓋シ小兒タリト雖モ初テ竊盜ヲ行ヒシ後ニハ甚悔懼スベシ然ルニ屢不正ノ事ヲ行ハバ罪惡ニ慣レ唯其暴露ヲ恐ル、ノ外ハ復顧慮スル所ナクシテ竊盜ヲ行フニ至ルベシ今夫レ少年ノ誓ヲ發スルヤ初ハ口ヲ極メテ保證スレドモ數月ヲ過ギザルニ敢テ盟ヲ渝ヘ神ヲ瀆シテ以テ意トセズ兇人初テ人ヲ殺セシトキニ當リテハ其罪惡ヲ痛悔シテ

堪フル能ハザレドモ後ニ殘害ヲ逞シテ憚ル所ナク遂ニ人ヲ殺スヲ嗜ムコト屠者ノ獸ヲ殺スヲ嗜ムガ如キニ至ル此レ人ヲ殺シ尸ヲ外科醫ニ賣リ解剖用ニ供スルヲ以テ業トセシ者ノ曾テ自ヲ告白セシ所ナリ夫レ此事ハ唯單獨ノ人之ヲ行フノミニ非ズシテ一群ノ黨類モ亦凶虐ノ行爲ニ慣レ既ニ其天然惻隱ノ心ヲ失ヒ且非常ノ暴戾不仁ヲ行フヲ樂ム者アリ擊刺比武ハッテヒノ行ハレシ時代ニ於テ羅馬ニ此事アリ又法蘭西革命ノ時ニ巴里ニモ亦此事アリ

人凶邪トナルニ從テ益罪過ヲ行フニ果シ良心ノ禁制ヲ受ケスシテ殘虐ノ事ヲ逞シ而シテ悔懼畏憚ノ念愈滅消ス彼レ惡事ヲ行フノ初ニ當リテハ恐懼ニ因テ暴露シ其漸ク習熟スルニ及ベハ亦怠慢ニ因テ發覺

ス彼レ己ノ心裡ニ生ズル効果ニ因テ以テ其惡ヲ舉動上ニ表暴スル此ノ如シ故ニ厭制者暴虐者ハ務テ自己ノ滅亡ヲ招ク者ノ如クニシテ復人理ナキニ似タリ此レ造物者ノ現世ノ形勢ニ因テ人ノ慘虐ヲ防クガ爲メニ設ケタル制限ナリ

故ニ吾見ル所ニ依レバ人ノ善德ニ進ムコト一級ヲ經ルニ從テ次級ハ益進ミ易ク其情欲ニ克ツノ多ニ準シテ情欲ノ力愈衰フ吾屢情欲ヲ制服スレバ此勝ヲ保ツガ爲メニ多ク力ヲ用井ルヲ要セズシテ而シテ情欲ノ吾ヲ攻犯スルコトモ亦益小弱ナルベシ抗拒ノ法至ラザルナキニ因テ嗜好ノ吾ヲ犯ス威權ヲ滅却シ而シテ吾固有スル志ニ從フコト益篤キニ至ル故ニ勉テ良心ニ順從シ以テ吾品行ヲ一定シテ復變動セザ

ラシム之ニ反シテ凶邪ノ誘惑ヲ受ケ情欲ヲシテ制限スベカラザルノ威權ヲ有セシムレバ理性ト良心トノ勢力ヲ減却ス故ニ諸件ノ罪惡ヲ行ヘバ新ニ罪過ヲ加フルノミナラズ又一生間罪惡ヲ嗜ムノ念ヲ強クスルガ爲メニ善德ニ反ルコト益難クシテ之ヲ望ムモ益ナキコトヲ覺ユ蓋シ此ノ如キ者ハ吾固有スル志ニ因テ憤發勉勵スベキ能力ヲシテ終ニ私欲外誘ニ屈服セシムルナリ故ニ吾人生ノ景況ハ吾其惡ヲ棄テ善ニ遷リ難シトスルノ地位ニ達スルヲ禦カサルコトアルヲ免レス聖書上ニ人間一生ノ景況ヲ説ク所正ニ確切ト謂フベシ而シテ其別世界ニ於ケル惡人ノ景況モ亦猶此ノコトキコト明ナリ

吾道德ノ性質上ニ生スル變化此ノ如キヲ論說スルニ宜シク思索スヘ

キ者アリ夫レ知覺ヲ失フコト此ノ如キハ正ニ唯其一時ナリ靈魂ヲ試煉スルノ場タル現世ニ於テ其靈魂ニ銘シタル記念ハ決シテ永久マデ削除セラル、コト無キハ疑ヲ容レズ抑人ノ形體質ノミヲ感動スル理由ハ長久時間全ク忘失セシ一類ノ意見及邦言ノ知識ヲモ再心中ニ生スルコト往々之アリ此ヲ以テ彼ノ一度吾心中ニ銘シタル記念ノ忘失ハ僅ニ吾形體質ヨリ生スル事狀ノ然ラシムル者タルコトヲ知ルベシ故ニ吾生存スル當時ノ時勢終レハ則復向者ノ忘失ナカルヘシ請フ之ヲ詳解セン曰知ル所ノ者ヲ保存スルノ力ハ常ニ増減セズト雖モ知ル所ノ者ヲ覺ユルノ心吾形體ノ機關ニ障蔽セラルレハ障蔽ノ除却スルニ至リテ心忽舊ニ復ス今此ニ因テ以テ同質ノ示教ヲ發明スルコト

アリ夫レ凶徒罪孽ヲ行ヒ幸ニ發露セスシテ他人ノ如キ憂艱ナク數年ヲ過クルノ後偶然慙愧懺悔シ惟其舊惡ヲ覺ユル心ノ切ニシテ我ヲ責メ己ヲ苦シメ自禁スベカヲザルニ至リ終ニ或ハ發狂シ自經シテ死スル者アリ夫ノ放縱ナル罪人ノ死床ハ凄愴慘怛ニシテ此ニ等シキ嚴肅ノ景狀ヲ現ス且アルタモントカ死セシトキ此類ノ景況アリシコトヲ學士ヨングカ精妙ノ筆ヲ以テ目前ニ浮動スルガ如ク記セリ此レ皆吾輩カ宜シク畏レテ鑑戒トナスベキ者ナリ此事ヤ吾ニ示スニ人生ノ理法ニ於テ能シ得ルコトヲ以テシ且其承世未來ノ事故ノ其影ヲ前面ニ投ズトイヘルモ其狀大ニ此ニ類似スルナリ

シエクスピーア曰此ノ如キ標點中ニ他日必來ルヘキ大事件ノ微細

ノ體アルナリ

○第五章 前論ニ基キ來ル道德ノ舉動ノ規則

此章須ラク舉動ノ明白ナル諸規則ノ前説ニ示シ、者ヲ把リテ更ニ適宜ニ記述スヘシ

甲 其是非邪正ヲ審判スル習慣ヲ修善シ常ニ先ツ其所爲ハ正シキヤト省察スヘシ夫レ上帝人ヲシテ此ノ如クセシムルガ爲メニ賜フニ良心ヲ以テセリ然ルニ人之ヲ用井ザレハ既ニ自ヲ欺キ且上帝ニ對シテ己ヲ伸雪スル能ハズ吾毫モ其理性ヲ用井サル者ヲ卑ンデ其愚ヲ笑フ況ンヤ理性ヨリ大ナル威權アル能力(良心ヲ言フ)ヲ用井ルコトヲ怠ル者ノ更ニ非笑スヘキ誠ニ如何ソヤ且想像力ノ己ヲ誘導シテ娛樂

ヲ欲セシメ或ハ吾品行ノ堅實ナルコトヲ保證スヘキ方法ヲ得ルノ前ニ先ツ此動作正シキヤ否ヤト問フベシ先ツ此間ヲ設クレハ容易ニ之ヲ審判シ得ベシ然ルニ相争フ勸誘ノ吾心ヲ激動煩累スルノ後ニ至リテ此間ヲ設レバ復審判シ易カラザルベシ

乙 良心ハ常ニ之ヲ妄用スルニ因テ毀缺スルモノナリ故ニ許多ノ事情ニ處シテ良心ノ辨別其暗昧タルヲ免レズシテ之ガ審判ヲナスナク只疑惑スルコトアリ然レドモ疑惑ノ心ハ總テ審判ノ心ニ異ナラザル權力ヲ有シ人ヲ勸誘シテ敢テ行テ願ミザラシムベシ故ニ一動作ヲ行ントシテ其善良ナルヤ否ヤヲ疑フニ方リ止ムヲ得ザルニアラザルヨリハ行フベカラズ校長イドワルヅ氏定見ヲ陳シテ曰凡ソ事之ヲ行

ハントスルニ臨テ其當然ナルヤ否ヤヲ疑テ當時其是非邪正ヲ他日ニ考究スベシト思料スル者ノ如キハ決シテ行フベカラス但シ勢行ハザルヲ得ズトスル者ハ此限ニアラスト

丙 萬般ノ事故ニ處シテ公私トナク大小トナク行トナク思トナク他事ヲ顧ミズシテ良心ノ勸戒ニ從フノ習慣ヲ修善スベシ

ピユルンソノ詩ニ云瑣細ノ一動一止ト雖モ欺詐ヲナスベカラズ利害如何ヲ顧ミズシテ必其法ニ從フベシ

良心能ク至大ノ權勢ヲ以テ此ノ如ク行フコトヲ令スルガ故ニ人ノ終生中良心ニ從テ而シテ憂ヒ從ハズシテ而シテ樂ム者ハアラス夫レ人凶邪ヲ行ヒシヨリ不善ナルコトアラズ公正ヲ行ヒシヨリ善ナルコト

アラザルベシ而シテ勇豪純潔剛毅卓絶ニシテ實ニ高大ト稱スベキ品行ヲ備ヘ得ルハ他ノ誘導ニ克テ眞ニ貴ムベキ良心ヲ脩ムルニ因ルナリ

ヘーデン教ノ詩人ト雖モ屢示スニ是理ヲ以テス曰ク

德ハ鄙穢ノ感情ヲ知ラスシテ明白ノ名譽ヲ以テ表見シ民心ノ毀譽ニ因テ榮辱ヲナス

德ハ死スヘキノ罪ナキ者ニ天ヲ示シ且行ク能ハズトスルノ道ヲ指導シ又飛揚スル羽翼ヲ以テ群衆ト泥土中ヨリ蹶起スルナリ

ヘーデン徒ニ比スレバ其識更ニ高キ者ノ言ニ曰「汝ノ目單一ナリト雖モ全身光輝ヲ帶ブベシ」且時々自ラ顧問教戒シテ曰「人生世界ヲ得

ルモ其靈魂ヲ失ハハ何ノ益アラシヤ」又曰「人其靈魂ニ代フルニ何ヲ以テセン」

第二 某件ノ動作ヲ行ヒシ後

甲 動作ト之ヲ行フ志意トヲ熟考シ以テ其是非邪正ノ質ヲ審判スルノ習慣ヲ修善スベシ是ヲ號シテ自察トイヒ脩身ノ道ヲ講シ殊ニ試煉ヲ受ル現世ニ處ルヲ試煉ヲ受ルト云人ノ一生ニ於テ至要ノ職務ナリ語ニ曰ク

既往ノ時日ト談話シテ其如何ナル事ヲ天ニ奏スルヤト問ヒ且其如何シテ更ニ嘉樂ノ新聞ヲ報スベキヤト問フハ智ト謂ベシ

(イ) 此職務ハ謹慎シテ行フベク急遽ニスベカラス亦輕慢ニスベカラズ專ラ時間ヲ此事ノミニ盡シテ獨自ヲ行フベシ而シテ已ニ反リテ

吾脩身ノ道ヲ講シ以テ篤ク本分ニ任ズル者ナルコトヲ信シ他事ヲ舍テ顧ミズ小心恬淡ニシテ其動作ヲ熟考スベシ

(ロ) 此職務ヲ行フヤ偏ナク頗ナク公平ナルベシ自ラ以テ吾レ情欲ノ誘導ト已レテ利スルノ念ニ迷惑セラル、ヲ免レガタキ者タリト爲シ試ニ已他人ノ地位ニ居リ他人ヲ己ノ地位ニ置キ而後我吾動作ヲ見テ如何ニ思料スルヤト省察スベシ人己ヲ敵視スレバ宜シク彼ノ主意如何ト熟慮スベシ蓋シ彼ノ我ヲ謗リ或ハ罵ルヤ其語中ニ必原因アリ或ハ原因ト見ユル者アレバナリ然レドモ經典ニ特記シテ教ル所及ヒ基督ガ生前ニ行ホセシ眞實十全ノ德行ニ則リ以テ夫ノ神聖ナル上天ヨリ發スル光輝ニ因テ吾舉動ヲ検査スベキナリ

乙 今ヤ自ラ検査シテ其動作ノ質ノ是非ヲ審判スルノ地位ニ至リシ者ト想フベシ

甲 公正ヲ行ヒシコトヲ知レバ則己ヲシテ然ラシメタル上帝ノ恩惠ヲ謝シ己ニ克チ欲ヲ節シテ以テ得ル所ノ滿腔平易和樂ノ利益大ナルヲ知リ吾ガ幾許カ善徳ニ進ミシコトヲ上帝ニ謝スベシ

乙 吾動作混淆ノ品質ヲ有チ乃善惡ヲ混シタル理由ヨリ起レバ務メテ逐一ニ辨明シ且己ヲシテ之ヲ混亂セシメタル事狀如何ト判定スベシ此混亂ノ根本ヲ清除シ而シテ再同一動作ヲ行フニ當リテ現ニ其不善タルヲ知リ以テ夫ノ惡ム所ノ勸誘ノ勢力ヲ拒絶スルヲ要ス

丙 邪曲ヲ行ヒシコトヲ良心ニ因テ審判スレバ

甲 邪曲タルコトヲ熟考シ能ク吾罪アルコトヲ發明スルニ至ルマデ其犯セシ本分ヲ思察スベシ

乙 良心ノ然ラシムル所ニシテ苦痛悔恨ヲ懷クコトヲ惡ムベカラズ此レ良友ノ諫戒ニ異ナラズシテ吾ヲシテ爾來復邪曲ヲ行ハザラシメント欲スルナリ良心ノ譴責ハ忽慢スベカラス良心ノ號令ハ事故間雜ノ際盤樂遊戲ノ中ト雖モ謹デ之ヲ聽クベシ

丙 動作ノ其道德ヲ害スルヲ惡ムノ念ニ基キ以テ他日必再之ヲ行ハザルベシト確定スルニ至ルマデ吾ガ邪惡ヲ行ヒシコトニ着意スルヲ怠ルベカラス

丁 能ク邪惡ヲ抗得スルヲ得レバ遲疑セズシテ速ニ之ヲナスベシ

凡ソ邪惡ヲ行ヒシ者ノ以テ心思ヲ安セント欲スルハ必先ヅ最急ニ邪惡ヲ補フニアリ

戊 百般邪惡ノ動作ハ上帝ニ對シテ犯シタル罪過タルガ故ニ謹慎悔悟シテ上帝ノ子タル基督ノ功德ト申保トニ依頼シテ赦宥ヲ祈ルベシ

己 動作ト己ヲ誘キテ不善ヲ行ハシムルニ至ル所ノ思考トヲ熟察シテ殊ニ謹ンデ豫メ此思考ヲ避クベシ校長イドワルツ氏此ノ如クナランヲ欲シテ其定見ヲ陳ベテ曰不善タルコト明ナル動作ヲ行ヘバ其由來スル所ヲ窮メテ根原ニ達シ然後ニ復此ノ如ク行ハザルヲ務メ吾勢力ヲ以テ惡事ノ根本ヲ攻撃シ及之ガ爲メニ神助ヲ禱ルコト兩ナガ

ヲ怠ルベカラス

庚 上帝ニ順從依頼シテ此諸件ヲ行フベシ夫レ上帝ハ恩愛厚クシテ在ラザル所ナク其誠命ヲ保ツベキ祐助ヲ以テ人ニ與フベカラザル時ナシ而シテ之ニ信服スル者ハ決シテ遺棄セザル者ナリ此ニ由テ之ヲ觀レバ凡ソ人皆良心即己ニ公正ヲ勸メ邪曲ヲ戒シメテ其動作ノ質ノ是非ヲ辨スベキ能力ヲ賦與セヲレ及此能力ノ指令ハ至貴ノ威權ヲ有ツコト明ナル知ルベシ此能力アリ是ヲ以テ人皆辭スル能ハザル責任ヲ負ヘリ若シ之無ケレハ禽獸ト何ソ別タシ唯其レ之アルガ故ニ上帝及全世界ノ道德ヲ以テ相識ル所ノ者ニ對シ道德ノ交際ヲ有テ得ルナリ此能力ハ時トシテ有ラザルナク人其聲音ヲ聽ケバ固ヨリ之ヲ諫

戒シ其教諭ヲ禁セント欲スルトキト雖モ亦常ニ諫戒ス人苟モ其職分ヲ思考スレバ以テ常ニ之ヲ知ルニ足ル然バ則人ノ惡事ヲ行フヤ自ラ好ムニ非ザレバ之ヲ行ント要スルノ由ナシ故ニ之ヲ行ヘバ復責ヲ辭スベキノ詞ナシ而シテ天授ノ能力(即良心)ヲ故意ニ亡失スルニ非ズシテ誤テ惡事ヲ行フ者ハ蓋亦一人モアルベカラザルナリ夫レ人皆此ノ如キ能力ヲ稟有シテ斯須モ離ルベカラスト思ハマ吾人寧悚然トシテ警省セザルヲ得ンヤ此能力ハ我ヲ諫戒シ教諭シ譴責シ及能ク事物ヲ記シテ吾カ群居ノ時トナク獨居ノ處トナク沒世ノ間吾ニ隨從シ且禍福憂樂ノ基トナリテ永ク相伴フナリ故ニ自ラ貴重シテ此能力ニ依頼スル者ハ能ク人タルノ道ニ適ス

故ニ假令人其職務タルコトヲ知ルガ爲メニ他ノ方法ナキトキモ猶且上帝ノ己ヲ造ル所以ノ道德ノ理法然ラシムルニ因リテ固ヨリ至當ノ責ニ任ズベキ者タリ若シ彼レ何ノ方法カ以テ上帝ノ志ニ從フベキヤト言ハク此ニ論述セシ方法ニ於テスベキコト論ヲ待ズシテ彼レ之ヲ知ルベキノ責ニ任ズルコト當然ナリ使徒保羅宣言シテ曰「邪教徒ハ法ナシト雖モ其良心ノ常ニ相共ニ是ヲ是トシ非ヲ非トスルヲ以テ自カラ其心肝ニ記銘シタル一部ノ法律有リ」況ヤ上帝ヨリ自然ト著顯ノ教法解下篇ニノ知識ヲ加賦セラレシ者ノ負擔スベキ責任ノ大ナルハ更ニ果シテ如何ゾヤ

○第三篇 德行ノ性質

○第一章 德行ヲ概論ス

前篇ニ於テ人自ラ各種ノ倫ヲ以テ世間ノ人物殊ニ其親黨ト上帝トニ相對スベク成造セラレシコトヲ知ルト論述セリ而シテ人ノ生造セラレ、ニ因テ相關係スベキ所ノ他物尙必應ニ有ルベシト雖モ未ダ之アルコトヲ教示セズ故ニ其實ニ有ルヲ明ニセント欲セバ宜シク別世界ニ入ルヲ待ツベシ

此倫ノ然ラシムルニ因リ或ハ上帝ノ命令ニ因リ若クハ事情止ムヲ得ザルニ因テ(此數言實ニ各意義ヲ異ニスレバ)他ノ人物ニ對シテ某ノ感愛ヲ行ヒ此ニ於テカ此感愛ニ適當スル方法ヲ以テ行フベキ道德ノ義務生ズ神典ニ示スアリ曰人ノ上帝ニ對スル倫ニハ普通ニシテ窮極

ナキ敬愛ヲ行フベキ義務有リ其自他互ニ對スル倫ニハ定量期限節制アル愛情ヲ行ヒ且固ヨリ皆此愛情ニ適スル舉動ノ法則ニ從テ行フベキ義務アリ

某件ノ動作善ク此義務ニ適當シ即此愛情ヲ實ニ行ヘバ公正ナリ又此義務ヲ犯シ即他種ノ愛情ヲ行ヘバ邪惡ナリ人皆睿智ヲ用非テ其相連結スル所ノ人物ニ對スル倫ヲ辨ズ故ニ睿智ノ能力ヲ行フニ因テ以テ上帝ノ存在シ其性質威力智慧及其善良ナルコトヲ熟知スルナリ而シテ己ヲシテ益上帝ノ性質ヲ知ラシメ且己ガ創造物タル事狀ヲ知り及其相對スベキ諸種ノ倫ヲ辨ズルニ至ラシムル所ノ夫ノ神典ノ宣誥ヲ理解證明スルモ亦此能力アルニ因レリ良心ハ既ニ開說セシゴトク一

ノ能力ニシテ之ニ因テ以テ右ノ倫ヨリ生ズル義務ヲ辨シ之ニ因テ以テ此義務ニ適スル動作ニ公正ノ質アリ此義務ヲ犯ス動作ニ邪惡ノ質アルヲ辨シ且之ニ因テ以テ此ニ就キテ彼ヲ避ルコトヲ勸誘セラル、ナリ此能力ノ主意ハ人能ク義務ノ由テ立ツ所ノ倫ヲ辨ズレバ則直ニ彼ヲシテ此ニ義務アルヲ知り此ニ適應スル感情ヲ起サシムルニ在ルコト明ナリ

今完全ニ成造セラレシ道德睿智ノ人物ハ其外面ノ體質ト内部ノ能力トノ間ニ十分ノ合宜アルコト昭然ナリ夫レ完キ目ハ相當ノ時勢ニ處シテ其當ニ見テ知ルベキ所ノ諸物ノ種類及色様ヲ辨スル者ナリ聽官其他ノ諸官モ皆然リ故ニ十分ニ成造セラレシ睿智ハ相當ノ時勢ニ及

テ人物ノ相對スルノ倫ヲ知ルベシ而シテ十分ニ成造セラレタル良心
 ハ人ヲ勸誘シテ同時ニ此ノ如キ倫ヨリ生ズル諸件ノ義務ヲ辨シテ之
 ニ適スル舉動ヲ行ハシムベシ之ヲ申言スレバ此能力ニ應ズル外面體
 質ト外面體質ノ應ズル能力トノ間ニ十分ナル合宜生ズベシ故ニ此ノ
 如ク十全ニ成造セラレシ人物ニ在テハ德行ト謂ヒ公正ノ所爲ト謂ヒ
 或ハ良心ニ從フト謂フモ皆同一ノ意義ヲ示スナリ
 抑道德上ノ造法ノ完全トハ良心ノ能力ト人ノ因テ成造セラル、倫及
 義務トノ間ニアル合宜ノ完全ヲ言フナリ而シテ此完全ニ諸種ノ進歩
 節度ナキニ非ズ請フ其例ヲ舉ン

第一 同一人ノ倫ハ其幼孩ヨリ成長シテ少壯ヲ經テ強大ニ及ヒ老耄

ニ至ルマデノ間ニ變化シ此倫ノ變化中ニ義務ノ變化アリ而シテ人ノ
 道德上ノ造法ノ完全ハ一生ヲ通シテ其道德ノ能力好ク其道德ノ倫ニ
 適當スルニ在ルナリ且其變化ハ小ヨリ大ニ赴ク乃力小ニシテ數少キ
 義務ヨリ力大ニシテ數多キ義務ニ進ム更ニ之ヲ詳言スレバ現今人生
 ノ法ノ趣ク所ハ人其德不徳ヲ知ルノ才智ヲ有ツテ許サル、ノ限りハ
 彼ヲシテ益德不徳ヲ能セシムルニ在ルコト明ナリ

第二 人某別世界ニアル他ノ生造物ニ對スル倫ノ如何ニ數多ク或ハ
 如何ニ必要ナルベキヤヲ知ル能ハズ又其上帝ニ對スル倫ノ如何ニ更
 ニ親厚ナルベキヤヲ知ル能ハズ且其倫ヲ知覺スル能力ト其倫ノ保ツ
 所ノ義務ヲ知覺スル能力ノ定量アルヲ知ラズ故ニ亦人ノ德行ヲ行フ

能力ノ進歩ニ定限アルヲ知ル能ハス而シテ人ヲシテ其存在スル所ニ從テ已テ修好シテ息マサラシムベキ元質自カラ此能力中ニ在ルナリ

第三 不徳ニ於ケルモ亦然リ人ノ義務ハ其既ニ知ル所ノ義務ヨリモ更ニ限ナク増倍シ且之ヲ認ル能力モ亦限ナク増倍スベシ故ニ此義務ヲ犯害シテ止マザレバ從テ益邪曲ヲ爲スニ進ミ以テ終ニ酷烈ノ凶惡トナルナリ此ヲ以テ知ルベシ人命ノ存スル限りニ徳若クハ不徳ノ限ナキ進歩ハ自カラ道德ノ理法中ニ在ルヲ免ル、能ハザルヲ

第四 且夫レ其大ヲ語レバ人ノ徳不徳ニ進ムノ度量ハ幾許カ大ナルヲ知ル能ハズ若シ其小ヲ語レハ彼ノ品行ノ始テ是非邪正ヲ指定セラレシ所ノ質ハ甚ダ微細ニシテ窺フベカラズ蓋人幼稚ノ時ニ當テ其品

行是タリ若クハ非タリト指定スト雖モ亦此ヲ以テ此ヨリ前ニ彼レノ此ノ如キ品行ノ存在セザリシコトヲ保証スル能ハズ夫レ此指定ヲ爲シ得ルノ前ニ彼ノ品行ノ存在スルコト此ノ如キアリ是ニ於テカ吾輩此品行ノ始テ生ズル時ヲ定ムルニ由ナキコト亦明ナリ之ヲ詳言スレバ吾レ大概人ノ小兒タル時ヨリ老成ニ至ルマデノ間ニ其品質ノ是非邪正ヲ辨察シ得ルト雖モ亦此ヲ以テ此品質ハ吾ガ能ク辨察スル前若クハ後ニ於テ或ハ之ヨリ卑ク若クハ高キ階級ヲ以テ人ニ存在スルヲ得ズト決定スルノ方法トスル能ハズ

○第二章 完全ナラザル人物ノ德行ヲ論ズ

第一部 今此ニ道德天質ノ錯雜スル人ノ德行ヲ考論スベシ抑此錯雜

ニ二種アリ

甲 彼レ諸件ノ倫アルヲ知ラズ此倫ハ彼レノ相對ニシテ道德ノ義務ノ由テ生ズル所ナリ且彼固ヨリ其倫ニ適スルノ義務ヲ辨ズルヲ得ズ

乙 彼レ此倫ヲ知ルコトアリト雖モ其良心錯亂ノ甚シキ之ニ適スルノ義務ヲ辨セズ

此ノ如キ者ノ動作ハ之ヲ何ト謂ベキヤ

甲 彼レ其成造セラル、所以ノ倫及此倫ヨリ生ズル義務アルコトハ亦恰モ道德天質ノ錯雜セザル者ニ異ナラス

乙 彼レノ動作ハ皆二類ノ外ニアラズ

甲 彼レノ良心ノ權限中ニ來ル所ノ動作詳言スレバ動作ニ於テ正

ニ此レ其義務タルヲ良心ノ彼ニ暗告スル者ナリ

乙 動作ニ於テ此レ其義務タルヲ良心ノ彼ニ暗告セザル者ナリ
第一類ハ良心ノ彼ニ向テ此レ其義務タルヲ暗告スル動作ニシテ第三章ニ説キシ如ク公正ノ所爲ト謂ヒ良心ノ暗告スルヲ知テ之ニ從フ者ト謂フベシ然レドモ良心ノ權限外ニアル動作詳言スレバ彼レ時勢止ムヲ得ザルニヨリテ勉行フト雖モ其道德ノ天質完全ナラザルカ故ニ其義務タルヲ知ラズシテ行フ所ノ動作ハ之ヲ何ト言フベキヤ

甲 此動作ヲ行フト雖モ稱シテ德行ト謂フヲ得ズ何ナレハ彼レ其公正タルヲ知ラズ且公正ノ推動力己レニ之ヲ爲スヲ勸誘スルナラズ

道徳ノ義務ノ爲メニ責メラレテ之ヲ行フニ非レバナリ彼レ情欲或ハ自愛ノ念ニ出デ、行フ所ノ者アリ亦不善ニアラズト雖モ此際ニ當テ毫モ道徳ノ原因即良心ノ推動アラザレバ讚スルニ公正ヲ以テスルヲ得ズ夫レ貧困ノ寡婦ヲ保護申理スル審官ハ固ヨリ以テ公正ト稱スベシ然レドモ或ハ公正ト稱スルヲ得ザルモノアリ乃下ニ記スル不正ナル審官ノ言ヲ聞テ其然ヲ知ルベシ曰「吾レ上帝ヲ畏レズ亦人ヲ懼レズ特ニ此寡婦ヲ恐レテ爲メニ申理スルノミ然ル者ハ只彼ノ屢來リテ吾ヲ煩ハサントヲ恐レテナリ此ノ如キ状態ニシテ動作ヲ行フハ必無罪ナリト謂ベカラズ一位ノ人物他ノ人物ニ對シテ處スル倫中ニ某ノ感情及此感情ニ適スル行爲ヲ發行スベキ義務アリ而シテ此行爲ヲ

勉ルト雖モ此感情アラザル者ハ是レ義務ヲ盡スニ非ズ而シテ彼レ或ハ其罪ヲ辭シ難シ下文其罪アル所以ヲ詳ニス

乙 然レドモ彼レ前文ニ言ヒシ如ク其良心ノ權外ニ在ル動作ヲ行ハサルトキハ此動作ヲ怠ル即之ニ反シタル者ヲ行フハ則無罪ナルヤ詳言スレバ道徳ノ造法完全ナラザル者ト雖モ必良心ニ推動セラルベキノ義務アルヤ

此蓋シ次件ニ因テ決定スルナリ

甲 其相對スル倫ヲ辨スル知識ノ如何ニ因テ決定ス若シ彼レ人ニ對スル倫ヲ知ラズ且此倫ヲ知ルベキ方法ヲ有タザレバ則罪無シ之ヲ知ルベキ方法ヲ有ツト雖モ之ヲ修好セザレバ則罪有リ是使徒保羅パウロガ

羅馬人ニ與ル書中ニ於テ主張スル所ノ理ナリ曰クヘーテン教徒ハ上帝ニ對シテ凶惡ヲ犯ス罪アリ何ナレバ上帝ノ性質ハ自然ノ光ニ照明セラル、故ナリ又曰ヘーテン徒ノ天啓ナクシテ知ラザリシ許多道德ノ義務ヲ猶太人ハ之ヲ教與セラレシ故ニ猶太人ノ罪案トヘーテン徒ノ罪案トハ異ナル所アリ凡ソ律法ナクシテ罪ヲ犯ス者ハ亦必律法ナクシテ沉淪ス其律法アリテ罪ヲ犯ス者ハ亦將ニ律法ノ審判ヲ受ントス

乙 彼レノ罪アルト罪ナキハ其良心ノ完全ナラザル此ノ如キノ原由ニ因テ決スルナリ此良心ノ完全ナラザル固ニ自己ノ行爲ノ然ラシムルニアラザレハ則彼レ無罪ナルベシト雖モ苟モ自己ノ行爲ノ然ラ

シムル限りハ彼モ亦其責ニ任ズベキナリ且良心ノ不完全即是非ヲ辨ズルノ力乏シキコト他事ニ因ルニ非ズシテ唯其故意ニ法制ヲ犯セシニ基カバ則彼レ亦此不完全應量ノ責罰ヲ受ベシ余ヤ向ニ良心ハ之ヲ用弗ルニ因テ修善シ用弗ザルト妄用スルトニ因テ損害スルヲ説ケリ今人眞實ニ其良心ヲ修メテ以テ福利ヲ生スレバ其功一ニ己ニ歸ス則之ヲ妄用スルニヨリテ患害ヲ生ズレバ其責モ亦一ニ己ニ任ズベシ此事ノ實ニ然ルヲ明白ニ思考シ得ベシ

甲 反復シテ凶惡ヲ行ヘバ爲メニ良心ノ大ナル魯鈍即所謂心ノ頑愚ヲ生スルナリ然レドモ頑愚ノ故ヲ以テ宥恕セラル、コトナク反テ罪惡ヲ長ズルノ資トナル故ニ殺害ヲ肆ニシテ復哀憫ノ情ナキ者ハ之

ヲ名ツケテ悔悟ノ念ナキ殺傷人或ハ薄情ノ刺客ト曰フ而シテ此ノ如キ名稱ハ以テ非常重大ノ質アル罪過ヲ犯ス者ヲ指目スル者トス此レ人皆認テ當然トナスノ通論ナリ

乙 之ニ反シタル論說ハ到底失誤ヲ免レザルコト明ナリ

今此ニ二人アリ其道徳ノ才力ノ量正ニ相同シク而シテ二人同時ニ正ニ相反スル二様ノ舉動ヲ始メン甲ハ謹テ公正ヲ行フニ因テ其道徳性ヲ修ムルコト至ラザルナクシテ日ニ徳行ヲ能スルノ能力ヲ長シ其仁愛ノ量益寛宏ニシテ其道徳感格ノ威權愈烈ナリ而シテ其黨類タル生造物ノ福利ヲ盛昌ニシ且心ヲ盡シテ上帝ノ志ヲ成ント欲スル至厚ノ思望ヲ滿胸ニ懷ケリ乙ハ日ニ凶惡ヲ行テ漸ク其良心ノ知覺ヲ害シ其

徳行ヲ能スル能力ヲ減ジテ滿肚ニ唯神明ヲ惡ムノ念ヲ有シ而シテ其罪惡ノ黨類ト相愛スルノ外他ノ本分アルヲ知ラザルニ至ル夫二人者ノ相反スル此ノ如シ其終ニ及デヤ二人共ニ皆其良心ノ示教スル所ナリト思考スルニ從テ行フコト明ナレバ則此ノ如ク變異ナル方法ニ由テ行フモ亦妨ナシ而シテ人ノ某時ニ一動一止ヲ爲ス皆其良心ニ從フベキノ義務アルガ故ニ二人者ノ當時ノ動作ハ均シク無罪タリト思フベシ但甲ト乙トノ異ハ當時ノ動作ニ就テ論ズレバ僅ニ善行ノ成人ト善行ノ小兒トノ異アルノミ此事以テ夫ノ是非邪正ト有罪無罪ノ別ヲ容易ニ辨ズルニ足ルベシ抑是非邪正アルハ人物ノ以テ成造セラル、所ノ倫ニ因ルナリ故ニ倫ヨリ生ズル所ノ義務ハ固ヨリ一定シテ變ズ

ベカラズ若シ夫レ有罪無罪ハ此倫ト倫ヨリ生ズル所ノ義務ヲ辨ズル知識ノ如何ニ因テ決スル者トス則是非邪正ハ變ズベカラズシテ而シテ有罪無罪ハ變ゼザルヲ得ス故ニ此二件ノ思考常ニ必シモ相合セザルコト明ナリ請フ其例ヲ舉テ之ヲ詳カン今一件ノ動作アリテ不正ナルヲ免レズト雖モ之ヲ行フ者其不正タルヲ知ルベキニ由ナケレバ則之ヲ行フモ道德上ノ罰責ヲ受ザルベシ又一人アリテ義務ヲ辨ズル知識ヲ有テ此ニ適シテ行ントスルノ篤志アリ而シテ此本分ヲ行フベキ方法ヲ知ラザルニ由テ不正ノ質アル動作ヲ行フト雖モ其能ク辨ズル知識ノ至好ナル者ニ從テ之ヲ行ヒシナレバ彼レ唯其無罪タルノミナラズ且目スルニ善良ヲ以テスベシ之ニ反シテ更ニ一人アリ實ニ公正

ナル動作ヲ行フト雖モ其知ル所ノ義務ヲ盡サント欲スルノ念ニ出ルニアラザレハ亦認メテ有罪トスルヲ免レズ何ナレバ彼レ自ラ其生造セラル、所以ノ義務ナル者ヲ知り之ニ從テ行ハント欲スルノ意ヲ顯白セザレバナリ此論說ノ詳解ヲ得ント欲スレバ人生通常ノ事故或ハ聖經上ニ就テ容易ニ之ヲ求ムベシ

是ニ於テ亦吾道德ノ審判ニ欠クベカラザル他ノ道理ニ辨及スベシ夫レ自ラ無罪タルヲ知り有罪タルヲ知ラザルヲ以テ必シモ全ク其無罪タルコトヲ証スル能ハズ彼レ毫モ他人或ハ上帝ニ對スルノ倫ヲ思想セサルガ爲メニ大小ノ事故ニ於テ亦少シクモ神人ニ對シテ行フベキ義務ヲ辨セザルコトアリ此或ハ有ルベキノ事ト雖モ彼レ固ニ此倫ヲ

辨ゼント欲シテ眞實ニ務メテ上帝ノ賜與セル諸種ノ才力ヲ用井シコトヲモ示スニ非レハ則其定メテ無罪タリトスルヲ得ズ或ハ又彼レ神人ニ對スルノ倫ヲ會得スト雖モ此ニ適スル知覺ヲ有テ得ザルコトアリ此亦或ハ有ベキノ事ナリト雖モ彼レ常ニ信實純正ニ其良心ニ從ヒシコトヲ示シ以テ其道德ノ知覺ヲ有タザルハ敢テ其自ヲ作セシ行爲ニ基カザルコトヲ顯スニ非レバ亦定メテ其無罪タルヲ得ズ乃此事ヲ顯白スルニ至ルマデハ自ヲ其有罪タルヲ知ラザルヲ以テ其無罪ヲ證スル能ハズ夫レ余ノ所解ヲ以テ誤ラズトセバ則新約全書中使徒保羅ノ哥林多人ニ達スル第二書第四章第三節四節ニ述ル所モ亦此理ナリコリント曰「吾レ汝若クハ他人ニ審判セラル、コトヲ以テ細事ナリトス而シ

テ吾モ亦自ヲ審判セズ蓋シ吾レ謹テ職ヲ勤メ内ニ省テ疚シカラズト雖モ審判シテ義ニ適ストセズ我ヲ審判スル者ハ乃主ナレバナリ」故ニ人大凶惡ヲ行テ全ク其義務ヲ害スルホドノ重大罪責ヲ負フト雖モ毫モ自ラ之ヲ知ラズシテ憂慮セザルコトアリ此ノ如キハ上帝ノ爲メニ行フベキ義務ニ對シテ人ノ免ル、鮮キ所ノ景況ナリ故ニ救主猶太人ニ語テ吾汝ガ上帝ニ愛顧セラレザルヲ知ルナリト曰ト雖モ猶太人ハ自ラ以テ天ヨリ特愛ヲ受ル者ト爲セリ

第二部 此論說ニ因テ吾輩人ノ修身法ニ對スル理ヲ辨明スベシ夫レ人ハ益修好スルヲ得ル爲メノ道德力ト睿智力トヲ以テ創造セラル、ガ故ニ用井ルベクシテ之ヲ用井レバ彼レ益修好スベシ之ヲ詳言スレ

バ益徳行ヲ能シテ其修好ヨリ生ズル所ノ諸種ノ利益ヲ享有スルヲ得
 ベシ若シ用井ルベカラズシテ之ヲ用井レバ徳行ヲ能スル益難クシテ
 其妄用ヨリ生ズル緣由ノ責ハ畢ク之ヲ己ニ任ズベシ蓋シ妄用ナル者
 ハ彼レノ自作セル所ニシテ其責亦自カラ彼ニ在リ故ニ此事ヤ彼ヲ生
 造スル所以ノ倫又其倫ヨリ生ズル所ノ義務ニ關セザルコト明ナリ之
 ヲ詳言スレバ其創造セラル、所ノ道德ノ需要ヲ供スルノ責アルコト
 猶彼ガ常ニ其道德力ヲ正用シタリシトキノゴトキ同一形勢ニ於テス
 ルナリ更ニ之ヲ解シテ曰人皆其生時ノ初ヨリ當然ノ方法ヲ以テ道德
 ノ性質ヲ修好スレバ則其能クスベキ徳行ノ度量ヲ責望セラル、コト
 其在世ノ毎時ニ於テ然リ此現今ノ道德ノ理法ノ致ス處ナリ又他語ヲ

以テ解明セン曰某人(譬バ基督)曾テ此ノ如ク世ニ處セシガ故ニ衆人
 モ亦其職分タルヲ知ル爲メノ同一方法ヲ有スルニ因リ其存在中ノ毎
 時ニ在テ亦彼ノ完全ナル某人ガ其存在中ノ至當ノ時ニ於テ能シ得タ
 ルニ同ジキ徳行ノ度量ヲ能スベキ責任ヲ負フナリ蓋シ此ノ如キハ其
 沒世間此ノ如キ人物ノ上ニ在ルベキ義務ノ自然ニ出ルコト明ナリ
 修身法ノ需要ニ副フベキ方法ヲ以テ此重大責任ニ處スルガ爲メニ此
 ノ如キ天性アリテ生存スル人物ハ道德ノ才力ヲ有タザルベカラズ此
 才力ハ豫メ十分ニ修好スルニ因テ當時ノ責任ニ適當シ得ルナリ然レ
 ドモ此ノ如クナル能ハズシテ一度凶邪ヲ行ヒ道德ノ才力爲メニ損害
 セラレテ彼ヲ諫戒シ義務ヲ行フヲ爲サシメズ彼モ亦其諫戒ニ從フヲ

欲セザルニ至レバ其弊害彼ヲシテ他日ニ當リ前面ヨリ更ニ不正ナル動作ヲ行ハシメ而シテ良心ト情欲ト其和ヲ失ヒ以テ遂ニ彼ヲシテ益深キ罪孽ニ陥ラシムル趣向ヲ成スベシ此ニ及ブニ至ルヤ更ニ他ノ修身ノ勉力ヲ用ヰルニ非レハ復夫ノ趣向ノ永遠熾盛ナラントスルヲ禦グベキ者ナシ是ニ於テ彼レ此ノ如キ勉力ヲ用ヰ其存生中ノ毎時ニ在テ良心ノ當時諫戒スルゴトニ輒チ從フコトヲ爲セバ彼レモ亦十分ニ其義務ト義務ヲ盡ス方法トヲ示教スル爲メノ他ノ更ニ完全ナル嚮導ヲ要スベキコト明ナリ然シテ其之ヲ得ルノ時ニ及ンデハ則彼レモ亦向ニ完全ナル公正ニ依テ以テ德行ヲ能シ得ベキ者ト同一ニ之ヲ能スベキノ責任ヲ負フナリ然トモ此ノ如ク能クスルヲ得ズ而シテ此形勢

ニ處シテ其德ニ進ムコト彼ノ完全ナル人物ヨリハ更ニ迅速ナルベキ所以ヲ示ス能ハズシテ之ニ反スルガ故ニ彼レ正ニ己ニ責望セラル、所ノ需要ニ副フ能ハズ且漸ク遙ニ之ト背馳スベキコト判然タリ故ニ現今ノ理法ハ能ク吾ニ示スニ夫ノ法ノ道理(善ヲ賞シ惡ヲ罰スルコト)ヨリハ他ノ某ノ道理(救主ノ中保ニ因テ罪惡ノ宥宥セラル、コト)アルニ非レバ上帝ノ管下ニ在テ道德ノ惡事ニ救治スベカラザル性質アルコト以テスルナリ人タル者修身ノ法ヲ犯シテ其處ル所ノ地位ヲ害スルトキ他ノ地位ニ處テ宥宥セラる、ニ非レバ罪惡ノ致ス所ノ痛苦患難ヲ受ザルベカラズ是自然教法ノ吾ヲシテ信セシムル所ナリ夫レ罪惡ヲ悲恨スルノ念

ハ地位ヲ變ズヘキ方法ヲ有ツ能ハズ何ナレバ此念ハ彼レノ罪科ノ然
 ラシムルヨリ致ス所ノ者ナレバナリ而シテ此念ハ彼ヲシテ其侵害シ
 タル起初ノ法ニ對スル倫理ニ回復セシムル能ハズ聖經ノ示教蓋シ此
 ノ如シ且其宣ル所左ノ如シ曰人生ノ地位ノ變化ハ救主ノ中保ニ因テ
 成就セラル、者ニシテ此地位ノ變化アルガ故ニ他人(即救主)ノ從順
 ニ因テ人皆救濟セラレ假令實ニ罪惡アルモ申理セラル、ヲ(詳言ス
 レバ公正ノ如ク處分セラル、ヲ)得ルナリ

故ニ人ハ其存生ノ時ニ於テ上帝ノ法ノ望ム所ノ度量ノ如キ德行ヲ能
 シ難シト雖彼レ之ヲ行フベキ義務ニ服事セズ若クハ其全量ヲ行フヲ
 責任セラレズト言フベカラズ故ニ若シ其固有ノ才力ヲ脩好セザル者

ハ是其效驗ノ責ヲ負フナリ然レドモ上帝其德行ノ全量ヲ望ムト雖モ
 未遽ニ之ヲ以テ人即之ヲ行フヲ能スルヲ證セズシテ唯彼レ之ヲ能シ
 且彼レ天授ノ才力ヲ用ヰルニ當リ之ヲ能スベキヲ證スルノミ

第三部 習慣ノ是非邪正ニ關係スルコトニ就テ數件ノ示教ヲ以テ此
 章ヲ終ルベシ夫レ習慣ニ就テ至要ノ件アリ曰某件ノ身體ノ所爲ヲ反
 復シテ行ヘハ爾後之ヲ行フコト太々容易トナリ少々時間ニ少々工勞
 ヲ作シ少々神經ノ勢力ト心思ノ勉強トヲ用ヰテ成ルナリ此レ日ニ器
 械ノ術業ヲ學ヒ得或ハ音樂ノ初步ヲ講習スル者ニ於テ見ル所ナリ且
 意ヲ用ヰテ視ル者ハ皆吾身體ト知識ノ教育ノ稱譽スベキニ足ルコト
 ハ大概習慣ノ成功ニアルヲ確知スベシ道德ノ習慣ニ於ケルモ亦大ニ

此ニ似ル者アリ善良ノ事ヲ反復行フテ止マサレハ反復スル毎ニ進取ノ趣向生シテ之ニ敵スル意思ノ力減弱シ情欲ニ克ツ心志ノ權強盛トナリ而シテ少々道德ノ工勞ヲ以テ其行爲ヲ成就スベシ之ヲ明言スレバ善良ノ所爲ヲ反復行フニ因テ道德力増長シ其同一所爲ヲ行フニ前回ヨリ少々ノ道德力ヲ用非テ之ヲ成シ得ルナリ之ニ反シテ凶惡ノ所爲ヲ反復行フニ因テ亦此ノ如キ反復ニ進ムノ趣向生シ情欲ノ權長シ之ニ抵抗スル力減弱シテ情欲ヲ制スルニ前回ヨリ大ナル道德力ヲ要スルナリ之ヲ明言スレバ吾情欲ヲ禁制スルニ前回ト異ナリテ更ニ大ナル道德ノ勉強ヲ要スルナリ而シテ之ヲ禁制スベキ道德力ノ減ズルヲ免レズ

此ノ如キ趣向ノ性質ハ一定シテ變ズベカラザル道德ノ形勢ニ達スベキコト明ナリ其然ル所以亦宜シク之ヲ考究スベシ蓋シ習慣ノ其功ヲ成スニ及デ某ノ心志アレバ之ニ抵抗スル能ハザルコトニ進ムノ趣向ヲ成スナリ故ニ反復シテ善良ヲ行へバ人ヲシテ邪惡ヲ行フ能ハザラシムル趣向ヲ成シ反復シテ邪惡ヲ行へバ人ヲシテ善良ヲ行フ能ハザラシムル趣向ヲ成スニ至ル吾レ常ニ説ケリ某人ハ能ク卑汚ノ舉動ヲ行ハズト云ヒ又某人ハ善良ノ舉動ヲ能シ難シト云フ而シテ甲ハ稱譽スベク乙ハ羞辱スベキ者ナリト人若シ人生ノ此ノ如キ地位ヨリ生ズル道德ノ結果如何ント問ハ、吾之ニ答ルコト蓋シ左ノ如シ

甲 習慣ハ動作ノ是非邪正ノ品質ヲ變ズル能ハズ且吾同黨ノ創造物ニ對スルノ倫亦上帝ニ對スルノ倫ヲモ變ズル能ハズ而シテ動作ノ品質ハ必作用ヲ受ケテ變ゼラレズ

乙 習慣ハ動作ヲ行フ者ノ有罪タリ或ハ無罪タルヲモ亦變ズル能ハズ夫ノ善良ヲ行フ者ハ善良ノ動作ヲ行フニ進ムノ趣向ヲ包有セル善良ノ動作ヨリ生ズル所ノ利益ヲ獨占ス故ニ邪惡ヲ行フ者ハ亦邪惡ノ動作ヲ行フニ適スル趣向ヲ包有セル邪惡ノ動作ヨリ生ズル所ノ應報ノ責ヲ辭スル能ハズ抑人生ノ地位ハ同一ニシテ人各擅ニ取捨スルヲ禁ゼス故ニ善惡ノ道孰レヲ行テ吉凶禍福ノ應報ヲ得ルハ正ニ自ラ致ス所ニシテ他人ノ關スル所ニアラズ

此ノ如キ理法ノ至極ノ理由ヲ辨明スルモ亦難カラズ

甲 此理法ハ吾道德ノ形勢ニ適スルコト知ルベシ蓋シ此形勢ハ試煉ヲ受ケ且道德ノ變化ヲ行フべく而シテ復變化ヲナス能ハザル所ノ者ニ至テ止ムト思フトキニ然リ夫レ人生ノ理法ハ明ニ吾ニ示スニ道德上不斷變化ノ形勢アルコト怪ムベクシテ實ハ然ルノ理ヲ以テス而シテ此形勢ニ於テ諸件ノ單獨變化ノ復變化シ難キ一形勢ヲ生ズベキ趣向ヲ有ツナリ

乙 此ノ如キ理法實ニ善ヲ勸メ惡ヲ戒ムル至大ノ勢力ヲ顯スコト明白ニシテ應報ハ其現今未來兩時ノ行爲ニ并合シ而シテ吾見ル所ニ依レバ其終期ナキ者タルコトヲ示スナリ人皆不善ヲ行フノ樂善ヲ行

フノ憂廣ク且長キコト如何ヲ容易ニ知り得ルト雖モ此二者ヨリ生ズル趣向ノ結果ヲ思想シテ此二者ヨリ必來ル所ノ永世無疆ノ應報如何ヲ知り得ル者ナシ故ニ人皆常ニ公義ヲ行テ邪曲ヲ行フベカラザル所以ノ至正ノ道理ハ此ニ基クナリ

丙 又曰人ノ益善良ニ進ムコトヲ能スル所以ハ大ニ習慣ニ關シタル現今ノ理法アルニ因ルコト昭明ナリ夫レ反復シテ善良ノ動作ヲ行フノ功ヲ成スニ及デヤ此動作ヲ行フニ道德ノ勉力ヲ要スルコト更ニ少ク而シテ已レニ得ルノ道德力ハ更ニ大ナルコト既ニ前ニ説ケリ故ニ更ニ大ナル道德ノ行爲ヲ成就スルニ足ルベキ道德力ノ多量此ニ於テ生ジ一邪惡ノ情意ニ克ツ者ハ他ノ邪惡ノ情意ニ克ツベキ力ヲ得而

シテ其初ニ克服セシ者ヲ固制スルニ復力ヲ勞スルニ足ラズ蓋シ一度善良ノ事ニ習慣スル者ハ之ヲ行フヲ當然ノ務トナシテ餘力アルカ故ニ必シモ勉強ヲ要セズ且此ノ如クニ得來タルノ力ハ他ノ更ニ難キ習慣ニ達シ且更ニ高クシテ行ヒ易カラザル企圖ヲ遂ルニ用井ルベシ習慣ノ勢力ヲ説クコト甚美至細ナル者ヲ見ント欲セバ英書中ニ有名ナルゼ、ヘルミット、チフ、テ子リフイ編名ナリムルフイノ出版セシジョル編名ナリムルフイノ出版セシジョン編名ナリムルフイノ出版セシジョソ編名ナリムルフイノ出版セシジョン編名ナリムルフイノ出版セシジョ氏ノ書第十冊第三百三十三葉ニ記ナ讀ムベシ

余人生ノ道德ノ地位ニ於テ道德力ト睿智力トノ關係ヲ記スルコト大略左ノ如シ

甲 人ハ造物者ト同黨ノ生造物ニ對スルノ倫ヲ以テ生造セラル

乙 此倫アルカ故ニ造物者ト同黨ノ生造物ニ對シテ行フベキ義務ヲ以テ生造セラル

丙 其睿智力ヲ用井テ此倫ヲ知ル

丁 其道徳力ヲ用井テ此義務ヲ辨ズ

戊 此義務ヲ辨ズル知覺アルノミニテハ此義務ヲ盡ス所以ノ方法ヲ常ニ知ル能ハズ乃上帝ニ對スル義務ヲ辨ズル知覺アルノミニテハ上帝ヲ信奉スル所以ノ方法ヲ知ル能ハズ其他モ亦此ノ如シ而シテ此道徳ノ感覺ヲ動作ニ發顯スル所以ノ方法ヲ知ルハ其睿智力ヲ用井ルニ因ルナリ故ニ睿智ノ用ハ二職ヲ兼司シ一ハ其倫ヲ人ニ示スニ在リニハ其義務ヲ盡ス所以ノ方法ヲ示スニ在ルナリ

○第四篇 人間ノ幸福

上帝ノ萬物ヲ造ル必一對ヲ爲シ吾外面ニ物アレバ必之ニ適合スル者吾内部ニアリト此言余既ニ上文諸件ノ事由ニ就テ記セリ乃彼レ光ヲ外面ニ造リ眼ヲ内部ニ造リ美醜ヲ外面ニ造リ好惡ヲ内部ニ作り是非ノ質動作ニアレバ之ヲ審判スルノ良心吾心ニ在リ其他類推スベシ此適合アルニ因リテ我ト外物トノ交際生スルナリ而シテ内部ノ能力ハ之ニ適合スル外物ノ顯ハル、ニ因テ發行ス故ニ視官ハ光輝ノ顯ハル、ニ因リ嗅官ハ香臭ノ發スルニ因リ好惡ノ心ハ美麗醜惡ニ因テ感動ス其他ノ諸官亦此ノ如シ此能力發行スルニ及ンデ方ニ初テ周邊ノ物體ノ存在ト其品質ヲ知ル故ニ見ルコトニ因テ以テ見ルベキ物ノ存在

ト色トヲ知り聞クコトニ因テ以テ聞クベキ物ノ存在ト聲トヲ知ルナ
 リ
 然レドモ人外物ノ存在ト品質トニ接スルノ交際ハ特ニ之ヲ知ルノミ
 ニ止ラズ之ヲ知レバ則好惡憂樂ノ念從テ生ズ時トシテハ唯聞見スル
 ノミニシテ直ニ喜樂スルアリ又時トシテハ唯聞見スルノミニテハ吾
 ヲ喜バシムル力ヲ有ツ他ノ品質ノ標號トナルニ過ギザルコトアリ第
 一件ニ於テハ聞見スレバ人ヲシテ心ニ満足シテ復他ヲ願ハザラシム
 第二件ニ於テハ聞見スルニ因テ彼ヲシテ思欲ヲ起サシム之ヲ詳言ス
 レバ人外面ノ物ニ對スルノ倫アリテ某物ハ我耳目ニ觸ル、ノ外更ニ
 吾ヲシテ喜樂セシムルヲ得他ノ某物ハ我耳目ニ觸ル、ノ外更ニ吾ヲ

シテ憂愁セシムルヲ得ルナリ更ニ別様ニ此道理ヲ詳説スレバ人皆唯
 其傍邊ノ諸物ヲ聞見シ得ルノミナラズ又因テ以テ喜樂憂愁シ得ベク
 生造セラル、ナリ此喜樂憂愁スル一般ノ能力ヲ稱シテ感覺シ易キ者
 ト謂フ此感覺シ易キ者即傍邊ノ物ニ觸レテ喜樂スル能力ハ吾諸種ノ
 能力ヲ用井ルコト、相密着スルナリ故ニ見ルコトノ喜樂ハ視力ヲ用
 井ルニ非レバ得ル能ハス知ルコトノ喜樂ハ智力ヲ用井ルニ非レバ得
 ル能ハズ美麗ナル者ニ於ケル喜樂ハ嗜好ノ能力ト此ニ從屬シテ其發
 行ヲ助クル諸種ノ能力ヲ用井ルニ非レバ得ル能ハズ
 是ニ於テカ幸福ハ至當ノ物体ト品質トニ對シテ此感覺シ易キ者ヲ用
 井ルノ外他ヲキヲ知ルベシ抑幸福トハ其欲スル所ニ満足シ其好ム者

ヲ得テ樂ムノ謂ニシテ博士シヨソソ氏曰幸福ハ快樂ノ知覺ノ乘算
ヲ以テ成ルナリト

且此理法ハ明ニ吾造物者ノ心志ヲ指示セリ之ヲ詳言スレバ造物者ノ
我ヲ生スルヤ既ニ賦スルニ福祉ヲ得ベキ能力ヲ以テシ又此能力ニ適
合シタル物体ヲ吾傍邊ニ造ル故ニ彼此相依テ行ハザルベカラズ而シ
テ人皆此ノ如キ方法ニ於テ幸福ヲ享クルヲ得ベキナリ蓋シ幸福ハ吾
在世及處世ノ爲メニ用ヰルベキ夫ノ諸能力ト密接スルト爲サハ則此
事更ニ昭明ナリ抑幸福ハ一己或ハ黨類ノ幸榮ヲ要シテ行フベキ某件
ノ舉動ヲ勸メ或ハ之ニ報ル者タルコト此ノ如シ且夫レ吾某ノ物ヲ思
欲シ又其思欲ニ適スル物ノ存在ヲ欲スルハ即吾ガ其物ヲ喜ブ所以ノ

道理ナルコト猶他物ヲ欲セザルハ即之ヲ避ル所以ノ道理ナルガ如シ
時トシテハ此思欲或ハ忌避ノ念ニ生ズル理由ヨリ更ニ大威權アル理
由アリテ之ヲ管制スベシ

然レドモ之ヲ以テ此思欲ハ一理由ナラスシテ一某物ナルコトヲ昭明
セント欲スルモ之ニ反シタル他ノ最好道理アルコト明ナルニ非レバ
能ハザルナリ

更ニ審ニ本件ヲ思考スレハ上ニ説キシ方法ヲ以テ嗜好ヲ遂グルハ纔
ニ平淡ニシテ未以テ十分ノ幸福トスルニ足ラズ蓋シ人ノ嗜好食欲ニ
於ケル他日由テ以テ永久ニ快樂幸福ヲ生ズベキ勢力ヲ害スルニ至ル
マデ飽滿セシムルコトアルヲ實驗シテ知ルベシ今某ノ食物アリテ吾

口腹ニ適ス此吾食フ所以ノ理ナリ然レドモ貪食ノ甚シキ他日久シク之ヲ惡ムニ至ルマテ飽足シ爲メニ吾體質ニ快樂満足ノ力ヲ減廢スルコトアルベシ然バ則此食物ハ吾幸福ヲ増スベキカ故ニ上帝ハ吾ノ之ヲ食フヲ希望スル所ノ道理モ亦吾ノ右ノ方法ヲ以テ之ヲ食フヲ希望セザルナリ何ナレハ此ノ如クスルニ因テ以テ吾全量ニ準適シ幸福ヲ求ル爲メノ能力ヲ害シ而シテ此ノ如クニ甚シク吾理法ノ旨趣ヲ傷ヘハナリ或ハ假令法ニ從ヒ飽食スルヲ以テ某食ヲ好メル嗜欲ノ勢力ハ損セザルモ亦爲メニ苦痛困難ヲ生ジテ全ク其幸福快樂ノ根元タルコトヲ失フニ至ル者アリ此亦前者ト一樣ニ吾理法ノ旨趣ヲ傷フ者ニシテ之ヲ要スルニ上帝ハ吾ノ之ヲ食フヲ欲スト雖モ亦當然ノ分限ヲ越

エテ食ハザルヲ欲スルヲ示スナリ

又曰人ハ皆其幸福ヲ長ズルノ目的ヲ以テ各種ノ外物ニ適スル異様ノ嗜好ヲ賦シテ成造セラレ今某様ノ嗜好ヲシテ幸福ヲ生ズルノ勢力ヲ損スルホトニ満足セシムルコト他ノ嗜好ヨリ甚シキ者アリ或ハ某様ノ嗜好ヲシテ福祉ヲ生ズルノ勢力ヲ損セザルホトニ満足セシムルコト他ノ嗜好ヨリ過甚ナラザルアリ蓋シ造物者ノ人ニ此嗜好ヲ與ルノ意ハ同一結果即其福祉ヲ長ズルニ在ルガ故ニ若シ前ノ満足法ニ從ヘハ他ノ満足ノ勢力ヲ損セス則造物者ハ人ヲ戒メテ後ノ満足法ニ從ハシメント欲スルヤ明ナリ例ハ今吾レ食物ノ嗜好ヲ以テ成造セラル此必シモ食ント欲セザルト

キモ亦食フ所以ナリ然リ而シテ知識ヲ得ントスルノ嗜好モ亦吾カ生造セラル、所以ナリ故ニ人學ンテ以テ其知識ヲ求ム之ヲ詳言スレバ吾食物ニ飽キ知識ニ富ミ以テ幸福快樂ヲ致スヲ上帝ニ希望セラル、ナリ然ラハ則吾食テ而シテ學ブ能ハザルニ至リ學テ而シテ食フ能ハザルニ至ル者ハ皆大ニ上帝我ヲ生造セシ所以ノ幸福ノ基タル嗜好ヲ害シ以テ其我ニ希望スルノ意ヲ傷フナリ凡ソ此同一道理ハ他ノ諸件ノ例ニ於テ著明セラル

又曰甲ノ嗜欲ヲ肆ニシ以テ乙ノ嗜欲ノ勢力ヲ損スルニ至レハ遂ニ甲ノ幸福ヲ生ズル勢力ヲ并セテ損害スルコト往々之アリ故ニ食欲ヲ肆ニシテ其知識ニ富ント欲スル嗜好ノ勢力ヲ害スルホドニ食ヘバ并ニ

其消化機關ヲ害シテ痛苦ヲ生シ而シテ其食欲ヨリ生ズル快樂ヲモ減スルニ至ル或ハ又其食欲ヲ害スルホドニ學ブ者ハ遂ニ亦其學問ノ勢力ヲモ害スルナリ此レ吾ガ其嗜欲ヲ遂グルニ因テ福祉快樂ヲ得ルヲ希望セラル、ト雖モ亦之ヲ節制シテ敢テ放縱セザルコトヲモ希望セラル、ヲ顯白スベキ他ノ道理ナリ嗜欲ヲ節スル制限ノ幸福快樂ヲ得ルコトヲ希望セラル、人生ノ理法ニ欠クベカラザルハ猶嗜欲ヲ遂グル勢力ノ之ニ欠クベカラザルガ如シ

又曰造物者我ニ加與スルニ高上ナル能力ヲ以テシ我之ヲ以テ此兩道ノ舉動ヲ熟思シ又之ヲ以テ此ヲ愛シテ彼ヲ惡ミ且此ハ喜樂ノ基トナリ彼ハ悲痛ノ基トナルナリ但此二者ハ前ニ謂ハユル悲痛喜樂ノ基ニ

異ナリ且上帝ノ我ヲ生造スルヤ吾嗜欲ヲ整理節制スルノ習慣ヲシテ
 吾カ諸件ノ企圖ヲ成スニ甚必要ナラシム乃此二件ノ理ニ因テ知ルベ
 シ吾嗜欲ヲ制スルハ造物者ノ然ラシムル所ニ因テ吾幸福ヲ得ルガ爲
 メニ必要ナルコト猶吾嗜欲ヲ快クスルノ之ニ必要ナルガコトシ
 人ノ幸福ヲ以テ唯ニ單獨ナル者ト爲サバ則此諸說皆其理アリ況ヤ人
 ナ以テ黨類タル者ト做スニ當リテハ益此論ノ正確タルヲ知ルベシ何
 ナレバ諸種ノ嗜好情欲ヲ肆ニスレバ固ヨリ言ヲ踈タズ一ニ嗜欲ト
 雖モ之ヲ肆ニシテ制限セザルコト全世界皆然ルトキハ數年ヲ出デズ
 シテ唯ニ黨類ヲ害スルノミナラズ又必人類ヲ一擧亡滅スベシ故ニ人
 ノ幸福ハ吾嗜欲ヲ遂グルニアリト言ハ正論ナリト雖モ造物者ノ吾嗜

欲ノ爲メニ設ケタル制限ヲ越エザルホドニ嗜欲ヲ遂クルニ在リト言
 ハザル者ハ至全ノ正論ニアラザルナリ而シテ其成造セラル、所以ノ
 法ニ從テ至正ニ其嗜欲ヲ整理スル者ノ幸福ハ尤完好ナルベシ故ニ其
 現今ノ形勢ニ於テ能ク有ツベキ幸福ノ至大ナル者ハ其舉動ヲシテ皆
 德行ノ法即上帝ノ心志ニ適セシムルニ因テ得ベキナリ

○第五篇 自愛ヲ論ズ

感覺シ易キ者トイフ語ヲ以テ吾傍側ニアル諸種ノ物体ト品質トヨリ
 幸福ヲ致スベキ天性ノ能力ヲ顯ハセリ此能力ハ吾因テ外物ヲ辨スル
 所ノ知力ト密ニ親和スト雖モ亦自カラ其類ヲ異ニシ嗜欲ヲ遂ケント
 スル念ノ之ニ適スル物体ニ觸レテ感動スルトキハ稱シテ食欲情等ト

謂フナリ

吾嗜欲ヲ遂グルノ方法相異ナリテ此ヨリ生ズル所ノ效驗モ亦同シカラザルガ故ニ其何ノ方法ニ從ンヤヲ撰ムベキ機會アルコト明ナリ目前ノ快樂ヲ捨ルニ因テ更ニ許多ノ快樂ヲ他日ニ取ルコトアリ目前ニ快樂シテ之ニ次グニ悲痛ヲ以テスルコトアリ亦目前ニ悲哀シテ之ニ次グニ更ニ許多ノ快樂ヲ以テスルコトアリ回顧スレハ必其在世ノ某時ノ幸福ハ現時ノ幸福ト同一價格ナルコトヲ知ルベシ而シテ凡ソ事其現時ノ在世ノ他時ニ勝ル所以ノ理ヲ解スル者アラズ夫レ吾過去ノ毎時間ハ皆一度現在シテ何分ノ價格アル者ト見ルヘシ然レドモ反復回顧スルニ諸時各幸福ノアラン限り皆一様ノ價格タル者ナリ今吾レ

未來ノ毎時ニ於テ彼レ此ヨリ勝ルコトナキヲ明白ニ理解スト雖モ其轉換シテ互ニ相勝ルコト必シモ之無キニ非ズ加之此ニ相異ナルコトアレバ至遠ナル未來時ノ現在ノ時ヨリ利タルヲ知ルベシ何ナレバ人益長生スルニ從テ其德行ヲ能シ幸福ヲ得ルコト愈其大ヲ加ヘテ而シテ其存在ノ地面益其廣ヲ増セバナリ故ニ吾在世ノ景況ヲ熟念スレバ未來ヲ以テ現在ニ代フルハ有智者ノ事ト謂ベシ博士シヨンソン氏曰凡ソ事吾ヲシテ誘惑ニ陥ラザラシムル者又過去未來ヲシテ現在ニ勝ラシムル者ハ吾ヲシテ思慮深キ者ノ地位ニ進マシムトヘズゾスノイオナ島ノ記行中ニ載ス

然レドモ情欲ノ實質ハ全ク其報效如何ヲ顧ミズ又全ク克己上ヨリ得

來ルベキ他ノ最好快樂ヲ計ラズシテ目前ノ快樂ヲ取ルニ在ルノミ故ニ情欲ニ激動セラル、者ハ目前快樂ノ外更ニ何事アルヲ知ラズ因テ以テ未來最好ノ喜樂ヲ捨テ甚シキハ自ラ邪毒治スベカラザルノ災厄ヲ貽スベキ方法ニ於テスルモ是憂ズシテ只管目前ノ快樂ヲ取ルコトヲ免レズ故ニ彼レ今世ニ在テ得ヘキ幸福快樂ヲ盡ク有得ント欲セバ其知覺ノ一部分能ク他ノ部分ト相和シテ分離セザルヲ要ス他ノ部分トハ現在ト未來ヲ比量シテ最大ニ其幸福ヲ増加スベキ爲メノ二法即己ニ從ヒ己ニ克ツ二者ノ中其一ヲ撰ブノ謂乃自愛是ナリ自愛ハ吾氣質ノ部分ニシテ吾ニ示スニ未來形勢ノ一斑若クハ全量ヲ以テシテ專ラ我が爲メニ至大ノ幸福ヲ得ント欲シ而シテ又吾ガ爲メニ之ヲ爲シ

或ハ爲サズ又情欲ニ從ヒ或ハ之ヲ禁ズルコトヲ勸誘スル者ナリ蓋シ專ラ目前ノ快樂ニ着意シテ行フ者之ヲ情欲ニ因テ行フト言ヒ吾全量ノ獨自ノ幸福ニ注意セズシテ行フ者之ヲ自愛ニ因テ行フト言フナリ

此二様推動力ノ相異ナルコトヲ著明スル難カラズ今某人アリ自愛ノ念ナクシテ專ラ情欲ニ推動セラル、ニ方リ彼目前ノ機會ニ乗シ諸件ノ快樂ヲ取リテ復顧慮スルニ暇アラズ且此快樂ヲ以テ克己上ヨリ有得ベキ他ノ快樂ニ比シテ其孰レカ勝ルヤヲ思量セズ又目前ノ快樂ヨリ他日何等凶惡ノ報效ヲ招クベキヤヲ熟察セサルナリ此ニ反シテ又某人アリ情欲ニ誘導セラレズシテ唯自愛即全ク自己ノ幸福タルヲ欲

スルノ念ニ推動セラレタリ蓋シ此ノ時ニ當テ彼レ決シテ一舉動ヲモ
 行ハザルベシ夫レ某ノ嗜好ヲ快クセント欲セザレバ此ニ某ノ快樂
 ル能ハズ因テ又某ノ幸福アル能ハズ蓋シ幸福ハ吾感覺シ易キ者ノ其
 適スル所ノ物体ニ觸レテ行フノ結果ナリ然レドモ衆人皆此物体ニ適
 スル感覺シ易キ者ハ自ラ之ヲ己ニ有ツテ爲サズ又此感覺シ易キ者ニ
 適スル諸物ハ己自ラ之ヲ顯ハサズ故ニ情欲ナク唯自愛ニ推動セラル
 ル者ノ景況ハ幸福ヲ慕フノ念ヲ遂ゲ得ルノ外亦物ニ對スルノ倫理ヲ
 知ラズ其念タル不定ニシテ最悲痛ノモノトス此徒ニ假想ノ景況ニア
 ラズシテ實事然ルナリ乃某人アリ甚シキ煩悶及定症ノ鬱病ニ罹リテ
 其心ニ顛狂ヲ欲スルノ志趣アルヲ見タリ而シテ我自己ニ此ノ如キ志

趣アラサレハ大幸ト謂ベシ蓋シ之ガ爲メニ感情或ハ感覺シ易キ者ノ
 實力ハ衰茶スルナリハムレト有名ナル丁ガ這般ノ心アルヲシエクス
 抹ノ王族

ヒーアノ記スル所左ノ如シ

吾レ近頃(何處ヘカ)盡ク我歡情ヲ失ヒ又盡ク經歷セシ諸事ヲ忘レ
 心情鬱塞ノ甚シキ此盛大ナル建築及地球ヲ見ルコト赤嶺ノ丘陵ニ
 異ナラズ此絶美ノ穹蒼大氣ト此宏壯ニシテ空ニ懸リタル蒼天及金
 火ヲ以テ救飾シタル隆盛ノ屋板ハ腐臭穢毒ノ氣ノ群簇スルカコト
 ク見ユルノ外ナキハ何故ゾヤ汝ノ微笑ニ因テ汝ガ若カク言フ者ニ
 似タリト雖モ男子婦人共ニ吾ヲ樂マシメス(ハムレトノ演劇第二
 回ノ第二段ニ見ユ)

故ニ自愛ノ念ハ實ニ能力タルニ非ズ亦實ニ福祉ヲ生ズベキ吾氣質ノ部分ニ非ズ唯吾ガ目前ニアルベキ各般樂事ノ中完全幸福ヲ得ルガ爲メニ我ヲシテ其最好者ヲ撰取セシムル所ノ一ノ推動力ナリ此レ某人ガ最烈ナル自愛ノ念ニ感動スレバ某ノ樂事ニ由リテ幸福ヲ致スコト他人ヨリ多カラザル明白ノ狀實アルニ因テ更ニ確然タリ若シ夫レ某ノ樂事ニ由リテ快樂ヲ得ルノ多少ハ其自愛ノ念ニ准ゼズシテ而シテ其感覺シ易キ者ニ准ズルナリ

此論說ニ因テ以テ自愛ノ占ムル階級ヲ判得スルコト容易ナリ

甲 自愛ノ階級ハ情欲ノ階級ノ上ニアリ夫レ始終完全ノ幸福ハ有限時間ノ幸福ヨリモ貴キガ故ニ完全幸福ヲ得ンコトヲ勸ムル能力ハ

一時ノ幸福ヲ得ンコトヲ勸ムル能力ヲ管制スルヲ要スルヤ明ナリ人幸福ヲ欲スレバ最大量ノ幸福ハ其尤欲スベキ者タリ而シテ人皆一ノ氣質ヲ賦與セラレ此レ吾ニ事物ノ異同ヲ豫告シ及當然ノ取捨ヲ勸ム故ニ之ニ從フハ造物者ノ志ナリ

乙 自愛ノ階級ハ良心ノ階級ノ下ニアリ夫レ人ハ唯知覺者即幸福ヲ得ベキ者タルノミナラズ亦道德者即德行ヲ能スベキ者タリ而シテ後者ハ亦自己ノ幸福ニ關シテ吾在世ノ爲メニ尤必要ナルコト明ナリ何ナレハ自己ノ一時ノ幸福ヲ顧ミズシテ能ク善ヲ行ヒ因テ以テ吾道德ノ幸福即現世ニ得ベキ幸福中ノ至貴ナル者ヲ有ツ之ニ反シテ道德ノ幸福ト自己ノ幸福ト相爭フトキニ方リ只自己ノ幸福ノ爲メニ行ヒ

因テ以テ最貴ナル道德ノ幸福ヲ失ヒ而シテ自己ノ幸福ヲ得ルコトモ亦確保シ難ケレバナリ之ヲ詳言スレバ自己ノ幸福ト吾本分ト相争フトキニ方リ自己ノ幸福ヲ捨テ、願ミス只吾ガ公義ナリトスル者ヲ爲スベキノミ

請フ一例ヲ擧テ之ヲ明サン今兩様ノ所爲アリテ惟吾ノ撰ブニ任セリ而シテ甲ハ自己ノ幸福ヲ増シ乙ハ修身ノ本分ヲ盡スベシ此際吾孰レノ道ニ從テ行フモ難キニ非ズ

甲 自己ノ幸福ヲ求テ我本分ヲ害スルアリ此時實ニ德行ノ樂ヲ失ヒ悔恨ノ痛ヲ受ケ且吾欲スル所ノ目的タル幸福ヲ得ルコトモ猶且必然ヲ保シガタシ

乙 良心ノ指明スル所ノ行爲ヲ唯自愛ノ念ノ然ラシムルニ因テ行フコトアリ此時吾レ能ク天然理法ノ此行爲ニ属スル報效ヲ受ベシ然レドモ德行ノ樂ヲ失フナリ

丙 良心指明スル所ノ行爲ヲ唯本分當然ノ推動ニ由テ行フコトアリ此時吾亦盡ク前件ニテ得ベキ報效ヲ得且良心ノ快樂ヲ受クルナリ譬バ今幾圓金ヲ自娛ノ爲メニ費ヤサンヤ將タ吾當然ノ職タル仁愛ノ事ニ用井ンヤト思料センニ若シ前者ニ從テ行ヘバ必吾求ムル所ノ快樂ヲ有ツベキヤ確保シ難シ而シテ公義ノ樂ヲ失テ以テ悔恨ノ痛ヲ懷キ愉快ナリト思フノ樂忽去リテ罪過ヲ覺ルノ悲永ク絶エズ抑又夫ノ名聞ヲ欲スルヨリシ若クハ自愛ノ念ノ變化セシ者ヨリシテ仁愛ヲ行

ヘバ則吾ガ求ムル所ノ名譽ヲ得ルコト頗ル確ナリト雖モ自ラ以テ德行ト爲ス者ノ報賞ヲ失フナリ或ハ第三ニ吾自己ノ福祉ヲ顧ミズンテ專ラ上帝ト人トヲ愛スルノ念ニ因テ行ヘバ天然ノ理法ニ因テ此行爲ニ屬スル諸件ノ報效ヲ得ルノミナラズ亦自ラ以テ公義ト爲ス者ノ得ベキ高等ナル報賞ヲ受クルナリ

彼理由ヲ舍テ、此理由ニ從フコト此ノ如クナルヲ吾救主明白ニ說與セリ曰「此ニ家宅兄弟姊妹父母妻子及田園ヲ捨テ、以テ吾ト經典トニ徇フ者一人ナシト雖モ彼レ現今及來世ニ於テ一百倍ノ不滅ノ生命ヲ受クベシ」之ヲ解シテ曰人己ニ克ツト雖モ自己ヲ顧ミズンテ專ラ上帝ヲ愛スルノ念ヨリシテ行フニ非レバ德行ノ賞スベキナシ又救主

ノ恒言ニシテ同一意義ノ語アリ曰其生命ヲ畜フル者ハ之ヲ失フベシ而シテ吾カ爲メニ其生命ヲ舍ル者ハ之ヲ得ベシ」到底道德ノ品行ハ我ト上帝トノ倫アラン限ニ自己ノ幸福ノ爲メニ吾ヲ勸誘スル理由ヲ捨テ更ニ高等ノ理由ナル上帝ノ單純ノ心志ニ從フヲ愈ラザルニアリト此說聖經文中ニ確言スル所鮮カラズ今吾說ク所實ニ理アリトスレバ則吾見ル所左ノ如シ

甲 良心ノ語ルトキニ方リ自愛ノ聲ハ止マザルヲ得ズ之ヲ解シテ曰人皆修身ノ本分ニ反スル方法ヲ以テ自己ノ幸福ヲ求ルノ權理ナシ但此ニ幾件ノ動作アリテ其何レヲ行フモ罪科ナケレバ中ニ就テ尤自己ノ幸福ニ助アル者ヲ撰ミ行フヲ禁セス蓋シ此時ニ當テヤ吾幸福ニ

着意スルノ外更ニ他ノ大ナル理由ヲケレバナリ

乙 前篇ニ於テ人其嗜好ヲ快クスルニ因テ幸福ヲ得ルヲ希望セラ
ル、コトヲ示セリ此篇ハ乃嗜好ヲ快クスルコトノ德行ニ反スルトキ
ハ之ヲ捨テ、己ニ克チ因テ以テ更ニ大ナル幸福ヲ得ベキコトヲ顯ハ
スナリ語ヲ變シテ之ヲ解スレバ至大ノ幸福ヲ得ルハ己ヲ快クスルノ
方法ニ因ラズシテ唯人ノ好カラシムコトヲ求メ且中心ヨリ上帝ノ心志
ヲ成スニ因ルト云ノ義ナリ

丙 故ニ諸種ノ推動力或ハ嗜好ハ其各一定セル境界中ニ在テハ皆
相貴シト雖モ推動力ノ下等ナル者ノ上等ナル者ト相争ニ及デハ其下
等ナル者ハ全ク上等ナル者ニ服従スルニ因テ其自己ノ企圖ヲ達シ得

ル是其通理タルヲ知ルベシ故ニ嗜好及目前ノ快ヲ求ルノ念ヲ其境界
中ニ快クスルハ可ナリ然レドモ此目前ノ嗜好ノ自愛ノ念ト相争フニ
及デハ目前ノ嗜好ヲシテ實ニ自愛ノ念ニ從ハシム是ヲ以テ情欲モ猶
能ク其至好ノ企圖ヲ達ス之ヲ詳言スレバ人此ノ如クスルニ因テ更ニ
喜樂ノ地位ニ至ルナリ抑自愛ノ念モ亦其當然ノ境界中ニ在テハ必要
ノ者タリト雖モ其良心ト相争フニ方リテハ自愛ノ念自屈シテ上帝ノ
作爲セシ一層尊貴ナル者(即良心)ニ從フニ因テ實ニ其企圖ヲ達スル
ナリ

丁 吾氣質ノ無罪ノ部分タル自愛ノ念ト不善ノ心情タル自私ノ念
トノ相異ナル所亦太々辨シ難カラズ蓋シ自私ノ念ハ吾ヲ勸誘スルニ

己ノ爲メニ全ク幸福タルコトヲ以テスルゴト自愛ノ念ト異ナラズト雖モ吾ガ權理外ニアル事物即邪惡ヲ免レズシテ上帝及吾黨類ニ對スル職務ヲ害セザレバ得ル能ハザル所ノ者ニ於テ幸福ヲ得ルヲ勸誘スルナリ

○第六篇 良心ハ完全ナラザル所アリ更ニ道德ヲ照ス他ノ

知識アルヲ要ス

前篇ニ於テ是非邪正ト有罪無罪トノ別ヲ容易ニ辨ズベキコトヲ説ケリ夫レ是非邪正ハ人ノ成造セラル、所以ノ倫ト其倫ヨリ生ズル所ノ義務ニ因縁シテ而シテ其性質一定不變ノ者タリ有罪無罪ハ其人一己ニ關係シ且其義務ヲ辨ズル知識ノ度量ニ準ジテ變ズヘキ者ナリ而シ

テ唯動作ノ行ハレ或ハ行ハレザリシニ因テ判定スベキニアラズ

此二様ノ質アル動作ノ結果相異ルコト亦分明ニシテ今夫レ人公正ノ動作ヲ行ヘバ喜樂此ニ從テ生ジ邪曲ノ動作ヲ行ヘバ哀痛不快此ニ從テ生ズト雖モ此必シモ之ヲ行フ者ノ有罪無罪ニ關セズ乃萬物ノ現今ノ理法然ラシムル所ニシテ殺傷報讎不貞及竊盜ノ惡事タルヲ知ラザル者ト雖モ此等ノ事ヲ行テ修身法ヲ犯セバ此動作ニ屬スル應報ヲ受ベシ此ニ反シテ宥恕仁惠貞正及純潔ノ善事タルヲ知ラザル者ト雖モ此等ノ事ヲ行ヘハ此動作ニ屬スル利益ヲ受ベキコト明ナリ

今此理法ノ然ラシムル所ニシテ夫ノ吉凶禍福ヲ以テ正邪曲直ノ動作ニ應ズル目的ハ人ヲ勸戒スルニアリ又上帝ノ彼ノ爲メニ有テル心志

ヲ示スニアルコト知ルベシ然レドモ全ク此ヲ以テ有罪タリ無罪タル
 動作ヲ賞罰スルニ非ズ何ナレバ吉凶禍福ハ唯人ノ動作ニ應ジテ彼ニ
 及ブノミニシテ此動作ヲ行フ者ノ有罪無罪ニ關係セザレバナリ
 今吾レ更ニ他ノ道理ヲ説クベシ此ニ某人アリテ其造物者ニ對スルノ
 義務ヲ辨シ且造物者ノ意ハ其何ノ動作ニアルヲ知ルト雖モ故意ニ此
 義務ヲ犯スヲ見レバ人誰カ彼ノ此侵犯ニ適スル罰ト其犯セシ義務ノ
 輕重ニ准ズル罰ヲ受クベシト思ハサル者アラシヤ故ニ諸動作ノ應報
 ハ二重ノ者ト知ルベシ第一萬物ノ現今ノ理法ニ緣由スル應報ナリ第
 二有罪無罪タル動作即造物者ニ對スル義務ヲ犯シ或ハ犯サマルニ從
 テ生ズル應報ナリ

此二事ノ相異ナルコト分明ニシテ一事ハ測度シ得ルト雖モ他ノ一事
 ハ量知スベカラズ今動作ノ果シテ有罪タルヲ顧ズシテ唯其邪惡タル
 ニ報イルニ痛苦ヲ以テスル理法ノ目的ハ人ヲ戒メテ危害ヲ避ケシメ
 或ハ造物者ノ心志ヲ暗告スルニ在リテ其大ノ如何ヲ思量シ得ルナリ
 然レドモ動作ヲ以テ有罪タリ即造物者ノ明白ナル心志ヲ害スル者タ
 リト思考スレバ此動作ニ應ズル罰ノ大ナル如何ヲ知ル能ハズ何ナレ
 ハ造物ノ造物者ニ對シテ有ツ所ノ義務ノ大ナル如何ヲ知ラズ又全ク
 此義務ヲ盡セバ其報賞ヲ得ルコト幾許ナルヤヲ知ラザレハナリ
 然ラハ則是非邪正ノ動作ハ皆從フニ喜樂痛苦ヲ以テシ之ヲ行フ者ヲ
 シテ其知識ノ測ル能ハザル有罪無罪ノ賞罰ヲ受ケシメ且吾理法ニ因

テ毎時ニ皆吾道德ノ地位ヲシテ更ニ好ク若クハ更ニ惡カラシム殊ニ現世ハ試煉ノ場ニシテ終ニ復變化スベキ無キノ場ニ趣クガ故ニ人皆其職分ヲ知り且之ヲ行フベキ諸種ノ推動力ヲ付與セラル、ヲ至要トナスナリ余此ガ爲メニ德行ノ篇ノ末ニ於テ人ノ生造セラル、所以ノ理法ヲ説著セリ而シテ人ノ睿智及良心共ニ完全ニシテ周邊ノ萬物ト全ク相和スレバ現世ニ於テ彼レ其幸福ヲ全有スベキコト疑ナシ然レドモ人其地位ニ適スル睿智力ト道德力トヲ有スレバ則復造物者ノ傳教ヲ受ルヲ要セズト言ヒ難シ夫レ彼レ義務ヲ辨ズルノ思考ト之ヲ行ント欲スルノ念ハ已ニ完全ヲ得ルト雖モ其之ヲ行フノ方法ニ至リテハ未全ク辨ズルヲ得ズ故ニ我第一ノ父母ハ十分ナル道德ノ氣質ヲ賦

與セラレシト雖モ猶上帝ノ其心志ノ幾部分ヲ己レニ啓示スルヲ要セリ此レ後來限アル才能ヲ有テ十分ナル道德ノ氣質ヲ賦與セラル、者ノ爲メニ常ニ欠クベカラザル者ナリ況ヤ人ノ道德ノ氣質完全ナラザル如キ者ニ於テハ増加ノ知識ノ必要ナルコト更ニ疑ヲ容レズ是諸種ノ事件ニ於テ觀察スベシ

甲 人ノ生造セラル、所以ノ義務ニ就キテ其補助無キ良心ノ能ク辨明スル所ニ非ル者多ク之アリ乃普通ノ赦宥懺悔ヲ行フベキ義務是ナリ

乙 人此義務ヲ辨明シ得ルニ方リ之ヲ行フ方法ニ至リテ往々誤解ヲ免レザルコトアリ此ニ某人アリテ上帝ニ對シテ行フベキ義務ヲ辨

明スト雖モ上帝ハ人ノ奠供ヲ好マズト思ヒ又某人アリ其兒子ヲ愛スベキノ義務ヲ辨ズト雖モ其義務ヲ行フ至好ノ法ハ兒子ヲ殺スニアリト想フ今此兩般ニ於テ二人皆其事故ヨリ生スル目前ノ譴罰ヲ受ケザルヲ得ザルコト恰モ故意ニ此義務ヲ害セシトキト一樣ナリ

丙 或ハ其成造セラレ、所以ノ義務ト之行フベキ方法ト兩ナガラ之ヲ辨ズト雖モ故意ニ良心ノ諫戒ニ背キ或ハ造物者ノ心志タルヲ知テ之ヲ蔑視シ吾爲メニ至善ナルト他人ノ爲メニ幸福ナルトヲ顧ズシテ盲昧粗暴ナル情欲ノ推動ニ從テ行フヲ免レザル者アリ夫レ人目前ノ些ノ嗜好ヲ快クスルカ爲メニ故意ニ上帝ノ誠命ヲ犯スハ不祥ト謂ベシ此レ通常懺悔ノ語ニ「吾レ善事ヲ見且明ニ之ヲ知ルト雖モ惡

事ヲ爲スヲ免レズトイフ所以ナリ

故ニ人其行フ所ノ邪惡ノ動作ニ從テ當然ノ罰責ヲ今生ノ間ニ受ルンミナラズ其造物者審判者ニ對シテ行フベキ義務ヲ犯セシヨリ致シタル大ニシテ恐ルベキ不測ノ罰責ヲ受ベシ蓋シ此ノ如キ人性ノ景況アルコトヲ新約全書保羅ガ羅馬人ニ與ル書第七章第七節ヨリ第二十五節ニ記載セリ

此レ人性ノ景況ナレバ則上文ニ說シ如キ道德上ノ不完全ナル氣質ヲ受ル吾人ノ如キ者ハ實ニ憫ムベシ而シテ之ヲ祐助スルカ爲メニ某事ノ成ルニ非レバ人皆現世ニ於テ得ベキ多分ノ幸福ヲ受ル能ハス且己ヲ以テ人智測ルベカラザルノ罰責ニ委スルコト疑ナシ

此時ニ際シテ仁惠ノ神明アリ吾ヲシテ其本分ヲ辨ゼシムルカ爲メノ増加ノ方法ヲ用ヰテ吾ニ明示スルニ其己ニ招ク所ノ者ハ兇惡タルヲ以テス且上帝ハ公義ヲ好メリ故ニ人ヲシテ新ニ罪惡ノ習慣ヲ脱セシメ而シテ其素ヨリ彼レニ希望セル夫ノ德行ヲ好ミ及之ヲ行フノ地位ニ復ヘラシム蓋シ上帝ハ此ノ如クスベキ義務アリト確言スル能ハズト雖モ無量ノ慈惠仁愛アル者(即上帝)ハ義務ノ爲メニ責メラル、ニ非ルモ亦此ノ如クスルコト眞實ニシテ疑フベカラス

人ノ道德上ノ氣質ノ不具ヲ補濟スルガ爲メニ天啓アル時ニ方リ此補濟ヲ成スニ企望スル所ノ何タルヤヲ知得スルナリ

甲 人能ク道德ノ義務ヲ辨ズル知識ノ不具ヲ補濟スルハ上帝ノ德

性ト人神ノ諸種ノ倫トヲ辨明スルニ因ルベシ

乙 吾義務ヲ行フ所以ノ方法ヲ知ラザルヲ免ル、ハ或ハ最廣ク動作ノ應報ニ着眼スルニ因リ若クハ直接ノ教誡ニ因ルベシ

丙 吾不順ノ心性ニ克服スルハ何方法ヲ用ヰルベキヤ知ルヘカラスト雖モ就中當然ノ方法ハ新ナル義務ヲ作り以テ人ノ靈魂中ニ善心ノ新源ヲ發シ而シテ新倫ニ因テ以テ上帝ノ品行ヲ我ニ示明スルニ在ルベシ

此條件ノ第一第二ハ自然教法ノ發明ト舊約全書ノ神治ニ出ツル修身法ノ布告ニ因テ成リ第三ハ新約全書ノ事實ノ天啓且新ニ救濟ノ神治ヲ作セル上帝ノ天啓ニ因テ特ニ成ル者ナリ

故ニ以爲ラク良心ニ關セザル道德ノ知識ノ源ハ左ノ如シト

(イ) 自然教法ノ訓誡

(ロ) 聖經ノ訓誡及道理

本章ノ説述ヨリ生シタル數件ノ定見アリ則之ヲ下ニ記ス

邪曲ヲ行フヨリ生ズル不善ノ應報ハ二種ノ者タルコト明ナリト吾既ニ之ヲ前篇ニ説ケリ乃其第一ハ是非邪正ノ動作ト附着シテ萬物ノ現今ノ理法ヨリ生ズル者第二ハ有罪タリ或ハ無罪タリ即造物者ニ對スル義務ヲ故意ニ害シ或ハ害セザルノ動作ニ應ズル者ナリ

此明白ナル區別アルヨリ亦左ノ件アルヲ見ルベシ

甲 苟モ罪科タル者ハ皆小事ニアラズ故ニ不可測ニシテ神靈威嚴

ナル義務ヲ犯セバ其大小輕重ヲ論セズシテ亦人ノ知ル能ハザル恐ルベキ罰責ヲ受ルヲ免レズ若シ此レ小事ナリト言ハマ之ニ答ルニ明確ノ言ヲ以テセン曰人些事ノ爲メニ上帝ニ對スル神靈威嚴ノ義務ヲ害セバ其邪曲タル願フニ如何ゾヤ

乙 然ラバ則一時ニ行ハレシ説ノ如ク上帝ハ朝露ノ如キ人生ノ頃刻動作ノ爲メニ嚴酷或ハ永久ノ罰責ヲ下スヲ得ズト言フハ亦無稽ノ談ト謂ベシ抑一時ト永久トヲ論セス其爲ス所上帝ニ對スルノ義務ヲ害シ而シテ不善ノ應報ハ義務ヲ犯スノ大小ニ從テ來リ而シテ又一人ノ能ク造物者ニ對スル義務ノ全量ヲ理解シ得ル者アラザレハ則試ニ問フニ其故意ニ行ヒシ邪惡ノ所爲ニ適切ナル刑罰ノ何タルヤヲ以テ

スルモ曾テ確答スル能ハズ而シテ一件ノ些ノ惡事頓ニ人ノ性質ヲ變
ジテ永ク上帝ノ逆徒タラシムルトキニ當リテ殊ニ然リ故ニ能ク此間
ニ確答スル者ハ惟夫ノ十分ニ神人ノ倫ヲ知レル上帝ノミ

丙 卑汚報仇欺詐或ハ嫉妬ノ思念殊ニ此思念ノ然ラシムル所ノ言
語動作ハ人ノ上帝ニ對スル義務ヲ犯スナリ而シテ人ノ不具ナル良心
モ猶能ク屢彼ニ向テ此ノ如キ侵害ヲ行フヲ告訴ス因テ前論ノ果シテ
誤ラザルヲ知レバ則吾現今ノ道德ノ景況中ニ恐ルベキ元質有ルコト
明ナリ凡ソ人上帝ニ背叛シテ罪過ヲ行フヲ免レザルガ故ニ公正人ノ
職分ハ必上帝ノ已チシテ刑罰ヲ免レシムルノ方法ト道德ノ改新ヲ爲
サシムルノ手段トヲ以テ我ニ示指スルヤ否ヲ沈思推究スルニ在リ且

果シテ此ノ如キ示指アラハ頼テ以テ人生ノ事業ヲシテ己チ助クベキ
道理ニ適セシムルコト是レ人ノ尤當ニ謹守スベキ職分タルベシ

丁 現世ハ試煉ノ場ニシテ道德上ノ變化ハ唯此世ニ於テノミ行ハ
ルベクシテ此世ハ早晚必變化スベカラザルノ世ト爲リテ後ニ已ムベ
シ故ニ現世ハ唯來世ノ爲メニ備辨ヲナスノ一機會ヲ吾輩ニ與フルナ
リト思考スレバ則此職分ノ必要ナルコト更ニ明白ナルベシ然ルニ吾
才力中ニ此事ヲ辨ズル知識ヲ有ツコトヲ勉メズ或ハ來世ニ吾景況ヲ
修好スル極メテ難キヲ示ス所以ノ至正ナル教誡ヲ蔑視シテ順從セザ
ル者ハ其昏愚無知何ヲ以テ之ニ比セン

戊 一人アリテ吾レ何ソ來世ノ事ヲ知ラン故ニ之ヲ知ルヲ要セザ

ルナリト抗論スレバ亦他ト一様ノ愚タルヲ免レズ何ナレバ此レ最宜
 シク審詳專一ニ考究シテ而後ニ抗論スルヲ得ベキノミナルニ彼レ始
 ヨリ未少シモ考究セズシテ直ニ抗論スレバナリ夫レ其知識ヲ以テ教
 法ノ衆理ヲ檢シ且公正ニ其悟性ヲ用非タリト雖モ確然來世未來ノ事
 ヲ知ラスト抗言シ得ル者アラズ故ニ吾ヲ以テ未初メヨリ來世ノ事ヲ
 檢セザルベシトスル者ハ何理ニ依テ此抗言ヲナシ得ルヤ其辭スベカ
 ラザルコト猶他人ノ天ヲ知ルコト吾ノ如キニ過キザルカ故ニ吾曾テ
 天文ヲ學バスト公言スル者ノ狂愚タルカゴトシ然レドモ恰好ノ道理
 ニ就テ教法ヲ講明スルコトヲ務ル者亦少ナカラズ而シテ人他事ニ因
 テ抗論スルノ愚タルヲ知ルト雖モ教法ニ於テ抗論スルノ愚タルヲ知

ラザルハ亦奇ナラズヤ

○第七篇 自然教法ヲ論ス

前篇ニ於テ吾道德ノ氣質ノ本性ヲ著ハシ且現世ニ於テ良心ハ不具ナ
 ルガ故ニ其希望スル所ノ如ク吾能力中ノ幸福ヲ保全シ吾ニ受クル災
 厄ヲ避ル爲メノ必要ナル果實ヲ生ズル能ハザルコト明ナルヲ示セリ
 因テ以テ某知識及某道德力ヲ吾ニ増加シテ賦與セラル、コトノ不定
 ナルニ非ルコト亦明ナリ蓋シ此二事ハ自然教法及著顯教法ノ理ニ因
 テ成ルナリ此篇則左ノ條件ヲ以テ自然教法ヲ説クベシ

第一 人自然ノ知識ニ因テ其職分ヲ辨ズル所以ノ方法

第二 此教ノ方法ニ因テ人其職分ヲ辨ズル知識ノ達スル量

第三 自然教法ノ制度ノ缺典

○第一章 自然ノ知識ニ因テ人ノ職分ヲ辨スル所以ノ方
法

此件ヲ論述スルノ主説左ノ如シ

第一 此ニ全智普通ナル元理アリテ此ノ如クニ人ヲ成造シ且人ノ周
邊ニアル万物ヲシテ一己或ハ社會ノ人事ニ關シ得ルコト此ノ如クナ
ラシムルナリ

第二 彼レ(即元理)此ノ如ク人ヲ成造シ且我周邊ノ諸倫ヲ設クルコ
トニ於テ一ノ企圖アリ而シテ其企圖ノ一部ハ其心志ノ人ニ關スル者
ヲ彼ニ告示スルニ在ルナリ

第三 人能ク此倫ヲ辨シ且諸種ノ動作ノ何狀ヲナシテ彼我ニ關涉ス
ルヤヲ知得スルナリ

第四 人此諸倫ノ設クル所以ノ企圖及殊ニ此企圖ノ部分ハ造物者ノ
心志ヲ人ニ告示スルニ在ルコトヲ知得スルナリ

此自然明白ナル道理ハ職分ノ事ニ適用スル難ラズ人皆某ノ舉動ヨリ
幸福ヲ來タシ他ノ舉動ヨリ禍殃ヲ致スヘク爲シ得ルコトヲ知ル而シ
テ造物者ハ此時ニ方リ人ノ某ノ舉動ヲ行テ他ノ舉動ヲ避クルヲ欲ス
ルコト疑ヲ容レズ之ヲ復言スレバ人ハ某方法ヲ用非若クハ某制限ヲ
越エテ某件ノ舉動ヲ行ヒ因テ以テ不詳災厄ヲ致スコトアリ此乃造物
者ガ某件ノ舉動ヲ行フニ某ノ方法ヲ用非某ノ制限ヲ守ルコトヲ人ニ

暗告スル所以ナリ

又曰前ニ言ヘルゴトク社會ハ幸福ヲ得ル爲メニ必要ナルノミナラズ又實ニ人類ノ生存スルニ必要ナルカ故ニ某ノ動作能ク吾ガ一己ノ幸福ノ爲メニ如何ノ效果ヲ生ゼンヤヲ思量スルニ方リ其動作ヨリ直ニ自己ノ身上ニ及ブ效驗ノ外ニ更ニ廣ク着眼スルヲ要スベシ是ヲ以テ人某件ノ動作ヨリ凶惡ノ應報生ジ來リテ自己ノ身上ニ及ブヲ知ル能ハザルコトアリト雖モ其結果ハ則社會ヲ害シ殊ニ其殄滅ヲ致セバ此其結果ハ上帝ノ心志ニ出ヅルコト明ニ知ルベシ蓋シ社會ヲ殄滅スルハ即一己ヲ殄滅スルナリ故ニ上帝ハ人ノ社會ヲ害スルコトヲ爲サマシムルヲ望ムコト猶彼レガ其身体ヲ傷フコト即自己ノ幸福ヲ害スルコト

ヲ爲スヲ望マザルカ如シ上文ニ述ベシ節制ノ道理ハ此方法ニ於テ亦本件ニ適用ス之ヲ詳言スレバ其方法ニ於テシ或ハ其分限ニ從テ動作ヲ行ヘバ社會ニ利益シ而シテ他ノ方法ニ於テシ或ハ其分限ヲ越エテ動作ヲ行ヘバ社會ヲ害ス此ニ於テ上帝ノ人ノ爲メニ希望セル心志ノ在ル所明ニ知ルベシ

此道理ハ某件ノ事情ニ適用スベシ此ニ人アリテ問テ曰ク酒ニ沈酔スルハ造物者ノ心志ニ適スルヤ否ヤ我答テ曰過量ノ飲酒ハ目前ノ愉快ヲ生ズト雖モ亦從テ苦痛ヲ生シ愈酒ニ耽レバ愉快益減シ苦痛益加ハリ而シテ其苦痛遂ニ心中ノ諸才力ト各種ノ機關ヲ犯スナリト抑又人アリ其一時ノ嗜欲ヲ肆ニスルノ事且從テ生ズル感動ニ因テ上帝ノ定

メシ罪科凶惡病害窮困如何ヲ思料シテ自ラ反顧シ而シテ現ニ此應報ヲ見且上帝ハ人ニ利害ヲ及ボスヘク万物ヲ生造スル企望アリト思フ者ハ上帝ノ此應報ニ因テ不節制ヲ禁ゼント欲スルコト恰モ空中ニ聲アリテ此言ヲ聞ク者ノ如ク明白ニ認知スベシ此道理ハ過食放縱其他ノ惡事ニ適用セラル、ナリ

更ニ復讐ノ念ヲ以テ他ノ一例トナスベシ復讐ノ念ハ傷害ヲ受ケシ不
平ヲ慰スルカ爲メニ人ニ痛苦ヲ加フルヲ勸誘スルノ心ナリ此ニ一人
アリテ傷害ヲ受クルノ不平ニ堪ヘズシテ他ニ痛苦ヲ加ヘテ以テ其恨
ヲ慰スレバ被犯者ハ乃犯者トナリ前ノ犯者ハ同法ヲ以テ再之ニ報イ
シコトヲ務ムベシ則彼我交報讐シテ終ニ孰カ斃ルニ至ル斃レテ而シ

テ猶止マス死者ノ朋友親戚又爲メニ仇ヲ復スルヲ以テ本務トナス是
ニ於テ鬪場益大ニシテ全人種ヲ連累スルニ至ルベシ夫レ一人邪惡ノ
念ヲ忍バザレバ數世ヲ過ギザルニ一都邑ノ民族ヲシテ子遺無ラシム
ルコト此ノ如シ此レ徒ニ思想ノ說ニ非ズシテ實事然ルナリ蓋シ北亞
米利加ノ土人インディアンスハ復讐ノ念ヲ縱ニスルヲ以テ無罪トスル
ノミナラズ且以テ榮譽トナシ或ハ義務トナシタリ而シテ其結局タル
此國發見ノ頃ニ方リ其鬪止ムナキヲ以テ一酋長年尤長シテ才略ア
ル者令ヲ發シテ其族ヲ殄滅セリ此ニ由テ之ヲ觀レハ復讐ノ念ノ其黨
類ニ及ボス應報ヲ思察スル者ハ必人ノ生存スル所以ノ理法ヲ造レル
上帝ノ此應報ヲ以テ復讐ノ念ヲ禁ズルヲ認知スルコト上帝ノ親告ヲ

受クル者ノ如ク判然タリ苟モ上帝ヨリ受シ解悟ノ力ヲ用井レバ此理ヲ辨ズルコト難カラズ

且某件ノ舉動一己ノ災厄ヲ生ズル時ニ亦黨類ノ災厄ヲモ生シ又某件ノ舉動人間ノ交際法ヲ犯ストキ必亦一己ノ災厄ヲモ生ズルナリ而シテ此一者ニ因テ上帝ノ人ノ舉動ニ就キテ何ヲ欲シ何ヲ欲セザルヤヲ知ルベシ故ニ自然ノ知識ヲ以テ某件ノ動作ヲ視ルニ方リ着クル所ノ目的ニアリ第一自己ノ利害ニ關スル目的第二黨類ノ利害ニ關スル目的而シテ重ニスル所ハ第二ニアリ蓋シ我カ普通ノ應報ノ理ヲ導致スル者ハ第二ノ目的ニアルナリ抑人ノ職務ハ何タルヤヲ定ント欲セバ須ヲク彼此ノ動作ノ遍ク衆人中ニ行ハル、ノ際ニ於テ其結果終ニ何

如ト問ヒ或ハ其結果ハ一己若クハ黨類ノ幸福ニ關スル如何ト問フベシ吾ハ此問ニ對フルガ爲メニ此動作ト動作ノ方法ニ就キテ上帝ノ如何ノ心志アルヤヲ確知セリ而シテ一度上帝ノ心志ヲ確知スルニ及バ所謂良心ハ乃吾ニ告ルニ此心志ニ從フベキ至高ノ職務ヲ以テスルナリ且夫レ我職務ヲ辨スルノ知識ニ達スルハ思考ヲ至大ノ幸福ニ注グコトヨリ直接ナルニ非ズシテ亦間接ヲ以テスルナリ故ニ道德ノ義務ヲ知ル感覺ハ徒ニ此ノ如キ動作ノ方法以テ至大ノ幸福ヲ生ズヘキヨリ起ルニ非ズシテ此動作ノ趣向ノ吾ニ示スニ上帝ノ心志ノ何タルヤヲ以テスルヨリ起レリ而シテ人皆其天然ノ理ニ因テ此心志ニ從フベキ至高ノ義務ニ從事スルナリ

動作及行爲ノ結果ト趣向トヲ熟視スレバ每事ニ自然ノ修身法アルヲ知ルベシ之ヲ詳言スレバ每事ニ皆上帝ノ心志タル者アルヲ知ルベシ今ヤ法アルコト此ノ如キニ至リ且其順序整備シ以テ自然教法ノ制度ヲ成セリ故ニ此制度ノアラン限ハ人皆其貴フベキヲ認メザルベカラズ且此制度ハ他ノ諸法ノ制度ノ如ク確乎不拔ノ基礎ニ根據スル者ナリ

此道理ニ對シテ唯一箇ノ難問生ズ曰痛苦艱厄ハ必シモ罰責シ或ハ禁制セズ而シテ警戒シ或ハ諫誨スルニ過ギサルナリ

答曰此區別ハ實ニ之アリト雖モ未以テ吾持論ヲ破フルニ足ラズ人ノ動作ヲ行フヨリ受タル痛苦艱厄ノ諫誨シ若クハ禁制スルヤヲ問フハ

抑末ナリ而シテ此皆上帝ノ其心志ヲ人ニ指示スルコト明ナリ夫レ上帝ハ之ヲ以テ其心志ヲ人ニ示スト雖モ人ハ則自主自由ノ責任アル管事者ニシテ自己ノ好ム所ニ從テ取捨シ且其自己ノ心志ニ從テ行フニ任スナリ又彼レ此ノ如ク其心志ヲ人ニ示スト雖モ人ノ其好ム所ニ從ヒ彼ノ心志ニ反シテ以テ行フモ亦之ヲ禁セズ特ニ人常ニ其動作ノ爲メニ上帝ニ對シテ責問ヲ受ザルベカラズ

以上述ブル所ニ因テ以テ左ノ條件ヲ決定スベシ

第一 上帝ハ人ニ其職務ヲ勸誨スル所以ノ道德及睿智ノ氣質ヲ與フルナリ

第二 彼レ人ノ自由ニ行ヒ且其取捨スル所ニ從テ公正若クハ邪惡ヲ

爲スニ任スナリ

第三 彼レ現世ニ於テ喜樂ヲ公正ノ所爲ニ配シ悲痛ヲ邪惡ノ所爲ニ合セ而シテ此喜樂悲痛ハ獨自ノ人黨類ノ人皆共ニ感觸スルナリ

第四 故ニ動作ヨリシテ一個人ト社會トニ生ズル結果ニ意着スレバ以テ上帝ノ人ニ對シテ有ツ心志ノ如何ヲ確知スベシ

第五 上帝ハ人ト接遇スル者乃自然ノ知識ニ因テ此ノ如クニ其心志ヲ確知スル機會ヲ求ルコトヲ人ニ責ルナリ

○第二章 自然ノ知識ニ因テ人ノ職分ヲ發明スルコト幾許ソヤ

人ノ動作ヨリシテ一己及社會上ニ生ズル結果ニ注意スレバ人ニ對シ

テ上帝ノ有ツ心志ノ如何ヲ確知シ得ルコト既ニ上ニ説ケリ今此方法ヲ以テ夫ノ補助無キ良心ノ誘導ニ因テ知ル能ハザル所ノ許多ノ道德ノ理ヲ發明シ且他法ヲ用ヰテ導致スル能ハザル德行ヲ能クスベキノ理由ヲ導致シ得ルコト多シ

第一 補助ナキ良心ニ因テ發明スル能ハザル所ノ許多ノ道德ノ理ヲ自然ノ知識ニ因テ以テ發明ス

甲 良心ハ我人ニ對スルノ倫ヲ發明スルニ方リ吾ニ示スニ人ニ對スル義務ヲ以テシ且吾ニ勸ムルニ夫ノ悟性ノ此義務ニ適スルトシテ指明スル所ノ舉動ノ方法ニ從フコトヲ以テスルナリ然レドモ良心ノ人ニ示サマル所ノ義務アル少カラズ且悟性ノ指明セザル所ノ義務ヲ

盡ス方法モ亦多ク之アリ之ヲ知ルカ爲メニ自然教法ノ助ヲ籍ルコト
大ナリ

今吾レ此不具輔助ナキ良心ノ能ク數妻ヲ有チ或ハ妻ヲ去ルコトノ邪
惡タルヲ吾ニ示スヤ否ヤヲ疑ヒ猶太人ハ自主在世ノ時ニ於テスヲ猶
且婚姻ノ約束ノ人生必要ノ義務タルヲ知ラズ然レドモ數妻ヲ有ツヨ
リシテ親族及黨類ニ生ズル結果如何ヲ視察スル者ハ此ノ事ニ關シテ
經典上ニ示教スル所ハ人ノ服従スベキ修身法タルコトヲ明ニ知り得
ルナリ故ニ不具ナル良心ハ必シモ當然ノ復讐ヲ行フヲ禁ゼズト雖モ
復讐ヲ果セシヨリ生スル應報ト痛恨ヲ忍ブヨリ成レル效驗トヲ熟考
スレバ造物者ノ定メテ人ノ職分トナスモノ二者ノ中孰レニアルヤヲ

知ルベシ

乙 我固ヨリ之有リト知りタル義務ノ度量ハ自然ノ知識ニ因テ更
ニ明ニ之ヲ知ルベシ良心ハ我ニ示スニ吾朋友ト吾國人ヲ愛スルコト
ヲ以テスト雖モ其示ス所近小ニ止リテ遠大ニ及フ能ハズ然ルニ各種
ノ舉動ヨリ生ズル結果ハ造物者ノ人ニ示スニ異邦人及仇敵ト雖モ盡
ク之ヲ愛スルヲ欲スルヲ以テスルアリ

丙 人ノ動作ノ結果ヲ視察スルニ因テ以テ第四篇ニ説キシ如キ上
帝ノ人ノ嗜欲ヲ節制スル分限アルヲ知ル蓋シ定限ヲ越エテ吾嗜欲ヲ
縱ニスル由リ幸福ニ非ズシテ大災害ヲ生ズルノ一事自カラ吾自愛ノ
念ニ感觸シテ此分限ヲ犯スベカラザル所以ノ理ヲ成シ以テ造物者ノ

此分限ヲ定メシコト及其心志ヲ吾ニ暗示スル此ノ如キコト皆吾良心ニ感觸シテ我ヲシテ上帝ノ喜樂ヲ害スルヲ憂ヒ其命ズル所ニ從テ行フベキ義務ヲ守ラシムルナリ

丁 人皆其義務ヲ認知スル所ノ許多ノ事件ニ於テ自然教法ノ知識アルニ非ザレハ此義務ヲ行フガ爲メニ何ノ方法カ最善キヲ判スル能ハズ今某人アリテ自ラ父母タルノ義務ヲ知ルト爲シ且之ヲ行ント欲スレバ其父母ノ愛ヲ著スベキ何ノ方法カ至樂ノ果實ヲ結ビタルヤヲ究問スルニ因テ最妙ノ示教ヲ得ルナリ此以テ更ニ能ク其義務タルモノヲ辨明スベシ

不具ナル良心ニ因テ知得ル者ヨリハ此方法ニ因テ更ニ許多修身ノ理

ヲ知得ルコト疑ヲ容レズ然レドモ當ニ此ノ如キノミナラズ

第二 自然教法ハ德行ヲ能スベキ理由ヲ示スコト更ニ大ナリ

甲 第一ニ自然教法ハ德行ノ報賞ト惡事ノ罰責トヲ分明ニ我目前ニ著スニ因テ然ルナリ夫レ良心ハ豫メ吾罪過ヲ戒シメテ當然ノ罰責ヲ凶逆ノ行爲ニ加フ然ルニ自然教法ハ人ノ成造セラル、所以ノ理法ニ因テ是非ノ動作ニ属スル所ノ増加ノ報應ノ已ニ關係セザルモノヲ以テ吾ニ告ルナリ故ニ良心ハ豫メ人ニ不貞ヲ諫戒シ人竊盜ヲ行ヘバ之ヲシテ悔懼痛恨ノ念ヲ生得セシムルト雖モ良心ノ諫戒力ハ此不正ノ行爲ヨリ一己ト社會トニ及ブ報應ヲ熟考シ又善良ノ行爲ヨリ生ズル反對ノ報應ヲ注視スルニ由テ實ニ増加スベシ

乙 又自然教法アリテ上帝ノ品質ニ着意スルモノハ其之ナクシテ
 着意スル者ヨリハ更ニ分明確切ナリ人心ノ最好ム所ハ靈智アル元理
 ナ得ルニ在リ良心ノ專普ク示ス所ハ當ニ此元理ニ從フベキニ在リ故
 ニ暴戾野蠻ノ人類ト雖モ各其神アリテ各其教法ノ職ニ從事ス然レド
 モ此ノ如ク神明ニ着クルノ思考ハ之ヲ吾傍邊ノ萬物ヲ貫ク自然ノ法
 物理ノ法修身ノ法ヲ注視スル睿明ノ省察ヨリ來ル思考ニ比スレバ淺
 近ニシテ功用ヲ成サズ吾輩世界ノ史冊上ニ記シタル諸件ノ修身法ニ
 於テ神明ノ品質ノ新ニシテ大ナル形容ヲ發明ス吾ガ發明スル所ノ上
 帝ノ德性ハ我ニ命ズルニ新大ナル義務ヲ以テシテ人々上帝ヲ親愛尊
 奉スベキ理由ヲ示スコト更ニ多シ故ニ自然ノ學問ヨリ來レル上帝ニ

關スルノ知識ハ以テ大ニ良心ノ推動力ヲ増スニ足ルナリ
 然ラハ則唯適宜ノ方法ニ依テ吾理會ノ才ヲ傍邊ニ列スル上帝ノ創造
 物ニ着クレバ道德ノ知識ノ巨大場地ノ目前ニ開敷スルヲ見ルベシ上
 帝之ヲ示スガ爲メニ萬物ヲ整列シ而シテ又明ニ此示教ヲ學ブガ爲メ
 ニ吾睿智ト道德ノ性ヲ造レリ故ニ吾此目的ノ爲メニ上帝ノ賜ヒシオ
 カヲ用非ザレバ由テ生ズル所ノ應報ヲ免レント欲スルモ上帝之ヲ許
 サズ先知者曰「彼レ主ノ工業ヲ顧ミズ又其手ニ成ル功用ヲ察セザル
 ガ故ニ主彼ヲ滅却シテ再造セザルベシ」聖經上ニモ人ハ皆上帝ノ其
 目前ニ排置セル職務ニ關スルノ知識ヲ正用スベキ責ニ任ズルコトヲ
 說ケリ使徒保羅羅馬人ニ達スル書第一章第十九第二十節ニ曰「人ノ

能ク神ニ知ル所ノ者已ニ明ニ人ニ顯ハル蓋シ神會テ之ヲ人ニ顯ハセ
 ハナリ故ニ人其責ヲ免レズ又曰衆人法ナク(詳言スレバ筆記セシ天
 啓ナク)シテ罪過ヲ行ヒシ故ニ法ナクシテ沈倫スベシ(吾乃斷案ヲ爲
 シテ曰自然教法ハ上帝ノ品行心志及人ノ義務職分ヲ知ルベキ分別シ
 テ必要ナル方法ヲ衆人ニ著ハス而シテ人皆正ニ此ヲ知ルベキノ責ヲ
 免ル、アタハズ

○第三章 自然教法ハ道德ノ訓導タルニ缺乏スル所アリ
 第一 本題ハ復論辨ヲ須ダズレテ自然教法ノ人ヲ改好スルノ方法ニ
 完全ナラザルコト事實ニ因テ分明ニ見ルベシ

甲 自然教法ノ存在スル所ノ事實ト事實ヨリ修身法ヲ導致スル容

智力ハ古ヨリ人皆之有リ然レドモ人生ノ全部ノ史ヲ見ルニ道德上ノ
 毀缺ニ進ム不斷ノ勢アルヲ著ハセリ此レ天啓ニ照明セラレサル者皆
 其史ノ往古時代ヲ以テ道德上ノ潔清ヲ極メシ時代ナリトセン事ニ因
 テ證スベシ當時神人屢交通セシニ人罪惡ヲ行フニ因テ其交通絶テ復
 繼カサルニ至レリ當時ヲ黄金世界ト稱シ之ニ次クモノヲ黄銅或ハ鐵
 世界トイヒシ政治上ノ史書モ亦此ト同事ヲ説ク者ニ似タリ曰人生ノ
 昔時ハ民口稀疎ニシテ互ニ恐怖ノ念ヲ懷キ到ル所貧困ヲ免レズ是ヲ
 以テ人ヲシテ其生命ヲ保ツガ爲メニ公正ノ理ニ於テ社會ノ基ヲ立テ
 シメタリ然レドモ此ニ因テ以テ財殖シ民育シ器用整備シテ而シテ甲
 兵堅利復向日恐怖ノ念ヲキニ至ルニ及テハ凶虐邪惡ノ其交際ヲ害ス

ルノ勢太强トナリテ之ニ抗スル善良ノ力ヲ壓スルニ至リ社會ノ盟約漸ク解弛シ而シテ某ノ民族劫掠數百回以テ富祐ヲ致セバ他ノ兇悍ニシテ更ニ威力アル民族忽奪テ之ヲ取り一成一敗同軌反復シテ皆曾テ其久シキヲ保ツ能ハズ

乙　ヘーテン徒ノ教法ノ制度ハ天啓ヲ知ラザル人ノ爲メニ功用ヲナス所ノ道德力ヨリ成レル當然ノ結果タルユト明ニ知ルベシ而シテ其教ヤ吾ニ示スニ人其本分ヲ講學シ適宜ニ其才力ヲ用井テ知得ル所ノ者ヲ以テセズシテ其常ニ實地ニ知ル所ノ者ヲ以テス故ニ此法ハ人ヲシテ善ニ進マシムルノ趣向アリ抑ヘーテン教ノ神ハ最放縱ニシテ不正ノ品行アル者ナリ若シ人心ヲシテ自然教法ノ德行ト職分ニ於ケ

ル眞實ノ意志トナ懷カシムルヲ成就セシナレバ彼レ能ク神明ヲ想察シテ其品格更ニ善良ニ進ミシナラン

丙　古理學者ノ修身ノ法度ハ實ニ人ヲシテ高上純清ナル思想ヲ神明ニ着ケシメシト雖モ此法度ヲ以テ人ヲシテ善ニ遷ラシムルノ具トスレバ功用ヲ成サマルコト明ニシテ人ノ人ニ對スル職分ニ關スル所ノ事殊ニ人ノ上帝ニ對スル職分ニ關スル所ノ事ヲ示スコト完全ナラズ此法度ハ信奉從順ヲ教ルコト十分ナラズ且常人ノ解得セザル詭譎ノ理論ヨリ成リシ者ニシテ其學者ニ責ムルニ之ヲ他人ニ傳フベキヲ以テセズ故ニ沈思講究スル數輩徒ノ外ハ之ヲ知ル者ナシ而シテ彼等皆之ヲ以テ實理タルヨリ寧曖昧ノ思考ニ涉ル者トシ身ヲ修メ心ヲ正

クスルヨリ寧知識ノ銳敏ヲ進ムルニ適セリトス蓋シ人皆昔人ノ修身論ヲ讀メハ其推究セシ所貞正單純厚ク眞理ヲ愛スルニ在ラズシテ徒ニ珍奇ヲ好ミ新華ヲ慕ヒ甚シキハ怪異ヲ愛スルコトニアリシヲ知ルベシ故ニ此修身ノ法度ハ欲スル所ノ如クニ不善ヲ變シテ善良ト爲ス能ハス且吾古ノ修身法制ノ改良ヲ行ヒシハ其何ノ時代ヨリセシヤ又人ノ修身史ノ何所ニ在テ此法度ノ功用ヲ記録スルヤ之ヲ知ラス但其事實ニ因テ以テ此法度ノ良心ヲ管理スルノ力少ク又舉動ヲ整定スル實地ノ威德乏シキヲ詳明スルニ足ルノミ

丁 且此虧缺ハ睿智ヲ修養スルノ完全ナラザルニ因ルニ非ズ吾談ゼシ時代ノ大部間ハ多事ニシテ人心十分ノ高地位ニ達セシコト後世

及達スルホトノ度ニ及ヒ口才詩歌修辭學及更ニ端肅ナル學術ハ後來敢テ凌駕スル能ハザルノ成功ヲ以テ學得ル者アリシコト人ノ皆認知スル所ナリ然レドモ此ノ如ク文藝ニ富ミタル時ニ在テ修身ノ道ニ如何ノ進歩ヲナセシヤ之ヲ知ラズ故ニ吾意フニ人ノ心ハ最便宜ノ時ニ臨ムト雖モ天啓ノ助ヲ得ザレハ則人ノ是非ノ品行ニ一定セル果實ヲ生ズルニ足ルベキ職分ノ理或ハ職分ヲ行フヘキノ理由ハ之ヲ吾周邊ノ事物ヨリ導致セザリシコトアルベシ故ニ吾レ此虧缺ノ原因如何ヲ指定シ難シ特ニ此虧缺アルノ一邊ヲ以テスルモ人其職分ヲ辨スルガ爲メニ自然ノ知識ニ因テ得ル方法ヨリハ他ノ方法即天啓ヲ要スルヲ證明スルニ足ルナリ

第二 然レドモ第二ニ此虧缺ノ原因ノ示教スベキ者少ナカラズ其著明ナル者左ノ如シ

甲 自然教法ヲ教ル方法ハ實地ノ經驗ニ因ル者ナリ夫人皆是非曲直相反スル動作ヨリ生ズル應報ノ我目前ニ現來スルニ至ルマデハ之ヲ辨ズルノ意思アラズ今某物ヲ以テ必守ルベキノ法ト認メナスハ此ヲ犯スニ因ラザレハ能ハズ故ニ某ノ道理ニ於テ之ヲ犯ス習慣ノ成ルハ必其犯ス者ノ法タルコトヲ知ルノ前ニ在ルベシ是ヲ以テ自然教法ハ時勢ノ然ラシムル所ニシテ甚時ニ後ル、ヲ免レズ且常ニ某ノ方法ヲ以テ其示教ヲ犯ス習慣ヲナセシ者ニ其示教ヲ施スベシ

乙 社會ノ更ニ進歩シタル時代ニ於ケルノ外ニ罪惡ト刑罰トノ關

係ノ指明セザル所ノ許多ノ道德ノ理法アリ夫ノ唯廣且密ナル熟思ニ因テ理會シ得ル所ノ理法ニ於テ此事アリ而シテ廣ク知識ガ播布スル所ノ社會ノ景勢及大場地長時間ノ試験ノ此犯害ト此應報トニ關係スル事ヲ定成スルニ必要ナルコト論ヲ待タズ何者此數者ナキトキハ人類凶惡ノ應報ヲ受ケ且災厄ノ根原タル舉動以テ各種ノ社會ノ風俗習慣利益ヲ害スルニ至ラン今夫レ許多ノ困勉ヲ以テ知識ヲ得ル者往々アリ之ヲ得レドモ己ニ晚ニ過ギテ不幸ニシテ災厄ヲ救フベキ功能ヲ奏スル能ハズ

丙 然レドモ自然教法ニ於テ更ニ根原ノ毀缺トスルハ其自然ニ出デ、事實ヲ示教スル能ハザル是ナリ此教法ハ唯法ト勢トノ趣ク所ヲ

示教スルニ過ギス故ニ人ヲシテ何事ノ行ハレシ或ハ其如何ニ行ハレシヤヲ思考スルニ由テ若シ同一事再行ハレ且同一方法ヲ以テ行ハレテ同一形勢ニ處スレバ其所ト時トニ於テ同一效驗ヲ著ハスベキコトヲ推論セシムベシ然レドモ事實即某ノ動作ノ果シテ他ノ所ト時トニ行ハル、ヤ若クハ行ハルベキヤニ至テハ自然教法ノ示ス能ハザル所ナリ譬バ懸崖ヨリ落ツレバ必傷害ヲ受クベキハ吾實驗ニ因テ之ヲ知ルト雖モ彼レ果シテ落ちシヤ殊ニ甲若クハ乙ノ落ちシヤニ至テハ普通ノ理ニ因テ之ヲ告示セラレザルナリ故ニ今吾レ現世ニ罪惡ノ責罰ヲ受クルヲ見ル事實ヲ推シテ以テ若シ別世界アレバ其所ニ於テ其罪惡ヲ責罰セラルベシトスルハ夫ノ自然教法ニ由テ推論スルナリ然レ

トモ自然教法ハ別世界アルノ事實ヲ眞確ニ教フル能ハズ且惡ヲ療スルガ爲メニ上帝實ニ何事ヲナセシヤヲ教得ルハ最難シ且實驗ニ因テ其動作ヨリ生ズル應報ハ救治スベキ法ナクシテ避除スル能ハザル者タルヲ知り而シテ上帝ノ此應報ヲ變化スルガ爲メニ實ニ何事ヲナセシヤモ亦自然教法ノ最教難キ所ナリ

丁 故ニ自然教法ハ一定ノ理由ヲ現世ヨリ導致スベシ而シテ其別世界ヨリ導致セル理由ハ其質タル偶然ニ出デ、不定ナルヲ免レズ故ニ此教法ニ於テハ人ノ死後ノ存在及其存在ノ性質并ニ上帝ノ人ヲシテ惡ヨリ善ニ遷ラシムルガ爲メニ爲セシ事等ヲ辨明スル知識ニ基キ來リテ人ヲ管制スルノ才力ヲ盡ク失フナリ且此數件皆事實ニシテ言

語。即天啓。ニ賴ラズシテ僅ニ自然教法ノ示教ヲ借ルノミニ過ギザレバ亦全ク暗昧ニ歸スベシ

然ラバ則自然教法ヲ信ズレバ現世ノ推動力ニ感動スルコト唯現世ヨリ導致スルノ理由ニ因テスルヲ免レズ且通常習慣ノ爲メニ固定セシ現今ノ嗜好情欲ヲ捍禦スルコト唯來日ノ弊害如何ヲ豫料シ或ハ暗昧ニシテ信シ難キ者ヲ想像スル思考ニ因テスルヲ免レズ故ニ此教法ハ邪惡ノ誘惑ニ陥イルコト最少キ者ニ行ハレ而シテ其成功不定ヲ免レ難シ故ニ今一般ニ人ヲ改好セント欲シテ此ノ如キ原因ヨリ其成功アラシク望ムハ全ク益ナキヲ知ル是ニ於テ人世ノ史乘ヲ詳ニスル者ハ必知ルベシ永世無疆ノ生存ヲ認メ得ル知識ニ基キタル完全ナル理由

ヨリ少威力ノ者ハ以テ夫ノ嗜好情欲ノ下流ニ趣ク劇烈ノ勢ヲ禦クニ足ルノ權ヲ保タサルコトナ

前文ニ記セシ如ク自然教法ノ人ヲ改好スルノ方法タルニ完全ナラズ且其性質タル脩身ヲ進ムル方法タルニ乏シキ所アルニ因レバ乃夫ノ人性ノ邪惡ヲ改正スベキ某増加ノ道德力ノ最要ナルコト判然見ルベシ而シテ仁愛ナル造物者ノ人ニ授クルニ教化ト修善トノ爲メノ増加ノ方法ヲ以テセシコト實ニ疑ヲ容レザルナリ

○第八篇 自然教法ト著顯教法トノ關係

吾所說ヲ以テ實ニ然リトセバ自然教法ハ虧缺ヲ免レザル所アルガ故ニ修身教ノ他ノ方法ナカルベカラズ且有智ナルヘーテンノ理學者モ

自然教法ヲ苦學スルガ爲メニ其未來ノコトヲ全ク解セザル昏愚ニ陷イルヲ免レズト思覺シテ亦此ニ着眼スル者アリシ蓋シ彼レ以爲ラク神ノ人ヲ幽暗經過スベカラザルノ地位ニ導ク修身教ノ制度ヲ設クル者ハ某時若クハ他時ニ方リ此幽暗ノ地位ヨリ光ヲ發セント欲スレバナリト

又自然教法ノ教ル所ノ者ト其必免レザルノ毀缺トヲ熟考スレバ以テ上帝示ス所ノ天啓ノ性質ニ就テ希望ヲ懷ク所以ヲ發明スベシ若シ人類修身ノ虧缺ヲ辨シ且此ノ如ク用非タル方法ノ何事何理ノ爲メニ此毀缺ヲ補フ能ハザリシヤヲ查明スレバ則一定セル救濟ヲ成スナルベシトスルノ法度アルヲ示スベキ徵候ヲ正確ニ豫見シ得ルナリ請フ

其例ヲ舉ン

甲 自然教法ノ某ノ無疑眞實ノ理ヲ示スコトアルハ宜シク認メテ當然トナスベシ今夫レ眞實ノ理ハ皆一ニシテ相反スル者ナシ故ニ自然著顯ノ二教法ニ於テ同一事ヲ教フレバ其教ル所常ニ合一ニシテ相背カサルベシ乙ノ教法ハ教ヘ得ルコト甲ヨリモ多シト雖モ兩者共ニ同一事ヲ示シ而シテ各眞實ノ理ヲ教レバ必同一示教ヲ與フヘシ

乙 自然ノ知識ニ因テ知ル能ハザル所ノ職務ハ天啓ノ示教ニ因テ多ク之ヲ知り得ベキコト自然ノ理ナルガ故ニ人其同類及上帝ニ對シテ行フベキ義務ト其之ヲ行フ所以ノ方法トヲ知ルコト天啓ニ由ルハ他事ニ由テ知ルヨリモ更ニ明瞭ナリト思フベシ

丙 天啓ハ德行ヲ勉ムベキ理由ヲ示スコト自然ノ知識ノ示ス所ニ勝ルベシ夫レ自然教法ノ理由ハ現世ニ基キ來ル者ニシテ自カラ完全ナラザル所アリ之ニ反シテ天啓ノ理由ハ蓋シ他ノ本原ヨリ導致スル者ナリ且自然教法ハ現世ニ基ク所ノ理由ヲ括盡セル者ト爲スガ故ニ別世界アルコトハ天啓ノ示ス所ニ由テ始テ明ナレバ則天啓ノ理由ハ現世ヨリセズシテ專ラ他ノ世界ヨリ導致スベシト思料スルモ亦當ニ自カラ然ルベキノミ

丁 神明其初用ノ方法ヲ變制スルコト若干以テ物ヲ成スカ爲メニ次回ノ増加ノ方法ヲ用井ルト思料スベカラス故ニ天啓ナケレバ則止ム苟之有レバ則自然教法ノ示ス能ハザル所ノ道理ハ天啓ノ之ヲ示ス

者ト思料スルコト自カラ其理アリ此レ蓋シ當然ノ豫料ト謂フベシ且何時ヲ論ゼズ上天ヨリ來ル默啓ノ教法ナル者能ク此諸件ノ思料ヲ受クレハ是ニ於テ此教法ト自然教法トノ關係ハ特ニ此教法ノ道理ニ抗スル論駁ヲ著ハサマルノミナラズ又爲メニ深遠堅固ナル思想ヲ設クルナリ

今此思料ヲ舊新約全書ノ經典上ニ記スル教法ノ制度ニ於テ十分ニ確定ス

甲 著顯教法ノ道理ハ全ク自然教法ノ道理ニ適ス而シテ二者ノ異ナル所他ニアラズ甲ハ乙ノ推論ニ因テ教フル者ヲ明々地ニ教ヘ甲ハ乙捨ル所ノ訓誨ヲ取リテ其虧乏ヲ補ヒ加ルニ他ノ至要ノ示教ヲ以テ

ス抑二者相適スルノ甚シキコト自然教法ノ示ス所ニシテ一モ聖書中ニ著ハレザル者ナシト容易斷言スベシ且聖書ニ在テ曰ニ我ニ示指スル者ハ即自然ニ因テ訓フル所ノ示教ナリ而シテ此示教ハ聖書ノ助ニ賴ラザレハ決シテ著明セザレザルナリ夫レ聖書ハ宇宙ノ修身法ヲ包括セリ故ニ二者ノ相敵スル此ノ如キヲ見レバ亦以テ夫ノ宇宙ノ作者即自然教法ノ作者ハ兼テ聖書ノ作者タルコトヲ確證スルニ足ルナリ

乙 聖書ハ已ニ説キシ如ク人ノ職分ノ夫ノ自然ノ知識ニ因テ知ル能ハサル者ヲ示教スル甚多ク家内ノ倫仇敵及一般人ニ對シ殊ニ上帝ニ對スルノ義務及之ニ事フルノ方法等ヲ教フルナリ

丙 聖書ノ著ス所ノ德行ヲ能スベキ理由ハ自然教法ヨリ導キ來ル

所ノ者ニ増加シ其類ヲ異ニシテ更ニ甚大ナリ

甲 聖書ニ著ス所ノ是非邪正ノ原因ト應報トノ相合テ離レ難キ關係ハ自然教法ノ示ス所ニヨリテ明ナルガ故ニ現世ニ當然ノ德行ヲ能スベキ理由ヲシテ大ナル威力ヲ有タシムルナリ

乙 聖書ハ此ノ如キ理由アリテ且人皆死後ニ生存スルコトヲ保證シ而シテ是非邪曲ノ行爲ニ應ズル吉凶禍福ハ永久無疆ナル者ト説ケリ

丙 又神ハ人ニ對シテ新ナル倫ヲ有チ且我ヲ救済スルガ爲メニ新ナル仁惠ノ方法ヲ案ジ此倫ニ因テ以テ人ノ神ニ對スル修身ノ義務ノ新基礎ヲ立テ自然教法ノ時勢ノ爲メニ良心ニ増加スル能ハザル者ヲ

神ハ之ニ増加スルヲ示スナリ

丁 聖書ノ示ス所ニシテ上ニ見ルモノハ多ク自然ノ事實ナリ故ニ是レ實地經驗若クハ普通ノ法ニ因テ人ニ教ヘラル、者ニ非ズ唯言語即天啓ニ因テ知ラシムルコト明ナリ今夫レ死後ニ存在スルコト、蘇生ノ理普通ニシテ偏頗ナキ審判、永久無疆ノ賞罰ノ形狀、罪過ト刑罰トノ關係ヲ法ニ依テ截斷スルコトアル所以ノ救濟神治ノ理、贖罪ノ理、及人此救濟神治ニ因テ己ヲ助クル所以ノ方法ハ此皆修身ノ改良ヲ行フカ爲メニ實ニ必要ナリ且此皆自然ノ事實ナルガ故ニ言語(即天啓)ニ因ルニ非ザレハ人亦他ノ方法ヲ以テ知ル能ハズ

此諸件ノ思料ハ自然教法ノ眞實ノ虧缺ヲ補フベキ法度ニ着意スル正

當ノ豫料タルコト明ナリ而シテ此ハ皆聖書ニ載スル教法ノ制度ニ於テ確証スルガ故ニ此豫料ハ各著顯教法ノ道理ノ爲メニ至精極微ノ思想ヲ設クルナリ抑吾敢テ此ノ如キ思想ヲ以テ夫ノ聖書ハ上帝ヨリ示サレシ天啓ナルコトヲ証スベシトスルニ非ズ蓋シ此証ハ他ノ根原ヨリ來ルナリ吾定説左ノ如シ曰吾レ自然ノ知識ニ因テ上帝ノ管轄タル者ヲ知ル故ニ上帝ハ吾ニ増加ノ教ヲ與フベキコト及此教ハ諸種ノ要件ニ於テ聖書ニ説ク所ノ教ニ同シカルベキコト疑ヲ容レズ故ニ吾斷シテ曰此ニ既往ノ事實アラザルトキハ上帝ノ下ダリテ天啓ヲ爲スコト信シ難シト思想スルヲ當然ト認ムベシ(假令當然ト認ムルヲ要セザレトモ)ト雖モ然レドモ審ニ既往ノ事實ヲ考フレバ則此思想ハ向

時ニ主張セラル、ト雖モ今正ニ虛無ニ歸シ而シテ此ノ如キ天啓ノ果シテ爲サルベキノ明白ナル思察此ニ於テ生ズ故ニ言語ヲ以テ上帝ノ心志ヲ啓告スルハ衆人ノ思フガ如クニ虛誕ニシテ明白スヘキ憑據ナキ者ニアラズ乃上帝ノ作爲ニ出デ、實ニ之アルコト亦何ゾ疑ハン且吾此說ハ特ニ其少小者ニ就テ言フト雖モ亦他ノ諸事ト均シク明証スベキ憑據ヲ失ハズ故ニ此ヲ以テ証スレバ憑據タル者ノ道理ニ從テ亦他ノ諸事ト均シク信ズルニ足ルベシ故ニ吾敢テ曰フ著顯教法ノ理ヲ保護スルヤ他ノ諸事ヲ保護スル爲メニ必要ナル者ノ如キ憑據ヲ求ムベシ然ラズシテ他(即以テ自然ノ理ヲ定ル能ハザル憑據)ヲ求ムレバ其非理タル明ナルモノヲ要スルニ過ギズシテ全ク時宜ト相反スル思

想ヲ設クルヲ免レズ

○第九篇 聖書ヲ論ス

今宜シク聖書ノ實ニ上帝ノ默示ニ係ルコトノ証據ヲ著スベキニ似タリト雖モ此特ニ証據ノ常法ヲ表明スルニ過ギズシテ寧智學ノ教ニ属スルガ故ニ復贅論セズ更ニ吾主張スル所ヲ述テ曰舊新約二聖書ハ上帝ノ人ニ告グル默啓ヲ記シ且上帝ノ好テ言語ヲ以テ人ニ示ス所ノ者ハ盡ク之ヲ記ス故ニ凡事皆神ノ言語ヲ以テ示命スル所ニシテ其修身ノ道ニ一定セル固有ノ威權ニ因テ良心ニ責ルニ眷々服膺スベキヲ以テスル者一トシテ錄セザルハナシ吾所見此ノ如シ故ニ本篇ノ初ニ於テ聖書ノ記スル所何事タルヤヲ講シ次ニ聖書ヨリ人ノ職分タル者ヲ

辨ズル方法如何ヲ説クベシ

○第一章 聖書ノ主要トスル所ヲ論ス

聖書ハ舊約全書新約全書ト題スル二部ノ書ヲ以テ成リ每部各別ノ意趣アレドモ其意趣全ク符合シ而シテ二者一致シテ人ニ示ス所ノ天啓ニ必要ナル者ハ盡ク之ヲ記スルナリ

舊約全書ノ目的ハ大概單純ナル制度ノ法ヲ示シ其制度ノ人類ニ及ボス結果ヲ著ハシ且人心ヲ後來ノ救濟神治ニ導クニ在ルナリ抑此ニ注意スベキノ件アリ在昔上帝ノ法之ヲ粗暴無智ノ民ニ示教シ其修身ノ訓戒ハ初メ太簡略單純ナリシガ教終ルノ後聽者能ク堪ルガ故ニ時ヲ逐テ他ノ教訓衍蔓セリ是ヲ以テ許多ノ風習其初ニ許サレテ後ニ禁ゼ

ラレ各種ノ禮式一時ニ行ハレテ他日ニ廢スル者アリ以テ修身ノ理反復増加シテ著明セラレ因テ此民モ亦十分ノ機會ニ逢フ是時ニ方リテ上帝ノ完全ナル心志ハ唯希伯來人ニノミナラス亦此民ニ著ハレ遂ニ全部ノ民族ニ著ハレタリ故ニ在古諸時ニ於テ夫ノ豫言者ヲ以テ父ニ語リシ諸種ノ方法ヲ上帝ハ近日ニ在テ其子ヲ以テ吾等ニ語レリ且上帝ハ此無智ノ時代ヲ度外ニ置キテ省リミザリシガ今日ニ至リテハ隨所ノ民ニ皆悔悟スルコトヲ命ズ救主ハ修身法ノ益著明ナリシコトヲ説クニ特ニ其初モ―セスノ之ヲ教ヘシ時以來ニ歸着セリ曰モ―セスハ汝ノ心ノ頑愚ナルガ爲メニ汝ヲシテ汝ノ妻ヲ離別セシムト雖モ初ヨリ然ルニアラズ然レドモ吾汝ニ言フ凡ソ人淫行ノ罪ヲ避ルガ爲メ

ニ非ズシテ其妻ヲ去テ他婦ヲ娶レバ姦通ノ責ヲ免ル、能ハス古人云
フ「汝自ラ妄ニ誓フヘカラス唯主ニ向テ汝ノ盟約ヲ行ヘト然レトモ
吾決シテ汝ニ誓フベカラズト云フ」餘ハ之ヲ略ス

此目的ヲ遂ルガ爲メノ方法聖書ニ記スル所左ノ如シ

甲 世界ノ創造ト人ノ生死ノ史記洪水以前ノ人類ノ史略此洪水ノ
根元ハ人類一般ノ烈シキ罪惡ニアリト説ケリ

乙 ^{アブラハム}亞伯拉罕一族ノ分離ヨリ上帝ノ心志ヲ示サル、一國民ノ起立
ノ根原亞伯拉罕ノ招呼ヨリ巴比倫ノ囚獄ヲ脱シテ歸ルニ至ルマデ凡
ソ千五百年間ニ係ル此國民ノ史ヲ記ス

丙 上帝此ノ國民ノ爲メニ設ケシ法、此法三種ヨリ成ル

曰修身法此レ神人ノ間ニアル不易ノ倫ヨリ生スル者ナリ

曰民法此レ人文社會ヲ管理スルガ爲メニ造リシ者ニシテ專ラ猶太

ノ上帝管治即特ニ上帝ヲ奉シテ君主トスル制度ニ適スル者ナリ。

曰禮法此レ二種アリ一ハ彼此ノ民ヲ別置スルガ爲メニ設クル者二ハ

第二ノ即新ナル神治ヨリ生スル事故ヲ豫表スル爲メノ者ナリ

丁 此國民ノ遭遇スル諸種ノ事件豫言者ト神ニ通シタル教師ノ談
論信心者ノ祈禱及詩歌等ヲ載ス此諸件ハ修身法ノ制度ガ人性ヲ改好
スベキ最良ノ時機ニ投スト雖モ亦功ヲ成ス能ハサルヲ示シ且教法ノ
道理ハ如何ノ時勢ニ處スルヲ論ゼズ人ノ靈魂ニ效驗ヲ現シ得ルヲ著
スベキ者ナリ

此類ノ脩身ノ方法ヨリ生ズル結果蓋シ左ノ如シ夫レ上帝ハ一般人類ノ景況ニ適スル諸種ノ方法ヲ以テ其心志ヲ示セリ而シテ此人類ハ數族ヲ除クノ外皆大惡ニ陥イリテ終ニ上帝ノ爲メニ全土ノ洪水ヲ以テ殄滅セラル然ル後ニ上帝數族ヲ撰デ之ニ與フルニ其書記セル所ノ法ヲ以テシ而シテ之ヲ行フコト最好形勢ニ於テセンコトヲ試ミンガ爲メニ特ニ之ガ法ヲ立テ、彼等ヲシテ他ノ種族ト其居ヲ異ニセシメタリ此時ニ方リテ自然教法ノ功用大ニ四隣邪教ノ民族中ニ試行セラル蓋シ其歸ヲ要スルニ當時人ノ處スル所ノ地位ハ復惡ヲ去テ善ニ遷ルヲ希望スルニ由ナク更ニ他ノ地位ヲ指導セラル、ニ非レバ此其己ノ邪惡ニシテ黨類ニ背反スル志向ノ致ス所ヨリ永ク其罪過ノ報ヲ受ル

ガ爲メニ此ヲ去テ他ノ別世界ニ入ルベキニ在リシ夫レ舊約全書ノ目的ハ專此ニ在リト雖モ未以テ此ニ盡クルトスベカラス此レ新神治即濟神治ノ先導ニシテ夫ノ救濟ノ方法ヲ以テ神治ヲ受クベキ者ニ教フル者タリ故ニ書中往々新神治ノ大事件ヲ暗示スル所アリ且悔罪者ノ爲メニ宥免ヲ蒙ムルノ保證ヲナス所アリ而シテ上帝其赦宥ノ備辨ヲナスコトヲ著ハスナリ假令人ヲ赦宥スル所以ノ原因ハ明白ニ之ヲ說與セズト雖モ唯詞ヲ以テ顯ハセリ若シ夫此詞ハ救濟神治ノ行ハル、ニ至ルマデハ明解スルヲ得ズ

新約全書ノ目的ハ救濟神治アルガ爲メニ人類ノ處スル所ノ新地位ヲ示スニアリテ此目的ヲ遂グルガ爲メニ書中ニ記スル所左ノ如シ

甲 ナザレスノ耶蘇ノ生死蘇生昇天及言行ヲ載ス耶蘇ハ暗ニ神人ノ性ヲ兼有シテ以テ人ニ教フルニ人ノ上帝ニ對スル倫ニ必要ナル物ヲ以テシ且法度ニ從ヒ及肯テ憂苦ヲ忍ビ殺害ヲ受ケ以テ人ノ赦宥ヲ受クルニ妨碍タル者ヲ滅却スルガ爲メニ降臨セリ此妨碍ハ首初ノ神治ニ由テ上帝神聖ノ致シ來タシテ生ズル者ナリ

乙 ナザレスノ耶蘇ノ昇天後數年ニ於テ耶蘇教ノ進歩ニ關スルコトノ略記

丙 耶蘇親授ノ教徒所謂使徒ノ神託ニ因テ當時ノ人ニ示セシ教ヲ記ス此教ハ當時教法ノ理ヲ知ラズ善良ノ德乏シクシテ信奉篤カラザル者ニ在テ必要ノ者ナリ

此書全部都テ上帝ノ法ノ教訓批准及報賞ヲ吾ニ示スコト太明白ニシテ大ニ我願ニ副ヒ且自然教法舊約全書ノ二者ニ因テ著ハル、者ト異ナリタル原因ニ基キ以テ救濟ノ方法ヲ教フルナリ
此方法ノ示サル、ヤ他人(基督チイフ)ノ行爲ト其痛苦ヲ忍ビ以テ衆人ニ代リテ哀請スルノ功勞ニ報ルガ爲メナリ然レドモ人若シ其思慮言語動作ヲ純正潔清ニスルガ爲メニ修身方ヲ勉ムルコト高上ニシテ嚴勵遍周ナルニアラザレハ此方法ニ因テ救濟セラレンヲ欲スルモ能ハザルナリ
所謂救濟神治ノ法ハ自カラ此書ニ示ス如キニ過ギズシテ更ニ之ヲ他ニ求ムベキノ理ナシ且他書ニ記スルノ意義ハ此書ニ記スルノ理義ト

異ナルヲ免レザルベシ故ニ舊新二約ノ聖書ハ上帝ノ言語ヲ以テ其心志ヲ示スコトヲ記載シ唯此書中ニ記スル所ノ者ノミニシテ以テ能ク良心ヲ管制ス即シルリングオルスノ所謂聖書ナリ唯聖書即プロテスタントノ教法ナリ

○第二章 聖書ヲ見テ人ノ職分ヲ辨明スルノ方法如何

聖書ハ上篇所説ノ如ク上帝ノ心志ノ點啓ヲ記スル者ナリト論定スルトキハ更ニ此書ヲ觀テ上帝ノ實ニ人ニ望ム所ノ者ヲ知ルノ方法如何ヲ定ルコト亦吾ガ爲メニ必要ナルベシ書中ノ多部ハ善人惡人ノ行爲ヲ記スル史傳ニ係ハル其多部ハ當今ノ如ク開明セザル時代ノ事ヲ記シ且特別ノ目的ノ爲メニ他ノ民族ト別居セシメヲレタル某民族ノ事

ヲ記ス其多部ハ當時ニ存シテ後日ニ廢セラレシ法律ニシテ此民ヲ勉勵譴責スルコトヲ記ス抑今須ラク諸種ノ時ニ於テ諸邦ノ民ニ示シタル此ノ如キ諸種ノ教中ニ就キテ其何部分ヲ今日吾人ノ良心ニ存有スベキヤヲ知得ル所以ヲ審定スルヲ要スベシ余ノ下文ヲ記スルノ目的ハ務メテ能ク此究問ニ答フル所以ヲ知ルニ在リ夫レ上帝言ヲ以テ示啓スルニ當リテハ凡ソ事人ノ職分タル者ハ皆命令ニ依テ之ヲ指明スルナリトスルガ故ニ其命令セラレザル者ハ總テ吾ガ職分ト思ハザルベシ若シ此ノ如キ辨別ヲナサマレハ書中ノ諸事譬ハ善人ノ行爲惡人ノ行爲モ皆一切人ヲシテ遵行セシムベキ威權アル者ト視做サ、ルヲ免レズ是ニ於テカ遂ニ人ノ職分ヲ教フルガ爲メニスル所ノ天啓ヲ以

テ夫ノ是非邪曲ノ別ヲ混淆スルノ具トナシテ之ヲ用ヰルノ弊生ズ
道德ノ義務ノ根原ハ天啓ヨリ來ルガ故ニ上帝ノ命令タルコト明ナリ
今其命令中ニ三箇ノ意志アルヲ見ル

甲 某件ノ所爲ヲ指示スルノ意志アリ此レ直ニ某件ノ所爲譬ハ餓
者ニ食ヲ與フルニ因テ此所爲ヲ想出スル某ノ心情譬ハ普通仁愛ノ念
ニ因テ指示スルナリ

乙 上帝ノ心志ハ人ノ此ノ所爲ヲ行フニ在ルヲ指示スル幾分ノ意
志アリ此暗告ナケレバ書中記スル所ノ所爲或ハ吾ガ定罪ヲ示スカ爲
メニ掲ゲタル者モ猶宜シク行フベキノ義務ト視做スヲ免レザルベシ
丙 人皆命令ヲ受テ此所爲ヲ行フベキ者タルヲ指思スルノ意志

リ然ラザレバ夫ノ聖會ノ總長及豫言者ニ附與セル誠命ノ如キモ其禮
式ニ關シ譬喩ニ關シ或ハ一己ニ關スル者ハ皆能ク之ヲ讀得ル者ナシ
テ奉行セシムルニ至ル故ニ概言スレバ凡ソ聖書上ニ著ハス所ノ上帝
ノ命令タル職分ヲ勸ムル者ハ上帝ノ某所ニ在テ吾人ニ此所爲ノ行ハ
レ且之ヲ行フヲ命ゼリト証明セザルベカラズ

此道理外ニ在テ衆人ノ必シモ行フベキ所ニ非ル者左ノ如シ

甲 唯史傳タルニ過ギザル者是ナリ蓋シ聖書上尋常ノ紀事タルニ
過ギズシテ以テ大ニ神明ノ眞正ヲ保スル處頗多シ人固ヨリ上帝ノ行
爲ヲ以テ其某ノ時勢ニ處スルノ法トシ他人ノ邪惡ノ舉動ヲ以テ己ヲ
警戒スルノ資トスベシ然レドモ某ノ事件行ハレテ聖書ニ載セテ紀事

トスル者ハ必シモ人ヲシテ之ヲ行フベキ責ニ任ゼシムル所以ニ非ス
 乙 上帝ノ命ニ出ルト雖モ特ニ一人一國ノ爲メニシテ全部民族ノ
 爲メニスルニ非ル者アリ此亦所謂道理外ノ者ニシテ人盡ク奉行スベ
 キニアラズ例スルニ書中一個人ニ付與スルノ命令ヲ載セリ亞伯拉罕
 ナシテ其子ヲ捨シムルノ命ナリ摩西斯ナシテフアロー王ノ前ニ立タ
 シムルノ命ナリザメウルヲシテ油ヲサウルトタビドトニ塗ラシムル
 ノ命ナリ是ニ於テ神明ノ特ニ其人ヲ限リテ命令ヲ授ケ而シテ他人ハ
 與ラザル者アルヲ知ルベシ故ニ誰カ亞伯拉罕ガ其子ヲ捨ルヲ命ゼラ
 レシガ故ニ吾モ亦此ノ如ク命ゼラルト謂フヲ得ンヤ又舊約全書中ニ
 記セシ上帝ノ命令其一國ノ民ニ付與セシ者亦多シ以色列ノ族ニ付與

セシカナニ住居スルノ命其四方ノ民ト戰フノ命禮法ヲ守ルノ命
 及其他此類皆是ナリ今此教命ニ就キテ着意スベキ二件アリ第一此教
 命ヲ下スノ時ト方法トノミニ於テ之ニ從フベシ故ニカナニテスノ
 族ヲ逐フノ命ハ昔シヨシユアニ付與セシ當時ニ在テハ宜シク奉行
 スベシト雖モ今日ノ猶太徒ハ昔時ノ命ニ基イテマホメタンスノ族ヲ
 ハレスチーンヨリ驅逐スベキノ權理ナシ第二此教命ヲ受ル者ノミ獨
 遵奉スベシ故ニ今禮法廢セラレサレバ此法ハ特ニ猶太徒ニ付與セラ
 レテ他人ニ付與セザルガ故ニ今日猶太徒ノ外他ノ行フ所ニ非ズ又此
 方法廢セラレバ今日固ヨリ一人モ奉行スベキ者アラズ何ナレバ之
 ナ行フベキ時ニ當テ猶太徒ノ外之ニ關スベキ者アラザレバ則猶太徒

ノ復之ヲ行ハザルベキニ至ルニ方リ何人ノ之ニ關スベキ者アリヤ
バナリ此事ニ就キテ使徒保羅ノ示ス所亦此ノ如シ

丙 神託ヲ受ケン人ノ所爲ト雖モ幾分カ増加ノ命令アリテ行ヒシ
者ニ非ザレハ亦此道理外ニアリテ衆人ノ則リ行フベキ所ニアラズ抑
新約全書ハ諸種人ノ隨時ニ爲ス所アランガ爲メニ設クル者ニシテ夫
ノ神託ヲ受ケ上帝ノ心志ヲ人ニ教フル者ノ記録セシ所ナリ然レドモ
彼等ノ行狀ハ唯之ニ注意スレバ必シモ人ヲシテ行ハシムルノ責ヲ有
タズ之ヲ詳言スレバ衆人唯彼等カ某ノ所爲ヲ行ヒシノ故ノミヲ以テ
我モ亦之ヲ行ハントスルノ責ニ任ゼズ故ニ保羅其他ノ使徒ハベシテ
コストノ佳節ヲ守リタレドモ是レ衆人ノ勉ムベキニアラズ保羅ハチ

モシニ勢皮ヲ割クノ禮ヲ施シタレドモ他人皆此ノ如ク行フベキ
責ナシ何ナレバ他日保羅復此禮ヲチ、ユスニ施サレバナリ要スル
ニ新約全書ニ載スル神託ノ行狀ハ大抵公正ナリト雖モ亦衆人ノ則
行フベキ者ナシ

此道理内ニ在テ衆人須ラク勉行スベキ者左ノ如シ

甲 一個人或ハ一國民ヲ限ラズシテ凡ソ人タル者ニハ皆付與セ
上帝ノ心志ニ出ル命是ナリ第一其命直ニ上帝ヨリ親與セラル夫ノ
子ト山ニ上帝其法ヲ傳布セシ時則然リ第二救主基督ヨリシ第三使
者使徒及福音講師ヨリ傳フルナリ夫レ一定ノ理ニ由リ講明確証シテ
企圖トスル者ハ特ニ此道理内ニテ其良心ニ存シ職分トテ其責者

ナリト雖モ此企圖ニ原本シ來ル者ヲ以テ盡ク職分トスルヲ得ズ若シ聖書上ニ示與スル所ノ意思ニ加フル所アレバ即此レ人ノ意思ニシテ其黨友ノ良心ニ責望スルノ力アルコト他ノ意思ノ之ニ責望スルガ如キニ過ダレ能ハズ

專唯上帝ノ命令ヲ其良心ニ銘スルヲ職分トナスベキハ當然タリト雖モ但聖書上ニ示ス所ノ命令其普及ノ者ト特施ノ者ト甚大ニ相混ズルコト鮮ナカラザルガ故ニ某部分ハ普ク衆人ノ職分タリ某部分ハ某人某所ニ限りタル職分タルヤノ間此ニ於テ生ズ吾此ニ答ルノ説左ノ如シ

新約全書ニハ一個人或ハ一邦民ノ區別ヲ記セル所ナクシテ其教フル

所時ト地トヲ問ハズ皆一般人民ノ爲メニ設クルガ故ニ某所某人ヲ限リテ施ス所ノ者一モ之アルナク衆人遍ク之ヲ信奉スルコトヲ責望ス故ニ前者ノ間ハ舊約全書ニ因テ設クベシ

舊約全書ヲ按ズレハ左ノ道理ヲ以テ此間ヲ審判スベシ

甲 猶太國ノ共和政治ノ性質ヲ熟考シ以テ此間ヲ審判スベシ但此政治ハ僅ニ暫時間ニ行ハレテ新神治ノ先導トナリ新神治著ハルハニ及ンデ方ニ止ム者ナリ

乙 新約全書ハ舉世人類ノ爲メニ設ケタルコト此ノ如シ是蓋シ最終ノ天啓ニシテ自然教法及舊約全書二者ノ教并ニ他ノ教誡即人之ヲ知レバ己ヲ救済スルノ大助トナル者等ヲ盡ク記載セリ然ラバ則舊約

書中既ニ某ノ天啓アリ新約書中復此天啓アル者ハ則人乙ノ天啓ヲ以テ甲天啓ノ教フル所ノ理ヲ審判スル繩墨トナスベシ之ヲ詳言スレバ舊約全書ノ教フル所ニシテ或ハ人タル者ニ付與スルニアラザル者及新約全書ニ在テ再之ヲ教ヘザル者或ハ其教フル所ノ義務ニ就キテ新神治ノ認メテ是トセザル者ハ皆今日ニ方リ諸人ヲシテ信奉セシムル能ハズ蓋シ使徒保羅其書中ニ多ク此理ヲ示シ丁寧反復シテ舊約全書ノ教ハ不易ノ義務タルナリト説キ且ツ其中某件ノ教ハ修身ノ義務タリト雖モ全ク廢シテ行ハレザル者ナリト言ヘリ

乃上帝ノ示ス所ニシテ人ノ職分ヲ辨ゼシムル者ハ第一自然教法第二舊約全書即律法ノ神治ヲ記スル書第三福音書(救主基督)ノ手ヲ經テ

上帝ノ惠愛ヲ默示スル書)即救濟神治又惠愛ノ神治ナル者ヲ記スル者ナリ

人ノ道德力ト道德ヲ修養スル方法トノ關係ヲ略論スルコト左ノ如シ

甲 良心ニ因テ以テ吾族類タル諸種人物ニ對スル道德ノ義務ヲ知覺シ得ルナリ人能ク此人物ノ存在及其性質ヲ知り且我ガ彼ニ對スルノ倫ヲ辨ズレバ則此知覺ノ元質著ハル元質トハ人ニ對シテ彼我共立スルノ義務及上帝ニ對シテ普ク愛敬スル義務ヲ辨ズルノ知覺ヲ言フナリ

乙 上帝ハ人他ノ生造物不生造物ニ對スルノ倫ヲ示シ且其品行ト人トノ爲メニスルノ心志ヲ著ハサント欲シテ他ノ方法ノ教訓ヲ與フ

甲 上帝人ト相接スルニ因テ以テ其品行ヲ著ハスガ爲メニ現世ノ事故ヲ按排管理シ且人其按排布置セル者ヲ知ラント欲セバ又之ニ與フルニ之ヲ知ルベキノ才力ヲ以テス夫レ人ハ上帝ノ心志ヲ知り得ベク且其心志ヲ成就スベキヲ知覺スベク生造セラル、ノ實事タル是乃人ヲシテ其得ベキ處ノ知識ニ從フノ責ニ任ゼシムルナリ

乙 此方法ノ教訓未全ク人ヲ誘導スルニ足ラザルヲ以テ上帝乃言語ヲ資ンテ其心志ヲ著ハスコト固ニ當ニ然ルベシ此蓋シ眞實ノ道ヲシテ必シモ之ガ豫論推究ヲ費スヲ要セズシテ一朝宛然吾目前ニ展敷セシムルナリ夫レ人此ノ如クニシテ上帝ノ心志ヲ辨得スルハ乃是レ此ノ如クニ傳授セラル、増加ノ知識ヲ受クベキ責ニ任ズルナリ

然レドモ此手段ヲ用井重要ナル修身ノ果實ヲ結ブ能ハザルニ方リ一ノ天啓アリテ益人ニ諭スニ人ノ上帝ニ對スル職分及上帝ノ品行ト心志トヲ以テシ殊ニ神人ノ新倫ト人ノ處ル所ノ新地位トヲ指示ス而シテ人皆道德ノ氣質然ラシムルニ因テ此増加ノ道德ノ知識及之ニ適スル道德ノ義務ニ背カザル舉動ヲ行フノ責ニ任ズルナリ

加之上帝ハ人ノ蒙昧怯弱ナルヲ哀ンデ人ニ教フルニ赤子ノ父母ヲ慕フガ如クニ其要スル所ノ助ヲ乞フベキヲ以テシ而シテ其威德ニ因テ人ノ職分ヲ辨ズル知識ヲ開導シ且之ヲ行フノ力ヲ増與ス是ニ於テカ人昏弱ニシテ迷誤スト雖モ能ク睿智神聖ノ泉源ニ到達シ且吾人ヲシテ現世ニ在テ適意ニ上帝ニ服事セシメ及身後ニ光榮ノ域ニ入テ帝側

ニ侍セシムルノ準備ヲナス者皆致シ難キニアラズ
 今人既ニ測ル能ハザルノ量アリテ某ノ方法ニ因テ上帝ノ心志ニ從フ
 ベキノ職ニ任シ爲メニ假令唯自然及著顯ノ教法ノ助ヲ得ザル良心ノ
 勸戒ノミニ藉シテ更ニ心志ヲ暗告スルノ方法ヲ上帝ニ受ケザルモ猶
 彼ニ服従スベキノ責アリ況ヤ此ノ如キ増加ノ方法ヲ以テ教誡セラル
 ニ於テ其義務ノ更ニ重キコト顧ニ如何ゾヤ且人ノ職分ヲ勉メザル罪
 過ノ輕重ハ其職分ヲ辨ズル知識ノ多少ニ準シ而シテ其職分ヲ辨ズル
 知識ハ入處ル所ノ景況ニ適シテ其大ナル如何ヲ知ル能ハザレバ則人
 亦其罪過ノ至大ニシテ許スベキナキヲ審判シ得ル所ナリ聖書上ニ於
 テ此ノ如キコトハ人ノ實地ノ景況ナルヲ示シ且人公正ニシテ長ルベ

キ刑罰即某救濟神治ニ依頼セザルノ外ハ免レント欲スルモ能ハザル
 處ノ刑罰ニ處セラル、コトヲ所々ニ説ケリ

此救濟神治ノ實地ヲ論ズルハ神學ニ属スルガ故ニ此書僅ニ其本題ノ
 事情ト相關スル者ヲ説クニ止マリ品質ト條件トノ若キハ復纒述セズ
 上帝ノ法ハ聖書ニ於テ示ス如ク吾無疆ノ幸福ヲ得ルノ道ハ他ナシ唯
 順從至ラザルナキニ因ル而シテ其順從至ラザルナキヲ得ルハ以上ニ
 説キシ道理ニ從フニ因ルコトヲ著スナリ然レドモ吾人今日ノ景況ニ
 在テハ之ヲ得ル難キコト明ナリ何ナレバ夫レ罪小ナリト雖モ亦吾未
 來幸福ノ存在セル地位ヲ犯シ又吾他日ニ善良ノ品行并ニ德行ヲ能ス
 ベキ完全ノ才力ニ弊害ヲ及ボス此二者アルニ因テ人其幸福ヲ失フヲ

救フ能ハズシテ改好ヲ行フノ後ト雖モ人ノ道德ノ能力ハ上帝ノ法ノ望ム所ノ如クナル能ハズ以テ秋毫モ神明ノ助ヲ受ルヲ得ズ是ニ於テカ他人(基督ヲイフ)ノ功德ト順從トニ因テ始テ救濟セラル、ヲ得ルナリ然レドモ人須ラク專ラ上帝ノ全法ニ順從スルノ情狀ニ因リ以テ基督ノ功德ニ依頼シテ其救濟ヲ仰望スベシ聖書中シヨハシノ書第二章第四節ニ曰「我彼ヲ知ルト言ヒ以テ其戒命ヲ守ラザル者ハ妄語者ニシテ眞實ノ心ナキナリ」故ニ上帝ノ心志ヲ辨ズルノ知識ハ人其救濟神治ヲ受クルノ際ニ必要ナルコト猶律法神治ヲ受クルトキニ於ケル如シ蓋シ然ル所以ノ者ハ此知識ヲ保ツカ爲メニ罪ナクシテ救濟セラ、ノ故ニ非ズ亦只上帝ノ心志常ニ吾諸件ノ舉動ヲ管制スルニ非レ

バ人救濟神治ノ惠アルガ爲メニ期望スル所ノ品行ノ元質ヲ失フノ故ニ因ルナリ

故ニ人假令他故アルニ因ルモ甲ノ神治ヲ受ケ及乙ノ神治ヲ受ルノ際ニ上帝ノ心志ヲ辨ズルノ知識ハ現世若クハ未來ニ於テ吾幸福ヲ得ル爲メニ必要ニシテ欠クベカラズ

○修身學第二書

○實地上ノ修身學

余第一書ニ於テ道德ノ氣質ヲ示シ且其氣質ニ關係スル道理ノ由テ出ル所ヲ説クヲ目的トセリ本卷ハ專ラ上帝ノ吾輩ヲシテ現今ノ形勢ニ處セシムル所以ノ最要ノ修身法ヲ類別シテ解明ス人須ラク自然教法及ビ著顯教法ニ付キテ其最便ノ者ヲ擇ンデ目的トナシ以テ此法ヲ成就スルノ基本トナスベシ

全体ノ修身法ハ聖書上ニ唯一字以テ之ヲ括セリ曰愛。

此ニ由テ之ヲ論ズレバ人ノ現世ニ於テ相對スル者ハ造物者タル上帝ト同一ノ造物タル人類ナリ故ニ人ノ修身ノ義務ニ二種アリ第一上帝

ヲ愛スルコト即信心第二人ヲ愛スルコト即修身道ナリ今本卷ヲ分テ
二部トナシ以テ逐次ニ此二件ヲ論説スベシ

○第一部 上帝ヲ愛スルコト即信心ヲ論ス

○第一篇 上帝ニ對シテ高等ノ親愛ヲ尽スベキ一般ノ義務
本題ノ事ニ就キテ聖書中ニ示教スル所往々之アリ乃曰「汝宜シク汝
ノ方寸ニテ汝ノ靈魂汝ノ心ト汝ノカトヲ以テ愛スベシ」(馬太第二十
二章第三十七節馬可第十二章第三十節路可第十章第二十七節ヲ見ル
ベシ)

余此示教ヲ明サンガ爲メニ第一神人ノ倫第二此倫ヨリ生ズル權理ト
義務第三此諸件ノ人生ノ法タルヲ吾氣質ニ著明スル所ノ事實ヲ考論
スベシ

第一 神人ノ倫

甲 上帝ハ人ヲ生造シ且保護スルナリ是蓋シ人未生ゼズ世界未現成セザルノ際ニ既ニ然リ抑人ノ其生存ニ於ケルヤ吾ト諸種造物ト皆實ニ之ニ與カスル能ハズ而シテ其生存扶持セラル、者ハ偏ニ全能ナル神明ノ爲ス所ニ頼ルナリ且惟人ノミナラズ万物享ル所ノ才能モ亦同一造物者之ヲ生造シ且毎ニ之ヲ扶持ス加之塵累百般ノ景況及自然外物ノ變化モ亦其何種ニ係ルヲ問ハス形体ニ關シ或ハ交際ニ關シ或ハ道德ニ關スルノ論ナク總テ是レ上帝ニ非ザレバ作ス能ハズ亦保ツ能ハズ而シテ人ヲシテ喜樂セシメ英邁ナラシメ善良ナラシムルノ力アルハ專ラ上帝ノ周密ナル警察ト其能セザルナク在ラザルナキノ善ヲ顯ハスノ致ス所ナリ故ニ人ハ實ニ全知全能万物ヲ包有シテ獨立セ

ル上帝ニ對シテ人智ヲ以テ測リ得ルヨリ更ニ恭順普通純正ナル從屬ノ倫アルナリ

乙 神ハ其生存スルガ爲メニ欠クベカラザルニ因テ人心ノ測リ得ザルホドノ全能ヲ有スル者タルヲ人ニ示シ乃全權ノ威力全知ノ靈智不易ノ正直剛堅ノ公義過絶ノ純精無疆ノ仁惠及普通ノ親愛皆之ニ屬スルナリ神ハ唯右ノ諸件ヲ尽ク己ニ有ツ者ナルノミナラズ又其生造スル無數万物ノ存有スル品格ノ由テ出ル所ノ源泉ナリ夫レ吾カ天地間ニ見ル所ノ諸物ハ只日光ノ反射ニ因ルノミニシテ今吾ガ生造物ニ見ル所ノ善良ノ品格ノ發顯モ亦彼ノ神ノ品格ノ反射ナリ神ハ即光ノ父ニシテ其照臨スル所遍ク明ニシテ毫モ陰翳セズ是ニ由テ之ヲ觀レ

人ト造物者トノ倫ハ他ニ非ズ造物者ノ爲メニ此全能敬愛スベク生
造セラル、所ノ人ト人智測ルベカラザルノ量ヲ以テ此全能ヲ有ツ所
ノ不造物(即造物者)トノ倫ナリ

丙 神明ハ人ニ至善ヲ生シ人ノ目前ト永世ノ最大幸福ヲ生ズル爲
シニ此無量道德ノ成全ニ從テ創造力ト不測ノ靈智ヲ著行セリ其著行
スルヤ周遍ニシテ漏サズ某族ハ神明特ニ己ヲ愛シテ他族ヲ顧ミズ某
人ハ上帝全世界上ニ惟獨我ヲ篤クシテ他人アルヲ知ラズト思フニ至
レリ然レドモ人己ノ爲メニ上帝ニ要スルニ此ノ如キノ善良ヲ行フヲ
以テスルノ權理決シテ之アルナシ何ナレバ上帝ハ人ヲ成造スル義務
ニ任ズルニ非ズ人ヲシテ其享ベキ幸福ヲ保得ベク生造セシムルノ義

務ニ至リテハ豈ニ更ニ之アルベケン然ラバ則人ノ上帝ノ倫ニ於ケル
要求ノ權理ナクシテ毎時臆測スベキ全能ヲ行フヨリ生ズル結果ヲ受
ル者(即人)ト其自己獨立ノ善良以テ人ヲシテ此ノ如クナラシムル者
(即上帝)トノ倫ナリ

第二 造物ト造物者トノ倫ヨリシテ造物者ノ諸種ノ權理ト造物ノ諸
種ノ義務生ズ

此ニ注意スル者ハ此倫ノ全ク人ノ譬論 彼此ヲ和譬テ推論スルコトナイフ 及バズ且
有限知識ノ辨シ得ザル所ニ在ルコト蓋シ明ナレバ則此倫中ニ人ノ十
分ニ理解シ得ル者ヨリハ更ニ眞實ニシテ且普通ナル性質ノ義務アリ
故ニ人ノ知識ヲ以テ此義務ノ嚴肅畏ルベキノ狀ヲ知了スル能ハザル

コトヲ証明スベシ衆人現世ニ於テ此義務ヲ辨解スルコトハ固ヨリ難クシテ之ヲ考究スルコトモ猶且十分ナル能ハズ是ニ於テ獨天地百物ノ深淺大小ヲ量リ得ル上帝ニ頼テ以テ此義務ニ就キテノ教ヲ受クル必要ナルヲ知ルベシ或人上帝其默示ノ言語ニ因テ人ニ對シテ權理ヲ保ツコトヲ抗論セリ今此權理如何并ニ上帝ノ人宜シク奉事スヘキ者ト做ス義務如何ヲ説クベシ

甲 上帝ハ人ヲ成造スル者タルノ倫アルヲ以テ人ニ對シテ無量ノ所有者タルノ權理ヲ占メリ抑所有ノ義ヲ廣大ニ論ズレバ人ハ上帝ニ成造セラルヽカ故ニ上帝ノ所有物タリ人ノ身体他ノ諸物皆己ノ所有ノ如クニ見ユレドモ實ハ其所有ニアラズ且其心志ニ至ルマデ己ノ所

有ニアラズ而シテ上帝ハ其思欲スル所ニ違ハズシテ人ノ恩欲スルヲ要ス人ノ才能各異ナリト雖モ此モ亦其所有ニアラズ而シテ上帝ハ民生ノ初ヨリ其指令スル所ノ方法ニ從ヒ其口途ニ向ヒ其制限ヲ踰エズシテ人ノ此才力ヲ用ヰルヲ要ス上帝ハ唯此權理ヲ言語上ニ持論スルノミナラズ蓋シ實際ニ此權理ヲ行フ者ノ如シ乃人ノ恩欲スル所ニ關セズシテ天ノ兵卒^{死後天ニ生ズル者トイフ義}ト地ノ民族中ニ其好ム所ヲ行フナリ彼レ人ニ就キテ其健康所有物朋友才能及生命ヲ奪フト雖モ彼レ毫モ自己ノ所爲ノ理如何ヲ示サズ之ヲ詳言スレバ彼レハ君主ニシテ吾人ノ視テ以テ己ノ所有物トナス身体及諸物ハ則彼其所有者タル所以ノ理ニ依テ行フコト明ナリ

且上帝ハ人ニ對シテ有ツ所ノ權理アルニ因テ人ニ要スルニ人智ノ測得ル者ヨリハ大且嚴ナル義務ヲ尽シテ全キ從順恭敬ヲ行フベキヲ以テス此權理ト之ニ適スル義務ノ人ニ責ル所ノ職分ニ類アリ甲ハ專ラ人上帝ニ對シテ尽スベキ者ニシテ宇宙ノ人類皆之ニ服事スベシ乙ハ人同類ノ造物ニ對シテ行フベキ者ナリ夫レ假令修身道ヲ行フベキ造物ハ造物者ナクシテ生ズル者トスルモ猶其職分タル者自カラ有リテ人各己ヲシテ修身道ヲ行フベキ造物タラシムルノ理法ノ然ル由リ相共ニ此職ヲ奉ゼザルベカラズ况ヤ万般ノ造物ハ悉ク上帝ノ成造ニ係ルチャ故ニ上帝ハ人ニ分ツニ課ヲ以テシテ各行フベキ所ノ職分ヲ定メタリ之ヲ詳言スレバ上帝ハ己ニ對シテ普通ノ職分ヲ行フベキ造物

ハ皆均シク己ノ生造ニ係リ且己ノ保護ヲ受ル同黨ノ造物ハ皆己ノ指命スル方法ニ從テ相待スルヲ欲スルナリ夫レ上帝ハ万民ノ父ニシテ其子タル者ノ己ガ指示スル如ク同胞相處センコトヲ欲ス故ニ人ノ其同黨ノ生造物ニ對シテ望ム所ノ職分ハ二重ノ義務アリ第一人上帝ニ對スルノ倫ニ基キ第二人其同類ニ對スルノ倫ニ基ク者ナリ是ニ於テカ人ノ義務トシテ行フ所ノ者ハ一モ上帝ニ順從スルノ理ニ因テスルノ義務ニ基ツカザル者之アルナシ故ニ今教法上即敬神ノ心ヲ以テ行フベキ義務ハ人生至微ノ動作ニモ之アリ故ニ何種類ノ動作トナク亦以テ善良ノ目ヲ下スニ足レリ詳言スレバ上帝ノ賞譽ヲ受ベキ者ニシテ其中一モ神ニ對スル孝順ノ心情ヲ含マザル者アルヲ見ズ加之此義

務ハ吾知ル所ノ諸件ノ他ノ義務ヨリハ無量ニ高大ナルガ故ニ此義務ヲ舍テ諸件ノ他ノ義務ノ爲メニ責メラレテ動作ヲ行ヘバ必要緊急ノ務ヲ廢シ以テ此過失ノ全量ニ準シテ上帝ノ法ノ刑典ニ處セラルベシ且聖書ノ示ス所蓋シ左ノ如シ曰人完全ナル職務ヲ上帝ニ盡スベキガ故ニ此職務ヲ行盡スノ後ハ復上帝ヲシテ人ニ對スル某ノ義務ニ從事セシムルノ方法ナシ此神人ノ倫アルニ因テ彼ノ從事スル所ノ義務ナリ聖書中路^{ナリ}加ノ書第十七章第七節ヨリ第十節ニ於テ救主譬喩ノ說ハ蓋シ此義ナリ曰汝ノ家奴汝ノ田ヲ耕シ或ハ牛羊ヲ牧シ了リテ田野ヨリ歸ルニ方リ之ニ命ジテ直ニ食ニ就カシムルカ寧更ニ命ジテ我が爲メニ食ヲ備ヘ且其衣ヲ更メ其身ヲ修飾シテ以テ我が爲メニ食ヲ行リ

我食了ルノ後ニ汝自ラ飲食セヨト曰ハザルヤ且主人ハ其僕ノ命ヲ奉行セシガ故ニ之ヲ謝センカ吾意フニ謝セザルベシ此猶汝ガ己レニ命ゼラレシ者ヲ盡ク行フヲ以テ吾ハ無用ノ僕ナリ我已ニ吾カ爲スベキノ職ヲ爲シタリトイフガ如シ救主ノ言此ニ止ル之ヲ解シテ曰凡ソ臣僕ノ職タルハ一事ヲ作スニ止ラズ時間ト勢力ノアラン限ハ已ニ命ゼラルノ事其何タルヲ聞ハズ盡ク行テ後ニ能ク其職ヲ盡ストイフベシ而シテ盡ク之ヲ行フニ方リ臣僕ノ其君主タル上帝ニ責ムルニ一ノ義務ヲ以テスルコトナシ此人ト上帝トノ倫ナリ彼レ其職分ヲ行フニ過ギズシテ纔ニ其負債ヲ償フノミ且此倫ノ自ラ然ラシムル所アリテ其職務ノ外ニ更ニ某事ヲ爲スベキヲ信シガタシ蓋シ能ク思考ヲ用井レバ此

ノ如キユト人ト造物者トノ倫ナルヲ認メ難カラズ
 是ニ於テ見ルベシ造物其上帝ニ對スルノ職務ヲ害スレハ復之ヲ補フ
 ベキニ由ナシ是ヲ以テ造物ハ常ニ其才能ノ全量ニ準シタル義務ニ任
 シテ尽ク義務ヲ行ヒ而後ニ方ニ纔ニ其職ヲ盡スト謂フベシ故ニ一行
 爲モ他ヲ回顧スルノ功用アル能ハズ之ヲ詳言スレバ某ノ行爲ヲ以テ
 他ノ行爲ノ弊害ヲ補フ能ハズ此人ノ道德力ノ罪惡ノ爲メニ損害セラ
 レザルトキニ在テ猶且然リ然ト雖モ此大道理ニ根據シ而シテ罪惡ノ
 爲メニ永久人ノ道德力ヲ傷害セラレ乃人ノ德行ヲ能スルノ力ハ人生
 ノ理法ニ因テ罪惡ノ爲メニ減却セラルヽコトヲ推思スレバ人ノ苟上
 帝ニ對スルノ義務ヲ犯スコト律法ヲ以テ處スルニ其禍殃ヲ免ルヽ能

ハザルハ昭々乎明ナリ然ラバ則人生諸件ノ行爲ヲ熟思スルニ實ニ修
 身ノ道ニ適スル能ハズ嗚呼亦悲キカナ

乙 上帝ハ人ニ示スニ自然ト道德ノ絶類ナル諸質ヲ有ツ者タルヲ
 以テス故ニ彼レ人ニ對シテ保ツ所ノ倫アルニ由リ亦人ニ責ムルニ一
 ノ新義務ヲ以テスルナリ凡ソ人美麗ナル者ヲ愛シ且力大ニシテ智多
 キ者ヲ好ムベク成造セラルヽハ固ヨリ論ヲ待ズ而シテ更ニ甚シク此
 諸件ノ由テ出ル所ノ根原ヲ愛好スベク成造セラルヽナリ故ニ人皆シ
 エクスピアノ悲戯ミルトンノ史詩ヲ愛ス然リ而シテ之ヲ意匠シ之
 ナ創作スル心ノ更ニ愛スベキタル如何ゾヤ今夫レ天下ノ生造物ハ美
 麗タリ愛スベキタリ或ハ宏大タルヲ論ゼス一切上帝ノ創造ニ係リ其

未現出シテ人目ニ觸レサルニ上帝ノ心中ニ皆已ニ生ズルナリ唯此ノミナラズ人ノ見テ以テ愛好スルノ能力ハ皆上帝ノ賜フ所ニシテ外物ノ形体ト内部ノ感動シ易キ者ノ二者共ニ上帝ノ万物ヲ保ツ才徳ニ因テ扶持セラルヽナリ今夫レ人施用スル所ノ愛重喜樂ノ感情ハ其天賦ノ氣質然ラシムルヨリ人万物ヲ宰制スル上帝ニ對シテ須ラク其量ノ廣大ヲ極メテ此感情ヲ表スベキ義務ヲ包有ス然レトモ上帝ハ管人ノ見ル所ノ愛重スベキ諸物ノ製造者タルノミナラズ又人見ル所ノ万物ノ製造者タリ又管人見ル所ノ万物ノ製造者タルノミナラズ亦生存セシ所ノ万物ノ製造者タリ而シテ管生存セシ所ノ万物ノ製造者タルノミナラズ亦生存シ得ル所ノ万物ノ製造者ナリ故ニ人其知ル所ノ万物

ヨリハ更ニ彼ヲ愛敬スベキ義務ニ服スベク且人其相識リ得ル所ノ高大獨立ノ者ヨリハ更ニ深キ愛敬ヲ彼ニ加フベキコト固ヨリ知ルベキノミ加之上帝人ニ對シテ無量十全ノ道徳ノ性質ヲ有ツ者タルヲ示シ且其自然ニ出テ欠クベカラザル所ノ正直無量ノ公義神聖仁惠慈悲善良眞實ヲ并有セリ今人皆此ノ如キ性質ヨリ出デ、世間ニ發見スル動作ヲ愛好シ殊ニ此ノ如キ動作ヲ爲ス者ノ品行ヲ愛好スベク成造セラシムルヽコト明ニシテ管此ノ如クスベク成造セララルヽノミナラズ又殊ニ此ノ如クセザルベカラサルベク成造セララルヽナリ故ニ人此ノ如キ感受ノ情ヲ發スベキ推動力ヲ以テ成造セラレ而シテ此其天性ニ出ル至大ノ推動力ナルコトヲ知ラザル者ナシ抑凡百ノ事世人ノ視テ善良公

正ニシテ貴重スベシト做ス者ハ皆其首初ノ根元タル上帝ニ基キ來リテ上帝此尊ノ生ズル所ノ時勢ヲ作り且之ヲ行フ者ヲ造クリテ之ニ賦スルニ諸種ノ能力ヲ以ス然リ而シテ彼レ眞實無量ニ修身ニ必要ナル性質ヲ有テ些ノ缺點ナシ故ニ吾天性ニ出ル至貴ノ推動力ハ能ク己レニ教フルニ此性質ヲ愛敬スルヲ以テス則假令此性質ノ世ニ發現スルコト十分ナラズト雖モ此在天ノ父ノ保ツ所ノ者ナルガ故ニ最愛敬セザルベカラズ今夫レ人ノ公正ナル者モ我且之ヲ敬ス况ヤ永遠無疆ヨリ一點汚染ナクシテ宇宙ヲ管理セシ大公至正ナル者ニ於テチヤ又夫レ苟純精ナル者ハ我且之ヲ貴ブ况ヤ眼光至明ニシテ青天ヲ視テ未必ズシモ清潔トセザル上帝ノ神聖ニ於テチヤ苟慈惠ナル者ハ我且之ヲ

愛ス况ヤ無量ノ好愛ヲ以テ亘久無窮ノ宇宙ニ播布スル上帝ニ於テ其喜樂尊奉スベキコト誠ニ如何ゾヤ

天賦ノ氣質然ラシムルニ由テ前者ノ性質ヲ愛敬スル義務ニ服事スト雖モ其我が自己ノ利益ニ關係スルコト如何ヲ思慮スベカラズ故ニ前代人ノ行事或ハ他國ノ實事ニシテ其公正慈善ナル者ハ吾其利益ヲ受ケズト雖モ之ヲ愛好スベシ故ニ神有ツ所ノ此ノ如キ性質ヲ愛敬スベキノ職務ハ必人ニ之ヲ勉ムルヲ責メ而シテ人之ヲ勉ムレハ果シテ己レニ利スルヤ否ヤニ關セザルナリ且造物者ハ己ノ外ナル者ニ此ノ如キ性質アレバ人亦從テ之ヲ愛敬スルコト上ニ述ルガ如キヲ欲ス人其生レ得テ修身ヲ能スベキノ責ニ任ズル者タルコト此ノ如キヲ思考シ

且他者(即上帝)アリテ此ノ如キ方法ヲ以テ人ノ修身ノ氣質ト相和スル所ノ此ノ如キ修身ニ必要ナル性質ヲ有ツコトヲ觀察スルノミニシテ既ニ義務ノ忽スベカラザルヲ知ルベシ況ヤ此性質ヲ有ツ上帝ハ吾ニ對シテ造物者ノ倫アルガ故ニ此義務ノ更ニ貴重ナルコト蓋シ如何ゾヤ

丙 修身ヲ能スルニ必要ナル人性ノ自然ニ由テ凡ソ事ノ公正慈善ニシテ貴ブヘキ者ヲ愛敬シ其果シテ已レニ利スルヤ否ヤ計ルベカラズ故ニ此公正慈善ニシテ貴ムベキ者ノ人ニ福利ヲ與ル所以ノ基本トナルニ方リテハ人更ニ之ヲ感謝シ且以テ吾福祉ノ由テ來ル所ノ上帝ヲ喜バシムルニ足レル某事ヲ成スベキノ責任ヲ負フベシ此責任ハ

人ノ天性自然ニ出ル一ノ推動力タルコト明ナルニ至リテハ人皆此責任ヲ奉行スル者アルヲ見テ只管之ヲ愛敬シ而シテ必シモ暴虐邪惡ノ心性ヲ著サヰルモ此責任ヲ負擔セザル者ヲ見テハ常ニ其修身ノ罰ニ處セラル、コト少カラズト思フナリ今吾レ他人ヨリ受ルノ恩愛ハ彼ヨリ出ルト雖モ彼ヲ以テ僅ニ第二段ノ根原トナスベクシテ固ヨリ第一段ノ至ラザル所ナキ根原(即上帝)ニ基キ來ラザル者ナシ故ニ今眼ヲ高處ニ着クレバ吾レ他人ニ表スル感謝ノ情一モ其恩愛ノ由テ來ル所ノ上帝ニ表スルニアラザル者ナシ然リ而シテ吾黨類ノ恩愛ヨリ受ル所ノ幸福ハ小ニシテ其直ニ上帝ノ賜フ所ニ基ク者ハ大ニシテ測ルベカラズ感謝ノ情ヲ表スベキ責任ノ輕重アルハ吾受ル所ノ利益ト

此利益ノ由テ出ル所ノ善良清廉ノ大小ニ準ズル者ニシテ此理ニ因テ上帝ニ感謝ノ情ヲ表スベキ責任ノ重ク且大ナル如何ヲ量知スベシ神明ハ實ニ其成造セシ万物ニ依頼スル者ニアラズ且一モ基ク所ナクシテ人ヲ成造シ童ニ人ノ處スル所ノ時勢ヲモ成造セシガ故ニ人彼ニ責ルニ某件ノ義務ヲ以テスル能ハズ且人ノ彼ニ對スルノ倫ハ我只受恩者タル倫ノ外アルナク其恩惠ノ重大ナル人之ヲ報償スル能ハズ現在ノ時勢ニ處スルヤ僅ニ俄頃間ノ福祉快樂ヲ覺レバ此感覺俄頃ノ間ニ終ルト雖モ苟其記憶ニ止ル限リニ吾ヲシテ感謝セシムベシ一件ノ快樂ヲ得テ苟吾口若クハ口ヲ喜バシムルアレバ爲メニ感恩ノ情生ズ况ヤ悉ク吾五官ヲ慰メ殊ニ五官ヲ併セテ喜バシムルノ快樂ヲ享ル

ニ於テチヤ一瞬間ト雖モ知識ヲ喜バシムルノ愉快ヲ得レバ感謝ノ念輒生ズ况ヤ長久無窮ニ知識ヲ樂マシムルノ基タル無量ノ氣質ヲ享ケ殊ニ知識ヲ喜バシムベキ諸種ノ快樂ヲ并有スル氣質ヲ享クルニ於テチヤ且苟道德ノ快樂ヲ得レバ之ヲ感謝ス况ヤ無窮ノ道德ノ快樂ヲ有ツガ爲メニ作りシ氣質ヲ享クルニ於テチヤ加之此諸種ノ快樂ノ一ヲ得ルモ各無量ニ増加スル感謝ノ基タルベシ况ヤ此諸種ノ相保ツ所ノ關係ヲシテ加添増益ノ快樂ノ基トナラシムル所以ノ氣質ヲ享クルニ於テチヤ管ニ然ルニアラズシテ外面ノ物品ノ美麗醜惡自カラ人ノ才力感覺ニ適合シテ各人ノ爲メニ至善ヲ成スコトヲ希望スベク且人皆特ニ上帝ノ心志ト彼レ已ニ賜ヒシ天性ニ從ヒ乃其至大ノ快樂ヲ増ス

ベキ方法ニ於テ此才力ヲ用ヰレバ其知り得ル所ノ者ヨリハ更ニ高貴ニシテ光榮ナル福祉ヲ得テ永遠不易ニ之ヲ保ツベキコト人ノ處ル所ノ景況ナリ今一二已チ利スル所ナキノ善長或ハ不當ノ恩惠モ猶且之ヲ感謝ス則慈惠親愛厚クシテ無量ノ善長ヲ播布スルコト滾々トシテ盡期ナキ上帝ニ對シテ感謝ノ念ハ吾一生ヲ通ジテ胸懷ニ充滿スル者其如何ニ多ク且大ナルヲ知ル能ハズ

人皆上帝ニ對スル從順ノ本分ト共ニ保ツベキ敬愛ト感謝ノ念ヲ表スベキ義務アル此ノ如シ然レドモ此數種ノ義務ハ各相支離セズシテ互ニ包含スル者ナリ何ナレバ人ニ對シテ上帝ノ有ツ所ノ普通ノ權理ヲ認知スルヨリ生ズル全キ從順ノ心性ヲ保ツ者ハ其愛情ヲ上帝ニ表ス

ルコト其心志ノ如ク十分ナルベシ之ヲ詳言スレバ唯彼レノ命ズル所ノ者ニ違ハズシテ愛スベシ之ヲ解シテ曰唯彼レノ心志ヲ行フノミナラズ又之ヲ行フヲ愛スベシ唯彼レ自ラ何タルノ所以ニ因テノミナラズ又彼レ吾ニ對シテ何タリ且常ニ何タリシ所以ニ因テ此ノ如クスベシ聖書ニ曰「神父ヨ吾心中ノ言語ハ吾心志ニ非ズシテ神父ノ心志ヲ成スナリ」又既ニ上帝ノ品行性質ノ愛スベキヲ愛スレバ則更ニ此品質ト適合スル動作則已ニ有スル之ニ同シキ心情ヨリ出ツル所ノ動作ヲ行フヲ愛スベシ更ニ之ヲ解シテ曰人皆全ク上帝ノ心志ニ適シテ行フヲ愛スベシ且實ニ其當然ノ感謝スベキ義務ヲ認知スレバ其上等ノ恩惠者ヲ喜バシムルコトヲ愛セザルベカラズシテ之ヲ爲ス所以ノ方

法ハ正ニ此恩惠者ノ命令ニ從フノ外亦他アルナシ
 前篇ニ於テ福祉快樂ハ吾感覺ヲ此ニ適スル物ニ向テ行フニ在リト説
 ケリ今夫レ人タル者道德ノ心術ヲ有ツ之ヲ詳言スレバ善良ノ品質ヲ
 思察シ殊ニ此善良ノ品質アル者ヲ愛シ以テ其福祉ヲ致スベク成造セ
 ラルヽコト更ニ論ヲ待ズ且此福祉ハ吾受ベキ者ノ中ニ就テ其貴キコ
 ト之ニ尙フル者ナキコト明ナリ然レドモ生造物ト其善良ノ品質ハ人
 ノ道德ノ感覺ニ適スル物依ニ非ズ而シテ高貴無量ニシテ盡期ナキ道
 徳ノ完全即其物体ナリ加之道德上ノ快樂ヲ感納スルコトハ反復シテ
 之ヲ爲スニ因テ廣大トナリ而シテ之ニ對スル不生造ノ物體ハ必不易
 永久ニシテ盡期アルナシ人ニ福祉ヲ與フル爲メニ準備ノ永遠無窮ニ

爲サルルコト此ノ如シ之ヲ解シテ曰人ノ上帝ヲ愛スルヤ天稟ノ氣質
 ヨリ然ルコト昭明ナルノミナラズ又彼レ他物ヨリ更ニ限ナク上帝ヲ
 愛スル様且上帝ヲ愛スレバ他物ヲ愛スル者ヨリ大ナル福祉ヲ享ケ且
 永世上帝ヲ愛スルニ由リ既ニ多ク又多ク福祉ヲ享ル様ニ生得シタル
 コト判然ナリ

概論スルニ人ノ上帝ニ對スルノ倫アルヨリ所謂子タルノ心情即高上
 ニシテ感謝スルノ念ヲ以テ貫ケル普通從順ノ心情ヲ彼ニ表セザルベ
 カラズ此心情ハ聖書ニ於テ類ニ依リ稱シテ信心トイヒ新約全書中ニ
 救濟神治ノ備辨ニ因テ人ノ上帝ニ對スルノ倫然ラシムルニ依リ少シ
 ク此心情ノ意趣ヲ異ニスル所アリ今人無罪ノ者タレバ皆此心情ヲ保

ツベクシテ必シモ其他ヲ求ムベカラズ而シテ罪過ヲ行ヒシ後ト雖モ此ノ如クスベキコト疑ヲ容レズ何ナレバ人罪過ヲ行フノ故ヲ以テ上帝ノ品行ヲ變シ且其人ニ從順感愛ヲ要スルノ權理ナモ易ヘザレバナリ今一孺子アリテ不善ヲ行フト雖モ其父母ニ孝順ナルノ心ヲ用井ルハ前日ニ異ナラザルベシ然ルニ造物ノ過失ヲ行フトキハ當ニ他ノ道徳ノ心情ヲ用井ルベシ此過失ノ自己ヲ害スルガ故ニ囚ルニ非ズシテ其修身ノ義務ヲ犯シテ罪惡ノ基ト爲ルノ故ニ因テ務テ之ヲ追悔シ其不善ヲ認知シテ上帝ノ公正ヲ表明シ以テ己ノ所爲ヨリ生ズル所ノ醜穢ハ盡ク之ヲ一身ニ受ケ而シテ己ノ行爲ヲ惡ミ其行爲ニ着クル此ノ如キノ念ト上帝ニ對スル老順ノ心トニ由テ善良純潔ヲ行フベシ之ヲ

稱シテ悔恨ト謂フ乃聖善ニ示ス上帝ノ罪犯者タル人ニ望ム所ノ心情ナリ

第三 上帝人ヲ成造スルヨリ人之ニ對シテ任ズル所ノ本分此ノ如シ而シテ此レ現今ノ氣質ヲ受ル所ノ人生ニ適シタル動作ノ唯一ノ道理ナルヲ示シ難カラズ

何ナレバ甲 人ノ世ニ生ズルヤ管制スルニ法ヲ以テシ一舉一動悉ク其法ニ依ラザルベカラズシテ其舉動ノ是非邪正各万全ノ能力ト不測ノ靈智ノ爲メニ現世及來世ニ於テ賞罰ヲ受ケ而シテ舉動ヲ行テ其賞罰ナカラシムルハ人力ノ能スル所ニ非ザルガ故ニ人唯全ク造物者ノ心志ニ從フニ因テ福祉ヲ受ケ災害ヲ免ルベシ且人各生レ得テ心志ト

彼此ヲ撰ム智力アルガ故ニ其撰ム所ニ從テ行フ之ヲ詳言スレバ之ニ從フヲ好ムガ故ニ之ニ從フニ非サレバ十分ノ快樂ヲ得ル能ハズ故ニ人生當然ノ理ニ出デ各其上帝ニ對シテ盡ス從順ノ理ニ從ヒ且親愛ノ念ニ基キ及此念ヲ以テ貫ケル從順ノ理ニ從フノ外更ニ已ニ福スル者ナキコト明ナリ

乙 人各全類ノ人種ニ對シテ有ツ所ノ倫ヲ熟考スレバ此理ヲ證明シ難キニ非ズ吾所見ニ依レバ一個人能ク社會ニ及ボスニ利害損益ヲ以テスル無限ノ才力アルベキハ其天稟氣質ノ自カラ然ラシムル所ナリ其實ニ然ルヲ知ント欲セバ當ニ且クセントポールル―ザー―ホーワルドクラ―クソン或ハ井ルベルフオ―スノ專業ノ功德トアレキサン

ダーシヨリウスセザ―ロ―ドバイロン或ハナボレオンノ一生ノ結果トヲ觀察スベシ今專ラ注意スヘキコト他ニ非ズ夫レ此才力アル者固ヨリ毫モ未然ヲ知ズシテ死後ハ論無ク生前モ猶且全ク其舉動ノ結果ヲ管制指令スル能ハズ加之過失アルヲ免レガタシ之ヲ詳言スレバ唯無智ヨリスルノミナラズ又邪惡ヨリ過失ヲ致シ易シ故ニ此智力ヲ用井テ其黨類ニ害ナカラシテ欲セバ宜シク始ヨリ終ヲ知テ其性不善ヲ行フ能ハザル者(即上帝)ノ尊命ヲ奉シテ之ヲ用井ルベキヲ認知スベシ

以上ノ所說ニ次キテ當ニ認知スベキ上帝ニ對スル義務ノ禁スル所左ノ如シ

甲 邪神ヲ拜スルコト即上帝ニ非ル者ニ高上ノ職務ヲ行フコト

乙 造物者ノ心志ニ背キテ成造物ニ從順ヲ行フコト

丙 彼レノ心志ニ背キテ己ノ心志ニ從ヒ若クハ己ノ嗜好ヲ逞クスルコト

丁 彼レノ禁ズル者ヲ愛スルコト

戊 彼レ之ヲ愛スルヲ禁ゼザル者己レハ則其禁ズル所ノ方法ト度量トニ於テ之ヲ愛スルコト

以上ノ諸件須ラク廣ク條目ヲ別ケテ之ヲ解クベシト雖モ原ト多ク神學ニ屬シ其書ニ論ズル所周詳ナルガ故ニ今此ニ贅セズシテ特ニ綱領ヲ掲ルノミ故ニ本題ノ結局ニ於テ上帝ノ親愛即恭敬ノ念ヲ修ムル方

法ノミヲ考究スベシ此方法三アリ第一 敬神ノ心第二 祈禱第三
安息日ノ注意

○第二篇 敬神ノ心ヲ修ルコト

前篇ノ所説ニ因テ神人ノ倫ハ人ニ責ルニ凡事皆當ニ上帝ヲ喜バシムルヲ勸勵スル習慣ノ心情ヲ保ツコトヲ以テスルヲ知ルベシ且造物者ノ人ヲシテ自カラ其心中ニ此ノ如キ心情ヲ好脩スベキ景況ニ處セシムルコトヲ思考スレハ亦實ニ其然ルヲ知ルベシ人ノ知識ヲ修ルニ足ル万件ノ物体吾周圍ニアリテ唯其存在ニ因ルノミナラズ又其無限ノ變化ニ因テ上帝ノ性質ト我レ彼ニ對シテ處スル所ノ義務トヲ吾ニ示スナリ敬神ノ心ハ吾レノ經歷ニ係リ若クハ視察ニ觸レテ知識ヲ修ル

物体ヲ舉ク修身ノ道ニ適用スルヨリ成ル者ナリ

第一 人ノ世ニ生ズルヤ不斷ノ變化アルニ因ル變化ハ隨時ニ人事中ニ起ル者ニシテ人之ヲ管制スルノ權ナシ而シテ變化中ニ必神明ノ生存ト其制御ノ威力ヲ保テ全部ノ有形世界ノ生存モ亦同一ノ理ニ出ヅルナリ今此變化無限ノ功用ヲ以テ各其利益ヲ及ボス所ノ諸人物ノ相關スル景況ニ適スルヲ得而シテ至六ノ權力不測ノ才智無盡ノ善良ノ著ハレテ成ル所ノ憲法ニ從フナリ若シ人特ニ睿智アル者タルニ過ギザレバ直ニ憲法ノ外ニ他ヲ思考シ難カルベシ然ルニ苟睿智アリ亦道德アル者タレハ唯憲法ノミナラズ亦憲法ノ出ル所ノ造物者ニ對スル義務ヲ考究シ得ルナリ吾知り得ル所ノ万物吾ニ與ルニ上帝ニ就キテ

ノ示教ヲ以テスルガ故ニ此示教ヲ以テ吾識ル所ノ諸物ト並合スレバ諸物皆神ノ性質ヲ以テ光輝ヲ發スベシ此方法ニ從テ吾目前ニ羅布スル各種ノ智識ヲ用井レハ吾敬神ノ心ヲ修好スル習慣ヲ成スベシ故ニ聖書ニ曰「天上帝ノ榮光ヲ彰ニシ穹蒼其經綸ヲ顯ハシ永朝永夕仰テ其象ヲ觀テ之ヲ知ル天ハ言無クシテ言アリ聲無クシテ聲アリ」

第二 是惟物理上ニ於テ然ルノミナラズ人類ノ歴史總テ同一ノ示教ヲ與ヘ善行ニ報賞アリ惡事ニ刑罰アルコト一個人邦國民ノ二者ニ生ズル事件中ニ見ル者ノ如クシテ皆神明ノ性質ヲ著ハスナリ聖書ニ曰「上帝寰海宴息シ波濤揚ラズ四方ノ人亂ヲ作スヲ思ハザラシム」

又曰「上帝之ガ君トナリ万邦咸喜ビ百州同ク樂ム彼レ其位ニ居ル幽

深立遠ニシテ大公至正ヲ以テ基トナス」主ノ耐忍永苦及其不屈ノ公議其正直ヲ愛シテ邪曲ヲ惡ムコト等ヲ一個人ノ傳紀邦國ノ史乘上毎紙ニ詳記セリ故ニ修身ノ責アル人物ノ管治ニ於テ經驗スル所ノ實事ハ二倍ノ連合關係ヲ有テ單純ノ理財者及政治家ニ示スニ原因ト效驗トヲシテ相關セシムルノ法ヲ以テシ更ニ敬神ノ心アル者ニ示スニ原因ト效驗トヲ此ノ如クニ連合シ且人心ト交際法ノ錯雜不定ノ中ニ變ゼザル正確ト誤リナキ公義トニ因テ其憲法ヲ垂ル、者(即上帝)ノ性質ヲ以テス今唯法ノミナラズ又法ニ基キ來ル修身ノ教戒ヲ熟考シ且特ニ事情ノ相關スルノミナラズ又事情ノ大ナル原理ニ相關スルニ着眼スルニ因テ敬神ノ心脩好セラル、コトアリ故ニ諸種ノ知識ヲ適宜

ニ脩好スレハ自然ニ敬神ニ趣クノ念ヲ生ズ然ルニ此ノ如ク知識ヲ用井ザレバ至要ニシテ欠クベカラザルノ關係ト相分離シ吾行フ所僅ニ睿智アル者ノ舉動ニ過ギズシテ道德アル者ノ所爲ヲ兼ル能ハズ而シテ其氣稟ニ出ツル至大至貴ノ道理ニ反スルヲ免レズ是ニ於テカ人智益開クレバ己ニ責ルニ益敬神ノ心ヲ脩ムベキヲ以テスルコト明ニシテ人タル者殊ニ文字有ル者ハ宜シク之ヲ心ニ銘スベシ吾知識ヲ脩ムルコト此ノ如キハ上帝ノ人ニ責任スル所ナリ故ニ曰「此人ヤ主ノ工作ヲ尊奉セズ又其手ニ出ヅル工業ヲ思考セザルガ故ニ主彼ヲ滅スベシト」

第三 然レドモ此ノ如キハ自然天成ノ工作ニ關スル倫ヨリシテ吾有

ツ所ノ義務タレバ則吾レ天啓ニ由テ以テ上帝ノ功德性質等ヲ辨明スルニ方リ此義務ノ更ニ増加スル如何ゾヤ蓋シ視學ノ法ヲ熟知スル者アリ常ニ太陽ニ背立スト雖モ光輝ノ質ト日輪ノ天ヲ貫キテ經過スルヲ周圍ノ万象中ニ顯ハル、光輝ノ反射ノ理ニ因テ多分ニ知り得ベシト雖モ亦夫ノ太陽ニ正面シ直ニ熟視シテ日輪ノ經過ヲ測リ得ル者ニ比スレバ其甚確切ナラザルヲ覺ユベシ天啓モ亦猶此ノゴトシ此ニ於テカ彼ノ眞正ノ理ヲ教フルニ言語ヲ以テス否ラズシテ之ヲ知ント欲セバ豫メ精微ノ講究ヲナス久シキヲ經ルニ非レバ能ハズ此ニ於テカ上帝人ニ示スニ其性質品行ヲ以テシ此ニ於テカ其憲法ヲ揭書シ此ニ於テカ人類歴史ノ一部ヲ記シ以テ其人ニ對スル天縁交際ノ典例トナ

シ此ニ於テカ人ノ因テ其罪過ヲ赦サル、ヲ得且因テ其失フ所ノ福祉ヨリハ高貴光榮ナル者ヲ受クベキ救濟神治ヲ人ニ示スコト至ラサルナシ然ラバ則人タル者聖書ヲ見テ管ニ昔時ヲ證スルノ書トナシ或ハ一編ノ詩選トナシ若クハ智慧ノ無盡藏トナスノミナラズ更ニ緊要ナル目的ヲ立テ上帝ノ品行ト神人ノ倫ヲ認知シ以テ彼ニ對シテ孝順誠敬ヲ盡スベキノ感情ヲ養成スル爲メノ用ニ供シテ專ラ講習スベシ此感情ハ吾義務タルコト明ニシテ此ノ如キ熟思ニ因テ脩好セラルベキ者ナリ

第四 敬神ノ心ヲ脩ムルノ他法ハ屢誠敬ノ心ヲ用ヰルニ在リ上帝ニ對シテ益誠敬親愛感謝從順ノ心情ヲ用ヰレバ此心情從テ益厚ク且貫

徹堅固ニシテ永續スベシ然シテ自ラ此心情ヲ用井ザレバ之ヲ用井ル
 ナ勸誘セラル、モ益ナシ何ナレバ誠敬ヲ愛スル者必シモ實ニ誠敬ヲ
 行ハザレバナリ故ニ須ラク上帝ニ對シ人生ノ景況ト其進善ノ知識ト
 ノ示ス所ノ眞誠ノ心術ヲ實行シ以テ此心情ヲ脩好スベシ蓋シ上帝ノ
 心志ニ從ヒ其慈惠ヲ謝シ其保護ニ任セ其威力ヲ頼ミ且吾罪過ヲ悔ル
 ハ吾靈魂ノ一時ノ行爲ニ非ズシテ其確定ノ習慣ナルベシ

第五 人ノ天稟ノ氣質ニ因テ動作ト其緣由ニ於ケル連合及某件ノ所
 爲ヲ行フコト、其由テ出ル所ノ原理ニ於ケル連合ハ最堅牢ニシテ一
 ナ欠ケバ他獨永存シ難シ貧困ヲ憐ムノ眞情アレドモ施濟ヲ行ハザレ
 バ永ク心中ニ存スルヲ得ズ善良ノ念アルモ善事ヲ行ヒ以テ修養セザ

レバ忽亡滅スベシ敬神ノ心モ之ニ異ラズシテ上帝ヲ尊奉シ普ク人ヲ
 愛スルノ念ヲ生成セザレバ無用トナリ敬神ノ事業モ亦虛偽タルヲ免
 レズ唯此方法ノミニ因テ敬神ノ心明ニ存シ且此心ヲ修好スルヲ得ル
 ナリ益吾心志ヲ屈シテ上帝ノ心志ニ從ヒ吾一切ノ行爲皆上帝ノ命ズ
 ル所ニ則レバ吾敬神ノ心益厚ク吾動作ノ由テ出ル所ノ志意益孝順ト
 ナルナリ

第六 罪過ヲ悔ルノ念ハ義務ヲ犯セシヲ認知スルニ基ク者ナルガ故
 ニ之ヲ修好センニハ帝上帝ノ品行ノミナラス并ニ人ニ對シテ行フ所
 ノ吾舉動ヲ熟視スルニ因テ修好スルヲ得ルニ着意スルヲ甚要スベキ
 ニアラズ上帝ノ善良慈愛ト人ノ不謝背逆トノ反對正ニ人ヲシテ恭敬

ニシテ已チ屈シ且其既往ノ弊惡ヲ悲恨シテ純潔ニ遷ラシムルニ足ルナリ故ニ豫言者曰ク「吾レ此民ト滿口穢濁ニシテ大君ヲ觀方有ノ主ナル上帝ヲ觀ルヲ得タリ我命其レ尙保ツベケンヤ禍必遠カラズ」
 最後ニ曰現今ノ如キ人生ノ事情ノミ能ク人ノ品行ニ適スト思フハ實ニ無用ニ屬ス上帝人ヲシテ已ヨリ至大ノ福祉ヲ致シ得ベク生ゼシメ且人ノ周圍ノ万物ヲシテ永ク人ニ此福祉ノ由テ來ル所ヲ導カシムベク之ヲ製造スト雖モ吾行フ所ノ舉動ノ最無道ニシテ感謝ノ念ナク且非禮ノ甚シク邪惡ノ極ルニヨリテ吾貴キ天稟ノ氣質ヲ蔑視犯害シ并ニ吾周圍ノ万物ヲ辨ズル知識ヲ其成造セラル、所以ノ目的ニ由ラズシテ妄用スルヲ免レズ今庸劣無識ノ者アリテ創造物ノ爲メニ盡ク其

智慮ヲ制限セラル、ニ方リ上帝ノ眼前ニ立テバ吾景勢如何ヲ觀察スベシ「上帝ノ面ニ對セバ天地モ避匿シテ之ヲ容ル所無ラン」

○第三篇 祈禱ヲ論ズ

本章ニ於テ祈禱ノ性質義務及功用ヲ說ベシ

第一 祈禱ノ性質

祈禱ハ人ノ精神ト神明ニシテ見ルベカラサル造物者トノ直接ノ交際ナリ聖書ニ曰「上帝ハ神ニシテ眞ニ崇拜スル者ナリ神ト誠トナ以テ之ヲ拜スベシ」

當ニ至當ノ心情ト相合シテ吾恭敬ノ意ヲ表シ吾義務ヲ認知シ吾感謝ノ念ヲ顯ハシ吾罪過ヲ悔イ及吾欲スル所ノ現世ト精神トノ慈愛ヲ懇

請スル者即祈禱ヲ成スナリ此心情ニ於テ欠クベカラザルノ件左ノ如シ

- 甲 謹テ上帝ノ品行性質及其人ニ對シテ有ツ倫ヲ辨明スルコト
- 乙 人ノ上帝ニ對シテ有ツ倫及彼ニ尽スベキ義務ヲ辨明スルコト
- 丙 其多罪無助災害ヲ覺ユルノ意見
- 丁 其享クル所ノ慈愛ヲ厚謝スルノ念
- 戊 爾來上帝ノ命ニ從ハントスル一定不易ノ決心
- 己 總テ上帝ノ心志ニ從順スル限ナキコト
- 庚 上帝ノ正直ヲ信ジテ疑ハザルコト
- 辛 吾ヲ慈愛シ殊ニ精神ヲ愛護スル惠ヲ受ントスルノ念絶ザルコト

ト

諸人類ト共ニ平和靜安ナル靈魂

此諸件ノ心情ヲ表明セント欲セバ聖書ニ記スル祈禱并ニ之ヲ訓導スル教諭ニヨリテ容易之ヲ得ベシト雖モ此レ必シモ要用ニ非ズ故ニ余敢テ曰此諸件ノ心情ノ中ニ就キテ其殊ニ吾神助ヲ乞フコトノ現今ノ理勢ニ屬スル者ノ外ハ必シモ皆同時ニ行ハルベキ者ニ非ズ特ニ吾上帝ノ手裏ヨリ親受スル幸福ノ爲メノミナラズ并ニ吾交互ノ倫ヨリ生ズル幸福ノ爲メニスルモ上帝ノ保護ニ賴ラザルヲ得ザルガ故ニ宜シク吾罪過ヲ悔恨シ一己及黨類ノ爲メニ幸福ヲ請フベシ今祈禱ヲ分テ一己、家内、及社會ノ者トナスコト左ノ如シ

一己ノ祈禱此定規ノ主意ハ人ナシテ獨自ノ者トシテ上帝ト直ニ交接
シ其自己ノ怯弱ヲ悔恨シ且其自己ノ誠敬ヲ修メシムルニ在リ故ニ此
レ嚴重隱密ニ行フベキ者ナリ人皆隱密ニ神父ヲ祈禱スルコトヲ命ゼ
ラレ且嚴肅無限ニ之ヲ行ヒテ凡テ相從ニ聖書ノ誦讀ヲ以テスベシ加
之蓋此ノ見ルベカラザル上帝トノ直接ノ交通ハ常ニ夫ノ見ルベクシ
テ現世ニ屬スル物ヲ愛慕スルノ念ニ敵シテ抗拒ノ力アルガ故ニ永世
無疆ニ之ヲ行フベシ

家内ノ祈禱 父子ノ倫ハ多クシテ且非常ナル惠福ノ根原タリ且此倫
中ニ非常ノ責任即之ヲ尽ス爲メニ非常ノ嚮導示教ヲ要スル者アリ故
ニ此倫ニ關シテ上帝ヲ認知スルニ特殊ノ適宜アリ此本分ノ要用ナル

コトノ人心ニ銘スルハ殊ニ其少年ノ時ニ於テ彼ヲ感動ス此務ハ法教
ト共ニ小兒タル時ノ記憶ト家郷ヲ慕フノ念トヲ并ハセ且父母ノ教悔
ヲシテ法教ノ許ス所ニ出シメ人ノ死後ニ於テ父ノ注意母ノ愛護ヨリ
導キタル意思ヲ以テ上帝ニ對シテ本分ヲ尽スベキノ知識ヲ再其心ニ
生ズルナリ

社會ノ祈禱 吾社會民族ノ惠福ハ上帝ノ賜フ所タル故ニ社會人ハ皆
此惠福ヲ認知セザルベカラズ此レ安息日ノ要務ノ一ナリ故ニ安息日
ノ禮ヲ論ズル所ニ於テ更ニ詳説スベシ祈禱ハ至當ノ心情ヲ以テ吾願
欲等ヲ告白スル者ナルガ故ニ或ハ一定ノ祈禱ヲ行ヒ若クハ臨時ノ祈
禱ヲ行フベキヤハ便宜ニ從フベキ者ニシテ修身學ニ關スルニアラズ

人皆當ニ自己ノ爲メニ至大ノ精神ノ利益タル者ヲ用ヅルベシ然リ而シテ隱密ノ祈禱ハ蓋シ直ニ祈禱者ノ言語ニテ之ヲ陳ベシ

第二 禱祈ノ職務

祈禱ノ職務アルコトハ人生ノ景況ト聖善トニ由テ知ルベシ

第一 人生ノ景況

甲 人ノ此世ニ處ルヤ全ク威力ナク未然ヲ知ル能ハズ凡ソ現今未來トナク依頼スル所アリテ不幸ニシテ罪孽多キヲ免レズ故ニ扶持指教智慧赦宥洗清ヲ要スベシ而シテ此數者ハ之ヲ人ニ與ルノ責ナキ上帝ノ所ヨリスルニアラザレハ復由テ來ル所ナシ然ラバ則人管ニ其福祉ヲ得ルガ爲メニ必要ナルノミナラズ又其生命ヲ保ツニ欠クベカラ

ザル惠福ヲ世界ノ父ニ請乞スベシ且諸種ノ慈愛ハ謹デ之ヲ賜フ所ノ形勢ヲ認知スルニ因テ享受スベキコト當然ナリ

乙 人ハ罪過アリテ其日々享ル所ノ福祉ヲ沒却スル者タルガ故ニ無限ノ善良福祉ヲ生ジテ此ノ如ク全ク邪曲不肖ナル吾輩ニ賜フ所ノ自在力ノ上帝ヲ敬謝シ又吾レ常ニ行フベキヲ行ハズ或ハ行ハザルベキヲ行フノ罪過ヲ免レザルガ爲メニ彼ニ從テ其赦宥ヲ乞フヲ急務トナスナリ

丙 上帝ニ向テ常ニ此依頼信奉スルノ念ヲ用井且此念ノ著ハル所ノ心情ハ吾善良ニ進ム爲メニ欠クベカラザル者タルヲ熟考スレバ前件ハ殊ニ吾職務タリ而シテ此レ吾修身ノ氣質ノ示教ニ係ルコト左

ノ事實ニ由テ瞭然タリ乃苟上帝アルヲ知ル者ハ常時ニ之ヲ以テ其本務ト認做シテ某ノ方法或ハ他ノ方法ヲ以テ之ヲ行フヲ勉ムルナリ加之庶人若クハ品行卑穢ヲ極ムルモノト雖モ痛困艱難ニ遇ヘバ苦請懇禱至ラザルナシ此レ健全平安ヲ得ルニ當リテ法教ヲ蔑視シ修身ノ務ニ思考ヲ着クルヲ非笑スル者ノ往々行フ所ナリ然レトモ危急ノ際ニ臨テ祈禱スルヲ以テ他時ノ祈禱ヨリ更ニ當然ノ正義トスベカラズ何ナレハ人ノ上帝ニ於ケルノ倫時トシテ同カラザルナク而シテ人ノ現今之ヲ享ケ若クハ來時ニ希望スル所ノ人世ト精神トニ属スル諸物ヲ得ルガ爲メニ必上帝ニ依頼スベキ故ナリ吾每時享ル所ノ慈惠ヲ上帝ニ謝スルハ吾時アリテ驚愕セシメラル、所ノ審判ヲ免レンヲ請フト

均シク當然ノ事タリ

第二 祈禱ノ職務ヲ聖書ニ於テ示スコト

聖書ニ於テ祈禱ハ人ノ上帝ニ於ケルノ倫ト其彼ニ對シテ行フベキ義務ヨリ直ニ出ル所ノ職分ニシテ之ガ爲メニ必シモ誠命ヲ要セザルコトヲ説ケリ而シテ上帝ニ對シテ用弁ルベシト命ゼラル、吾心情ニ於テ欠クベカラザル者ナリ是ヲ以テ其當然ノ義務ト一定セララル、コト自カラ明ナリ然レドモ此職務ニ就キテノ誠命ハ其欠乏ヲ憂ルニ足ズ余此ニ特ニ聖書ノ示教スル所ノ大主意ヲ説ベシ

甲 聖書上明ニ此務ノ當ニ行フベキコトヲ誠命ス曰「祈禱シテ間斷アルベカラス」万物ニ於テ敬謝ノ意ヲ表スベシ此レ汝ノ爲メニ基

督カ有テル上帝ノ志ナレバナリ」万物ニ於テ祈禱懇請ニ依テ汝ノ希望スル所ヲ上帝ニ示スベシ」(使徒保羅ノ非立比人ニ與ル書第四章第六節)「吾レ衆人ノ爲メニ懇請祈禱代祈及感謝ヲ行フヲ勉ム此レ上帝即吾救主ノ見ル所善美ニシテ且適意ナレバナリ」(使徒保羅提摩太ニ與ル前書第二章第一節第三節)

乙 上帝ハ此務ヲ行フニ由テ其慈愛ヲ與フルコトヲ公布セリ故ニ聖書ニ曰「若シ汝ノ中ニ知足ラザル者アレバ當ニ彼ノ譏ラズシテ厚ク衆ニ賜フノ神ニ求ムベシ則必賜フ所アラシ」(使徒雅各ノ書第一章第五節)「求レバ則汝ニ與フ尋レバ則之ニ遇フ門ヲ叩ケバ則汝ノ爲メニ之ヲ啓ク蓋凡求ル者ハ得ルナリ尋ル者ハ遇ナリ門ヲ啓ク者ハ將ニ

啓クヲ得ントスルナリ夫レ汝ノ中ニ孰カ其子餅ヲ求メテ之ニ與ルニ石ヲ以シ或ハ魚ヲ求テ之ニ與ルニ蛇ヲ以テスルアラシヤ汝曹邪惡ト雖モ尙好賜ヲ以テ汝ノ子ニ與フヲ知ル況ヤ汝ノ在天ノ父善物ヲ以テ之ヲ求ル者ニ賜ハザランヤ」(馬太傳福音書第七章第七節ヨリ第十一節ニ至ル)是ニ於テ知ルベシ上帝祈禱ヲ以テ普通ノ職務トシテ教戒スルコト必セルヲ否ラザレバ何ゾ此ノ如キ緊要至當ノ效驗ヲシテ祈禱ニ從テ生ゼシムルアラシ

丙 聖書ハ祈禱ノ習慣ヲ以テ善人惡人ヲ辨シ上帝ノ仇敵ト黨侶トヲ別ツノ資トナス故ニ聖書ニ言フアリ「惡人曰誰カ全能ノ主タル之ニ事ヘテ何ヲ爲シ之ヲ求テ何ノ益アル」(約百紀第二十一章第十五節)

「惡人自ラ誇テ上帝ニ請乞セザルベシ上帝彼レノ心中ニ在ラズ」(詩篇第十章第四節)善人ハ否ラズシテ特ニ上帝ニ請乞スル者ト謂ベシ

丁 聖善上善人ノ祈禱ノ典例ヲ載スル所鮮カラズ聖善ノ多部ハ上帝吾輩ノ以テ準則トナスベキ者ノ祈禱褒賞ヲ記シテ成ル者ナリ之ヲ詳ニセントセバ聖書ノ廣大ノ部分ヲ述ベサルヲ得ズ

戊 知り得ベキ諸種ノ祈禱ニ報ル所ノ應報ノ神ノ記録ニ係ル者聖書中ニ往々之アリ其中ニ一個人ノ自己及他人ノ現世ト靈魂ノ幸福ノ爲メニ祈禱シ或ハ一個人其國民ノ爲メニシ國民其國民ノ爲メニシ一個人社會ノ爲メニシ社會一個人ノ爲メニシ并ニ實ニ諸人其處ル所ノ時勢ニ臨ミ各種ノ倫ニ於テ諸幸福ノ爲メニシテ成功ヲ得タル祈禱ノ

例アリ今上帝此ノ如ク久シク且此ノ如キ諸種ノ方法ヲ以テ吾ヲシテ勉メ行ハシムル者唯ニ特許ノ權ナルノミナラズ亦當然ノ義務タルナリ

概論スレバ此事ニ就テ聖書上ニ人ノ上帝ニ於ケルノ倫ハ其他ノ人物ニ於ケル倫ヨリモ無限ニ近ク且普キコトヲ示シ小兒ノ單心信仰ト無量ノ自由ヲ以テ尽ク吾畏顧ノ念ヲ放テ盡ク吾志欲ヲ示シ盡ク吾感謝ヲ著スヲ許シ此行爲及其由テ出テ而シテ其爲メニ養ハル、所ノ心ハ神ノ感納ヲ得ルコト大ナルヲ確證シ且神已ヲ屈シテ吾カ人世ニ降臨スル此ノ如クナルニ吾徒ニ神ニ對スル直接ニシテ小兒ノ如キ交際ヲ保ツヲナサズ敢テ某ノ事業ヲ企テ或ハ某ノ利益ヲ受クレハ神ハ之ヲ

視テ以テ感謝ノ念ナク傲慢不遜ニシテ罪過アル甚シキ者ト做スナリ
 己 救濟神治ニ因テ殊特ノ勸勵ヲ祈禱ニ附シ因テ以テ假令其欲ス
 ル所ノ幸福ヲ享ルニ足ラザルモ尙救濟者ノ助ヲ乞貸シテ受クヘキヲ
 示ス聖書ニ曰「凡事吾名ヲ以テ神ニ乞ヘバ神之ヲ汝ニ賜フヘシ」（約翰
 福音書第十五
 章第十六節）基督ノ死亡モ亦吾祈禱ヲ信奉スル爲メニ特別ノ地位ヲナ
 シタリト知ルベシ聖書ニ曰「神其子ノ生命ヲ助ケズ之ヲ捨テ、萬民
 ノ爲メニス則彼レ其子ヲ以テ人ニ萬物ヲ與フルニ非ズヤ」（羅馬人
 第三十二節）且榮譽アル救濟者ノ專務ハ吾輩ノ爲メニ上帝ノ前ニ哀請ス
 ルニ在ルノ教アリ而シテ祈禱ヲ勸ムルヨリ大ナル勸勵アルヲ知ル能
 ハズ

第三 祈禱ノ利益

此ヲ指明スル者左ノ如シ

- 甲 上帝ノ性質才能ヨリ之ヲ指明ス上帝ハ吾ガ爲メニ善良ヲラザ
 ル者ヲ一モ吾ニ希望セズ
- 乙 祈禱ノ利益タルコトヲ當然ニ祈禱スルガ爲メニ欠クベカラザ
 ル心情ヨリ認知スルヲ得此心情ノ何タルヤハ余既ニ前ニ説ケリ今此
 心情ヲ用井テ止マザルコト時勢然ラシムルヨリ人タル者ニ莫大ノ裨
 益トナルコト判然ナリ
- 丙 祈禱ノ利益タルコトハ其人ノ慈恵ヲ上帝ヨリ受ルニ相關スル
 ニ由テ亦昭明ナルベシ

(イ) 上帝ノ此世ヲ管理スルヤ原因ト應報或ハ前事ト效驗トノ關係ヲ定成スルコト其欲スル如クナラザルナクシテ此ノ如クナスベキノ十分ノ權理アリ甲ノ事件ハ乙ノ前事ナリト雖モ前事ニ於テ十分ニ其效驗ヲ生ズル權勢アリトノ思想アラズシテ僅ニ上帝ノ此前事ヲ以テ未來ノ效驗ヲ致スノ地位ニ處ラシムルトノ思想アルナリ

(ロ) 今夫レ慈愛ヲ賜フハ一個ノ事件ニシテ上帝此事件ニ先ダナテ其欲スル所ニ從ヒ某ノ前事ヲ著ハスベキノ權理アリ故ニ人某ノ事件ヲ以テ其慈愛ヲ施スコトニ先ダチタル前事ナラズト云フ能ハザルハ猶雨ハ草木ノ生長ニ先ダツ前事ナラズト言フ能ハザルガコトシ

(ハ) 然ラバ某ノ事件ハ必某ノ事件ニ先ダツ前事ナルガ故ニ祈禱ノ

慈愛ヲ賜フニ先ダツ前事ナラズト言フ能ハザルコト猶他事ニ就キテ此ノ如ク言フ能ハザルゴトシ故ニ此前事上帝ノ命ズル所ニ出ヅレバ其善良ナルコト毫モ他ノ前事ニ異ナラザルコト明ナリ

(ニ) 然レドモ上帝ハ修身ノ管理者ニシテ必善良ノ心情アルヲ喜ビ且之ニ報イルベキガ故ニ彼此心情ヲ以テ其慈愛ヲ賜フニ先ダツノ前事タラシムルコト明白ナル道德ノ公義アリ加之彼レ此ノ如クセザレバ人其レ何ニ由テ公正ナル修身ノ管理者タルヲ知ルヲ得ン是ニ由テ之ヲ觀レバ上帝他ノ事情ノ爲メニ與ヘザル福利ヲ以テ祈禱ノ報賞ト爲シテ賜フノ思想ハ嘗ニ上帝自然ノ性質ニ背カザルノミナラズ其道德ノ性質ニ於テモ亦希望スル所ナリ

(ホ) 然レドモ上帝ノ至貴ノ恩恵ヲ賜フハ此事情アルニ由ルヲ自ラ指明シ且己ニ號泣哀請スル者ニ大ニ報賞スベキ約ヲ守ルヲ盟ヒシガ故ニ祈禱ノ利益ノ人タル者ノ爲メニ一時トナク永世トナク必要ニシテ暫モ廢スベカラザルユト瞭然タリ

丁 最後ニ曰上帝ノ善良ナルヲ示スハ此ノ如クニ設爲セル憲法ヨリ明確ナル者アルナシ上帝ハ祈禱ニ報イルニ慈愛ヲ以テスルヲ約シ而シテ吾知ル所ノ如ク祈禱ハ吾道德ノ完好即無上ノ幸福ヲ増スガ爲メニ有用ノ方法ナリ之ヲ解シテ曰上帝ハ人ノ欲スル所ノ至大幸福ヲ包有スル事情ニ報イテ慈恵ヲ賜フヲ約セリ監牧師韋爾遜ノ論スル所絶妙ト謂ヘシ曰「人ノ祈禱スル所ノ者ヲ賜フノミナラズ彼レノ所ニ

往クノ前ニ吾所願ヲ陳ル者ニ報賞スル上帝ノ善良ハ果シテ如何」

然レドモ人ノ願フ所ノ者ハ願ノ如クニ受クベシト通論シ難シ特ニ其禱求スル所ノ者然ルノ一邊ニ就キテ之ヲ言フノミ抑眞實ノ祈禱タルヤ全ク上帝ノ心志ニ服從シテ其願フ所ヲ申訴シ之ヲ詳言スレバ上帝其無盡ノ智慧ト善良トヲ以テ人ノ願フ所ヲ見テ以テ至善ナリトナセバ之ヲ成就センユトヲ請フヲ言ナリ故ニ今此ノ如クニ請フ者ハ吾禱求スル所許サルベシ何ナレバ上帝ハ人ニ約スルニ此ノ如クスルヲ以テスレバナリ故ニ現世ノ幸福ヲ得ルガ爲メニ禱請スレバ僅ニ時ヲ限リ乃當今ノ景況ニ處シテ之ヲ受ルナリ然ルニ精神ノ幸福ヲ得ルガ爲ニ祈禱スレバ無限ノ報賞ヲ受ク何ナレバ上帝之ヲ請フ者ニ其神聖ノ

精神ヲ與フルヲ明約スレバナリ上帝人ニ許スニ人神ノ最親切無彊ノ
 交際ヲ有ツヲ以テシ且眞實ノ祈禱ヲ行フニ因リ其力ヲ以テ人ヲ助ケ
 其智ヲ以テ之ヲ教ヘ其精神ヲ以テ之ヲ純潔ニシ且人ノ未來無上ノ幸
 福ヲ致ス爲メノ準備ヲナスニ至良ナリトスル所ノ心情ハ人ノ爲メニ
 之ヲ製造スルヲ約セシトキハ則祈禱ヲ以テ在世ノ務トナス此ヨリ貴
 ク且愛スベキ者アルナシ而シテ思ナク慮ナク恭敬ノ念ナクシテ生存
 スルヨリモ多罪ナル者アラズ是レ以テ不斷ノ祈禱ヲ行ハズシテ唯在
 世ノ一事ヲ以テ上帝ノ親愛ヲ得ザルコト常ニ人ノ神ニ對シテ保ツベ
 キノ義務ヲ害シテ世ニ生ズルコト及爲メニ上帝ノ嚴罰ヲ受ルコトノ
 明證トナスベシ

○第四篇 安息日ヲ守ルコト

安息日ヲ守ルハ吾當然ノ心情ヲ修ルガ爲メニ上帝ノ所命ニ係ル第二
 件ノ特殊ノ方法ナリ此ニ第一安息日ノ根原ノ定規第二摩西ノ安息日
 ノ定規第三基督ノ安息日ノ定規ヲ論述スベシ

安息日ヲ守ルハ明白ナル定規ナリ故ニ之ヲ守ルベキノ確證ヲ得ンニ
 ハ宜シク天啓ニ從テ求ムベシト雖モ然レドモ閑暇時間ノ人ト禽獸ト
 ノ爲メニ欠クベカラサルノ示教ハ亦現世人物受ル所ノ氣質然ラシム
 ル者ヨリ自得スルアリ暮夜ノ去來シテ休息セザルコト熟睡安眠ノ必
 要ナルコト以テ安息休暇ノ勉強努力ト同シク人生ニ欠クベカラザル
 者タルノ理アルヲ示スニ足レリ加之牛羊ヲシテ七日間ニ一日ノ安息

ヲ得セシメバ休息セズシテ日々勞力スル者ヨリハ長生シ且健康ヲ有ツコトヲ容易ニ知ルベシ人事ニ於ケルモ亦太相似タリ近頃物故セシ非ルベルフオルス氏ハ長生ヲ保チ同時代ニ專ラ政務ニ從事セシ僚友ニ勝リタル健康ヲ得シ所以ハ他ニアラズ專ラ吾ガ純潔不易ノ心ヲ以テ安息日ノ禮ヲ行ヒシニ是レ由レリ他ハ不幸ニシテ屢怠慢シテ之ヲ勉メザルニ在リト云ヘリ

吾レ安息日ノ禮ニ就キテ詳述スル所アラント欲スレドモ本書卷帙限アリテ能ハズ故ニ特ニ其成功ト見ヘル者ノミヲ説クベシ若シ必之ヲ講究セント欲スル者ハ宜シクシ、シー、グ、ア、チ、ー、氏安息日ノ史記威權及所用ヲ説キシ有名ノ書ニ資シテ之ヲ求ムベシ吾本章ノ論説モ多

ク此書ヨリ拔萃シ來ル所ナリ

第一 安息日ノ根元ノ定規ヲ論ズ

(一) 安息日ノ定規ニ神聖ナル威權アルコト創世記第二章第一節ヨリ第三節ニ至ルヲ見テ知ルベシ曰天地萬物既ニ成リ七日ニシテ上帝工竣ル乃憩息ス是日上帝其事ヲ畢リテ安息ス故ニ第七日ヲ以テ聖日トナシテ休暇ヲ賜フ

今此文ニ因テ余ノ所見ヲ記スル左ノ如シ

甲 此日ヲ以テ吾首初ノ父母ニ與フ乃吾全部人類ニ賜與セリ

乙 上帝此日ニ幸福ヲ與フ乃此日ニ於テ特異ノ幸福ヲ賜ヒ此日ヲシテ人ノ特異ノ幸福ヲ得ルノ基タラシム蓋上帝人ノ爲メニ道德公義

ヲ修メ且其天福ヲ受ルノ豫備ヲ爲スガ爲メニ此日ヲ與フルコト眞確ニシテ疑ヲ容レズ彼レ此日ヲ以テ神聖トナシ尋常平事ニ之ヲ用ヰズシテ神聖教法ノ爲メニ之ヲ用ヰルナリ

丙 上帝ノ安息日ニ休息スル所以ノ理一般ニ行ハル是レ上帝之ヲ一個人ニ示スニ非ズシテ萬民ノ爲メニ掲テ以テ典禮トナスヲ見ルベシ

丁 上帝第七日ヲ以テ神聖トナスノ法一般ニ行ハル、者ハ是一個人ノ爲メニ然ルニアラズシテ即此日ノ爲メニ然ルナリ

戊 遂グベキノ目的ハ皆同然トシテ彼ニ用ヰテ此ニ用ヰラレザルナシ故ニ目的安息ニアレバ自他皆安息ヲ要シ目的道德ヲ修好ニアレ

バ彼我共ニ此方法ヲ用ヰテ己ヲ善良ニセザレバ世ニ存スル能ハズ

(二) 摩西ノ在世以前ニ教會ノ長老時日ヲ七日ニ分ツコトニ注意シ而シテ安息日ヲ以テ教法ヲ信奉スル日トナセシヲ示ス者アリ

(イ) 創世記第四章第三節ニ曰「他日メイル誤隠土ノ産スル所ノ者ヲ携テ主ヲ祭ル」ト此他日ノ語ハ實ニ日ノ終或ハ日盡クルトキ之ヲ詳言スレバ一部ノ日ノ末即一週日ノ終ニ於テノ義アリ此レ果シテ此ノ如キ意義アレバ則前文ニ示メス所ノ時日ヲ分テ而シテ其最後ノ日ヲ以テ教法ヲ信奉スルニ用ヰルハ上古ヨリ然ルコト明ナリ

(ロ) 那亞ノアモ同シク時日ヲ一週ニ分ツヲ知ル者ニ似タリ乃洪水ノ來ル前七日ニ於テ方舟ニ乗ルベキノ命ヲ受ケタリ(創世記第七章第四

節ヨリ第十節ニ至ル)故ニ彼レ鳩ヲ遣ル時日ノ間ニ七日經過スルニ任セリ(創世記第七章第十節ヨリ第十二節ニ至ル)今吾思フニ此暗告ニ由テ此時日ノ區別ハ根原ノ命ニ從テ注意セラル、コトヲ示シ且此區別ト共ニ教法ヲ信ズルガ爲メノ某ノ時間并合スルヲ知ルベシ故ニシヨセフ亦七日即全一週日ヲ以テ其父ノ爲メニ哀哭セリ

(ハ) イスラエル以色列ノ族埃及ヲ去リ荒野ニマンナ藥名ヲ食テ生ヲ保チントキヨリ久カラザル後ニ安息日ニ就テノ事ヲ語りシ事アリ(埃及ヲ出ルノ記第十四章第二十二節第三十節ニ至ル)此文甚長ニ過グ故ニ之ヲ記スルヲ要セズシテ姑ク吾所見ヲ陳ルコト左ノ如シ

(イ) 此事ヤ法ノ賜與セラル、前ニ在リ故ニ安息日ヲ守ルベキコト

ハ摩西ノ法ニ依ラズシテ此事ニ由テ認知セラル、ナリ

(ロ) 初僅ニ暗示スレバ則此事容易ニ人ノ知ル所トナルナリ蓋シ初上帝安息日ナル者ヲ示サズシテ摩西ニ教フルニ第六日ニ方タリ以色列ノ族他日ヨリ一倍多クマンナヲ刈ルベキヲ以テセシニ由テ知ルベシ而シテ思フニ此族ハ應ニ此區別アル所以ヲ知ルベシ當時全部ノ記録申安息日ヲ守ル爲メノ示教アルコトナシト雖モ以色列ノ徒ノ當然ニ之ヲ守ラザルヲ以テ譴責セラル、ヲ見レバ之ヲ守ルコト恰モ其熟知スベキ定規ナルガ如ク然リ

其他上古ノ經典中ニ希臘斯及羅馬人ノ時間ヲ七日ニ分ツニ注意セシコト并ニ第七日ハ殊ニ神聖ノ用タリト思考セラル、コトヲ示ス所往

々之アリ蓋ヘシオドノ時ニ於テ然ルコトアリ且吾祖先ノ出ル所ノ北
部歐羅巴ノ人民ニモ此ノ如キ事アリシ自然ニ此事ニ基キ來リタル思
料功ヲ成スニ及デ全部ノ人類安息日ヲ守ルノ定規ヲ認知シ且累世諸
種ノ人民謹慎ヲ加ヘ以テ各種ノ歴代史書ノ始テ編制セラル、時代ニ
至ルマデ之ヲ傳授スルニ至レリ

是ニ於テ余一斷案ヲ下シテ曰第七日即一般ニ言フ時ノ第七分ハ固ヨ
リ上帝ノ吾人ノ教法ヲ奉ズル目的ノ爲メニ備フル者ニシテ法ノ授與
アル前ニ於テ希伯來ノ徒既ニ之ヲ知り且吾人類ノ未繁殖セザル太古
ニ於テ普通ニ其然ルコトヲ知リシコト疑ナシ

第二 摩西ノ安息日

法ノ授與セララル、時ニ當リテ安息日ニ注意スルコトノ示教下文ノ如
シ曰「當ニ安息日ヲ以テ聖日トナシ永記シテ忘ル勿ルベシ六日ノ間
宜シク操作スベシ第七日ハ即上帝ノ安息日ナリ是日汝子女僕婢牲畜
及遠人汝ノ家ニ宿スル者皆操作スル勿レ蓋シ六日間ニ主天地萬物ヲ
造リ七日ニシテ止ム故ニ主安息日ヲ以テ聖日トナシテ休暇ヲ賜フ」
創世記第二十章第九節第十一節ニ至ルヲ見ルベシ

今此示教ニ就キテ爲メニ說與スベキ者少カラズ

甲 安息日ヲ守ルノ示教上帝ノ十誡中ニ蓄シ而シテ十誡ハ上帝ノ
人ニ示ス修身教ヲ總括セルヲ聖書上毎ニ說ケリ救主基督及其徒弟道
徳ヲ守ルコト、禮義ヲ尊ブコトノ別ヲ辨ズル分明ナリト雖モ神命十

誠ニ至リテハ唯不朽普通ニ遵奉スベキ務ナリト説クアルノミ抑神命十誠皆此レ修身ノ教トシテ基督并ニ其徒弟ノ揭示スルコト人皆間然スルナケレバ則其中獨安息日ヲ守ルコトノミヲ以テ禮義ノ教ナリト思考スルノ理毫モ之アルナシ基督又曰「安息日ハ人ノ爲メニ設ケラルト乃全部人類ノ爲メニ設ケラル、ナリ故ニ此日ヲ守ルコト全部人類ニ關係シ世間普通ニ勉メ行フベキノ教タリ

乙 安息日ヲ守ルカ爲メニ附與セラレシ理ハ安息日ノ首初ノ定規ノ時ニ附與セララル、ノ理ニ異ナラス苟モ此理自然ニ普通ノ者タラバ宜シク安息日ヲ守ルコト普通ノ務タルヲ確定スベシ

丙 此誠命ハ人ノ貴重ナル修身ノ一務タリト豫言者屢之ヲ説キ而

シテ之ヲ怠ル者ヲ懲スニ嚴罰ヲ以テシ之ヲ勉ル者ニ許スニ大賞ヲ以テセリ以賽亞ノ書第十六章第二節ヨリ第六節ニ至ル耶利米ノ書第十七章第二十四節第二十五節尼希米ノ書第十三章第十五節第二十一節ヲ見ルヘシ

丁 工業ヲ作サズシテ休息スルノ外ニ各自會シテ神ヲ拜シ且聖書ヲ讀ムコト安息日ノ一務ナリ六日ニ於テ工業ヲ行フベシ第七日ハ休暇ノ安息日ニシテ神聖ノ集會日ナリリヒトキニス（利未ノ記第二十三章第二節）蓋シ古ヨリ以來摩西ノ書各邑之ヲ宣ブル者アリ安息日毎ニ會堂ニ於テ之ヲ讀ム（使徒行傳第十五章第二十一節）安息日ニ行フヘキ再定典例ノ外ニ摩西ノ法ニ於テ安息日ヲ守ルニ特ニ増加スル者數件アリ此皆

猶太人ノミニ属シテ其民法禮法ノ一部トス此目的ヲ以テ此日ヲ守ル
爲メノ他ノ道理ヲ與ヘ且他ノ禮式ヲ加ヘラル、ナリ其例ヲ掲グル左
ノ如シ

甲 安息日ヲ守ルヲ以テ猶太人ト其四隣ノ人民ヲ別ツテ欲セリ（
創世記第三十一章第十二節ヨリ第十七節ニ至ル）

乙 之ヲ以テ猶太人埃及ヨリ救ヒ出サル、ノ標號トセリ（申命記
第五章第五節）

丙 此目的ヲ以テ時ノ第七部ヲ守ルノ理更ニ大ニ年ニ及ボン毎七
年ヲ以テ休暇ノ年トセリ

丁 安息日ヲ犯ス者官吏ノ爲メニ死ニ處セラレタリ

凡事其質タル特別ニシテ某ノ企圖ノ爲メニ設ケラレシ者必此企圖ヲ
遂グルノ後ニ絶テ復存セザルナリ故ニ安息日ニ行ハレシ人文ト儀式
ノ禮ハ猶太ノ管治滅スルニ從テ絶ユルト雖モ脩身ト共ニ普通ノ禮ニ
シテ獨猶太人ノ爲メノミナラズ凡ソ人タル者ノ爲メニ設ケシ者ニ至
リテハ依然ト存シテ恰モ儀式ノ禮毫モ存セザリシ者ノ如シ吾思フニ
此ノ如キ所見ハ基督ノ典例ト示教ノ爲メニ證明セラル、所ニシテ彼
レ安息日ヲ守ルベキ方法ニ就キテ訓導ヲ與ヘ且彼自ラ亦常ニ安息日
ヲ以テ教法ヲ信奉スル爲メノ日トナセリ聖書ニ曰「耶蘇其常例ニ循
ヒ猶太ノ會堂ニ入り讀マント欲シテ立ツ」（路加傳福音書第四章第十
六節）

第三 基督ノ安息日

此ニ基督ノ安息日ヲ守ル日ト之ヲ守ル方法ヲ論ズベシ

(壹) 基督ノ安息日ヲ守ル日

(一) 七曜ノ第一日ノ新神治以來殊ニ尊奉セララル、コトハ此日ニ生
ゼシ事實ニ由テ指示セララル、ナリ

甲 救主既ニ救世ノ業ヲ卒リテ此日ニ再生セリ

乙 此日即其再生後一周日ニ於テ使徒ノ目前ニ現シ其時ト一マス
ト談話セリ

丙 此日ニ於テ亦ペンテコストノ節會ヲ設ク時ニ神此ノ如ク著明
ニ現シ而シテ新神治實ニ始マルナリ

(二) 使徒在世ノ時ニ生ズル始初ノ耶穌教徒此日ヲ以テ一周禮拜ヲ

行フノ日トセシコト新約全書及上古ノ史冊中ニ昭然タリ

甲 始初ノ門徒必禮拜シ且主ノ晚餐ヲ祭ル爲メニ集會セシコト使
徒保羅ノ哥林多人ニ達スル第一書第十六章第一第二節ヲ見テ知ルベ
シ

乙 此集會ヲ一周ノ第七日ニ設ルコトノ他ノ明證ハ使徒行狀第二
十章第六節ヨリ第十二節ニ至ルニ於テ之ヲ得ベシ曰「一周ノ第一日
ニ於テ耶穌教徒トロアスニ集會シテ餅ヲ割ク乃主ノ晚餐ノ禮ヲ行ヒ
且教法ノ訓導ヲ受ケリト」是文ニ據ンバ此風習ノ行ハル、ハ管ジエ
ルサルムノ隣國中ノミナラス耶穌教ノ弘マリシ土地ハ到ル處皆既ニ

然ルコト明ナリ

丙 且又(黙示ノ第一章第十節ヲ見レバ)約翰モ安息日ヲ守レリ曰「吾レ主ノ日ニ於テ神明ニアリ」ト以テ約翰非常ノ嚴敬ヲ以テ是日ヲ守リシコト知ルベシ且此日特別ノ名(後世永ク此日ヲ舊ハスニ用井ル名)ヲ得シコト明確ナリ

此日ニ就テ新約全書ヨリ得タル示教ノ外ニ神ニ通ゼザル歴史家ノ證明スル所ノ者鮮カラズ

甲 古昔ノ父祖常ニ此日ハ教法ヲ信奉スルガ爲メニ設ケラル、コトヲ説キ且此日ヲ守ルト第七日即猶太ノ安息日ヲ守ルトノ別ハ專ラ此日ハ救主基督ノ再生日タル所以ニ在ルコトヲ示セリ

乙 在昔羅馬人プリニ其帝トラジャンニ呈スル書ニ曰「耶蘇教徒常ニ定日ニ於テ日出前ニ會シ耶蘇ノ爲メニ聖詩ヲ復誦スル猶神ノ爲メニスルガゴトクシテ神聖ノ務ニ服從シテ不善ヲ行ハズ竊盜セズ姦淫セズ且其許諾セシコトヲ變ゼズ担当セシコトヲ辭セザルヲ約シ

而シテ罷メ去リ後又燕會ヲ設ケテ和同歡樂セリ」ト是ニ於テカ安息日ヲ守ルコトニ就キテ異教徒ノ官吏ノ記スル所ト新約全書ニ記スル所正ニ符合シテ相背カザルヲ知ルベシ

丙 此定日タルハ一周日ノ第一日ハ即主ノ日ナルコトヲ證スルニ他ノ憑據アリ上古ノ耶蘇教徒此日ヲ守ルノ風習アルコト明ナルニ至リテハ耶蘇教ノ爲メニ命ヲ致ス者ニ向テ汝主ノ日ヲ守リシヤト問ハ

ヲ毎ニ答テ吾ハ耶蘇教徒ナリ故ニ之ヲ守ラザル能ハズト云ヘリ
 丁 然レドモ猶太ノ徒ノ摩西ノ禮式ト蘇耶教トヲ混淆スル甚シキ
 者初メ第七日ヲ守レリ或ハ更ニ明確ナルニ至リテハ初メ兩日(即一
 周ノ第一日ト第七日)ヲ守リシコト論ヲ待タズ然ルニ使徒宣言シテ
 猶太ノ徒弟第七日ヲ守ルコトヲ禁ゼリ(保羅ガ哥羅西人ニ達スル書
 第二章第六節第十七節)今夫レ安息日ヲ守ルハ全部ノ人類ニ附與セ
 ラレシ示教ニシテ其修身ノ示教タルコトヲ摩西ノ法ニ於テ反復布告
 シ此示教ノ威權アルコト耶蘇及其使徒ノ訓誨ト典例トノ認メテ當然
 トナシ且使徒第七日ヲ守ルベカラズト宣言シ而シテ第一日ヲ以テ教
 ナ奉スルノ日トシテ守ル故ニ吾レ定斷シテ彼等我ニ示スニ耶蘇宗徒

タル者皆第一日ヲ守ルベキヲ以テスト言フモ不可ナル所ナシ

戊 此思考ニ基ツテハ通神ノ使徒ハ一周ノ第一日ヲ以テ基督ノ安
 息日トシテ實ニ之ヲ守リシト抗言スルモ亦應ニ妨ナカルベシ使徒典
 例ヲ掲ゲテ此日ヲ守ルコト上帝ノ感納スル所ナルヲ示ス者少ナカラ
 ズ故ニ人皆安息日トシテ之ヲ守ルヲ禁ズル者ナシ然レドモ某人此理
 ニ服セズシテ宜シク第七日ヲ守ルベシト爲サバ吾モ亦之ヲ奈何スル
 能ハズ而シテ上帝ノ言語ニ於テ之ヲ禁ズルアルヲ見ズ
 己 然レドモ兩日共ニ之ヲ守ルモ不可ナシ乃其孰レヲ守ルモ皆能
 ク上帝ノ感納ヲ受クレバ何ヲ擇ミテ尤可ナルヤト問ヘバ之ニ答テ曰
 第一日ヲ守ルニ因テ更ニ十分ナル閑暇ヲ得而シテ更ニ妨害ヲ受クル

少ナキヲ得加之此日ヲ守ルベキコトヲ保證スルガ爲メニ通神ノ使徒ノ典例ヲ見レバ則吾レ第一日ヲ撰ビ守リテ復疑ハザルベシ且吾レ第一日ヲ守ルヲ以テ當然ノ務トセザルベカラズ何ナレバ吾レ何日ニ於テ上帝ヲ拜スルモ不可ナルナシト雖モ其本分タルハ某日ニ於テ上帝ヲ信奉スルニ在リ某日トハ爲メニ日ヲ設クルノ目的ヲ最好ク遂得ルノ日ヲ謂フナリ何ツカ當ニ此日ヲ始ムベキヤト問フ者アラバ吾答テ更ニ妨碍少ナキヲ以テ安息日ノ恬靜ヲ受ルガ爲メニ他ノ日ヲ始ムルト同時ニ此日ヲ始メテ不可ナルナシト云ハシノミ

(貳) 基督ノ安息日ヲ守ル方法ヲ論ス

安息日ヲ定ムルノ主意ハ上帝ニ對シテ不斷ノ信奉ヲ盡シ吾靈魂ヲシ

テ永遠安寧ナラシムルノ準備ヲナスガ爲ニ吾時日ノ一分ヲ用井且人ト禽獸ノ勞力ヲ停メテ休息スルカ爲メノ時間トナシテ七日ノ一日ヲ保ツニアルナリ

故ニ安息日ノ法ノ禁ズル所左ノ如シ

甲 上帝ヲ信奉シ或ハ吾教法上ノ改良ヲ進ムルガ爲メニ非ズシテ身体及心思ヲ勞スルヲ禁ズ但シ此規則ノ限外ニシテ必シモ禁ゼザル者僅ニアリ乃止ヲ得ザルニ出デ或ハ慈惠ノ念ニ由テ勞力ヲ行フコト是ナリ然レドモ止ムヲ得ザルコト、ハ上天ノ然ラシムル所ノ者ヲ言フノミニシテ吾自己ノ意志ノ然ラシムル者ヲ謂フニ非ス故ニ譬バ方ニ航海スルノ際ニ當リテ安息日ニ逢ヘバ停メスシテ走行スルモ規則

ヲ犯スノ責ナキコト猶他日ニ於ケルゴトシ然レドモ安息日ニ於テ新ニ投錨開帆スレバ規則ヲ犯スヲ免レズ何ナレバ航長タル者此日ニ於テセズシテ他日ヲ撰ムノ權ナキニアラザレバナリ

乙 歡樂ヲ逞クシ身体ヲ樂マシメ若クハ心志或ハ唯知識ノ歡娛ヲ遂グルヲ禁ズ故ニ譬バ自由安穩ニ神靈ノ默想ヲ設クルコトヲ妨グルホドノ方法ニテ吾嗜欲ヲ逞クシ歡樂ノ爲メニ舟車ニ乘リ或ハ旅行シ民事俗務ノ爲メニ集會シ情欲若クハ虛想ヲ慰ムルガ爲メニ作りシ書籍ヲ讀ム等皆神明ノ理ニ因テ禁ズル所ナリ

丙 主人ノ使役ヲ受ル者其工業ヲ行フヲ禁ズ

(イ) 婢僕ノ工勞ヲ禁ズ婢僕ノ靈魂ノ貴キコト主人ノ靈魂ニ異ナラ

ス婢僕ノ此規則ニ從テ己ヲ利スルヲ要スルコト猶主人ノ然ルガ如シ且彼等時間ノ此部分ヲ以テ神ニ事フルニ供スルガ故ニ主人モ之ヲ買フノ權ナク婢僕モ之ヲ賣ルノ權ナシ此日ニ於テ止ムヲ得ザルノ工業ヲ行フハ固ヨリ禁ズル所ニアラズト雖モ宜シク此日ヲ設クルノ目的旨趣ニ就キテ良心ヨリ出ル意見ノ定成セル制限内ニ於テ之ヲ行フベシ

(ロ) 禽獸ハ第四條ノ神命ノ令スル所ニ由テ萬種ノ動物ヲシテ休息セシムル所ノ法律ノ外ニ出ル能ハズ只法ノ許ス所ノ安息ヲ求メテ其分ニ應ズル者ヲ享得ルナリ

安息日ノ法ニ於テ禁ゼザルノミナラズシテ更ニ命スルニ此日ヲ用井

テ一層端嚴ニシテ直接ニ教法ノ職務ヲ行フコトヲ以テス

(イ) 聖書ヲ讀ミ教法ノ默想ヲ行ヒ獨自ヲ祈禱シ殊ニ吾使役ヲ受ル者ニ教法ヲ導クコトヲ命ジ且爲メニ此職務ニ適スル方法ヲ以テ家事ヲ辨理スルヲ命ズ

(ロ) 社會ノ拜禮ヲ行フヲ命ズ摩西ト基督ノ法命 法命原語ヂスペンセーショント云フ上帝ヨリ摩西ニ命ジ、禮式道理約束ノ法ヲ摩西ノ法 命ト云ヒ其基督ニ命ジ、モノヲ基督ノ法命トイフアルヨリ以來此事安息日ノ要務ノ一部トナレリ一日ヲ以テ某ノ用ト定ムルニ衆人普ク注意スルコト實ニ社會ト一己ノ教法ヲ守ルノ意思ニ出ルガ故ニ此意思ノ勸ル所ニシテ最明瞭ナル義務ノ一ハ社會ノ拜禮ニ在リ社會ノ拜禮トハ衆人社ヲ結ヒ相會シテ黨類ノ受ケシ慈恵ヲ神ニ謝シ黨類ノ

罪過ヲ宥スヲ請ヒ且黨類ノ爲メニ欠クベカラザルコト猶一己ノ爲メ

ニ欠クベカラザルガ如キ幸福ヲ賜ハンコトヲ言フナリ

教法ヲ信ズルノ念ヨリ安息日ヲ守ルノ緊要ナルコトヲ十分ニ熟察スル者アル希ナリ彼ノ少年タル者修身ヲ勉メズシテ邪曲ヲ犯スノ始ハ安息日ヲ廢慢シテ守ラザルニ在ルコト少シク意ヲ注スレバ以テ之ヲ知ルベシ年少ニシテ只管上帝ヲ恐懼スルノ習慣ヲ成シ安息日ニ(此日ノ務ヲ行ハズシテ)專ラ遊遊燕樂ヲ事トスル者ニ對シテハ此教法ノ禁制行ハレ難ク又其社會ニシテ此ノ如キ弊風アル者ニモ亦然リ凡ソ人安息日ヲ廢慢スレバ刑法ノ禁ズル所ヲ犯シ或ハ盤樂怠傲シ口腹耳目ノ欲ヲ縱ニスルノ弊ヤ終ニ黨類ト幸福ト人民ノ榮利ヲシテ全ク

亡滅ニ歸セシムベシ是ニ於テカ父母タル者立法者タル者宜シク此事ニ丁寧注意スベキコト固ヨリ知ルベシ家族ノ長タル者上帝ノ命ヲ奉シテ甞ニ吾レ自ラ安息日ヲ守ルノミナラズ更ニ百方盡力シテ其使役ヲ受ル者ヲシテ皆然ラシムルヲ勉ムベシ其功ヲ成スニ及デハ自己ノ幸福ヲ増スニ止ラズシテ又其子女ノ安榮ヲ益ス何ナレハ邪惡ノ誘惑ニ克チ且少年ノ中心ニ上帝ノ存在ト其性質ヲ銘セント欲セバ唯端肅ニ安息日ヲ守ルノ外良法ナケレバナリ立法者ニ至リテモ亦同シ或ハ法律ヲ設ケ若クハ典例ヲ示シ以テ人民ヲシテ上帝ノ用ニ供スルガ爲メニ存スル所ノ此日ニ於テ有ツベキ敬神ノ念ヲ減ゼシムル者ハ豈能ク其任ニ堪フル者ト謂フベケンヤ

此ニ尙一件ノ疑問アリ曰官吏タル者安息日ヲ守ルヲ強フルノ義務アルヤ

答テ曰吾レ此ノ如ク思フ能ハズ其理左ノ如シ

甲 安息日ヲ守ルノ務ハ人ノ神ニ對スルノ倫ヨリ生ズ而シテ人ノ人ニ對スルノ倫ヨリ生ズルニアラズ故ニ今人ノ神ニ對スル務ハ人造ノ律法ノ得テ管制スル處ニアラズ

乙 若シ官府此神ニ對スルノ務ヲ審斷スルノ權アレバ亦必他ノ萬事ヲ審斷スルノ權アリ彼レ此務ヲ審斷スルノ權アレバ則某ノ方法ニ依テ此務ヲ行フベシト命ズルノ權アリ或ハ當然ト認做セバ人民ニ禁シテ此務ヲ行ハザラシムルノ權アリ彼レ此權ヲ有テバ遂ニ直ニ良心

ノ自主ヲ妨碍スルニ至ルベシ

丙 安息日ヲ守ルハ修身ノ務ナルガ故ニ適意ニ之ヲ守レバ此レ甘シテ自ラ行フノ務ナリ然レドモ官府唯人ヲシテ外部ノ教戒ニ從ハシムルノ外ニ毫モ成ス能ハズ而シテ外部ノ教戒ニ從フテ以テ決シテ安息日ヲ守ルト謂フベカラズ故ニ安息日ヲ守ルヲ勸ムルコトヲ官吏ニ任ズレハ終ニ良心ヲ管理スルノ權ヲ彼ニ委スルヲ免レズシテ之ヲ委スルノ目的モ亦且遂ル能ハザルニ至ラン

丁 然レドモ衆人ヲ保護シ其好ム處ニ從テ上帝ヲ禮拜スルノ權利ヲ失ハザラシムルコト官吏ノ務ニシテ人各此保護ヲ要求スルノ權アリ而シテ社會ハ之ヲ廣張スルノ責ニ任ズ且此日ヤ休暇ノ日ニシテ惰

慢ノ徒之ニ乘シテ不良ヲ行フモ測リ難シ故ニ官府ハ衆人度外ノ遊傲ヲ警メテ爲メニ社會ノ平安ヲ害スルヲ防グノ權アリ彼レ他ノ休暇遊娛ノ日ニ於テ此權ヲ有ツコト法ノ認テ當然トナス所ナリ則安息日ヲ限リテ特ニ之ヲ行ハザルノ理ナシ

戊 其結局ニ曰安息日ノ法ハ社會ト一個人ヲ論ゼズ均シク用井ルベキ者ニシテ一個人安息日ニ於テ勞力シ或ハ他人ヲシテ其勞力ニ代ハラシムルヲ禁ズ此法ノ一個人ノ集合セル社會ニ行ハル、ニ方リテモ亦此ニ異ナラズシテ社會モ亦他人ヲシテ己ニ代リテ勞力セシムルヲ禁ズ俱已ヲ得ザルニ出デ或ハ仁愛ヲ行フガ爲メニ勞力セシムルハ此限ニアラズトス

久保吉人 校

威氏脩身學上冊畢

正誤

葉數	行數	誤	訂
一七九	三	注意セ。スシテ	注意シテ
二二六	四	意着。	着意。
二二八	四	自主	救主
二二四	三	沈倫。	沈淪。
二四〇	五	相敵。	相適。
二八一	一及五	恩欲	思欲
三〇八	二	公議。	公義。
三五九	一〇	黨類ト。	黨類ノ。